

男女共同参画に関する市民意識調査
及び事業所意識調査

結果報告書

平成23年3月
高梁市

調査実施の概要

1. 意識調査の趣旨

この調査は、高梁市における男女共同参画推進の基本方針となる「高梁市男女共同参画基本計画」の改訂及び推進のための具体的な施策を検討するための基礎資料とするために市民及び市内事業所に対して調査を行った。

2. 調査の対象

(1) 市民意識調査

調査地域	高梁市全域
調査対象	市内に住む満20歳以上の男女1,000人
抽出方法	住民基本台帳より2階層(性別・年齢別)無作為抽出
調査方法	郵送配布 - 郵送回収
調査時期	平成22年12月～平成23年1月

(2) 事業所意識調査

調査地域	高梁市全域
調査対象	正規従業者数が概ね10名以上の市内事業所187社 (H18年事業所・企業統計調査結果による)
調査方法	郵送配布 - 郵送回収
調査時期	平成22年12月～平成23年1月

3. 有効回収数

(1) 市民意識調査

標本数(率)	1,000
有効回収数(率)	434(43.4%)男性 206(47.5%) 女性 228(52.5%)

(2) 事業所意識調査

標本数(率)	187
有効回収数(率)	95(50.8%)

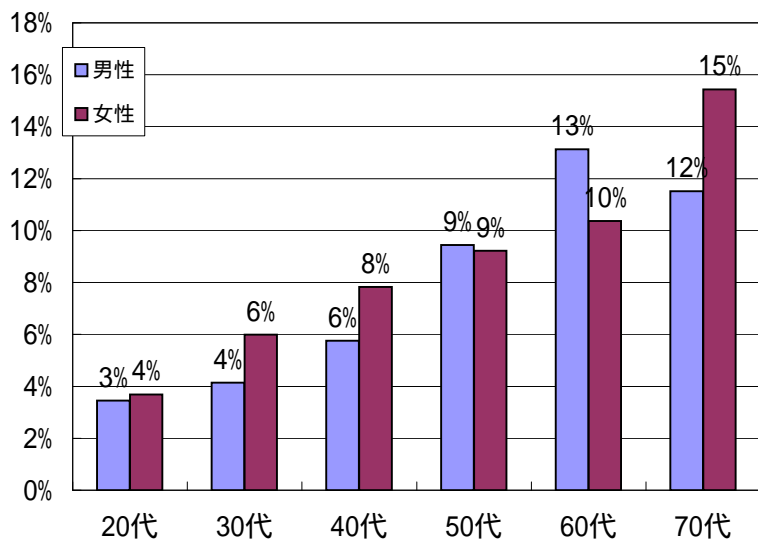
4. 報告書の見方

- (1) 集計は小数点未満を四捨五入して算出した。したがって、比率の数値の合計が100%ちょうどにならない場合がある。
- (2) 回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。

(1)市民意識調査

調査対象者の属性

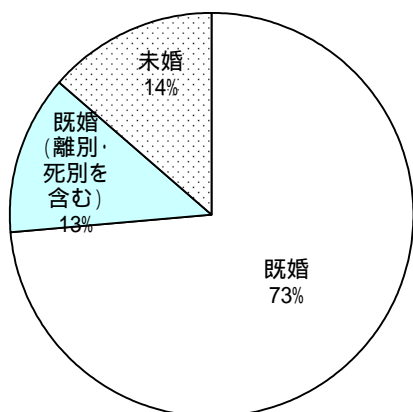
(1) 年齢層別男女比



単位：人

	男性	女性
20代	15	16
30代	18	26
40代	25	34
50代	41	40
60代	57	45
70代	50	67
小計	206	228
合計	434	

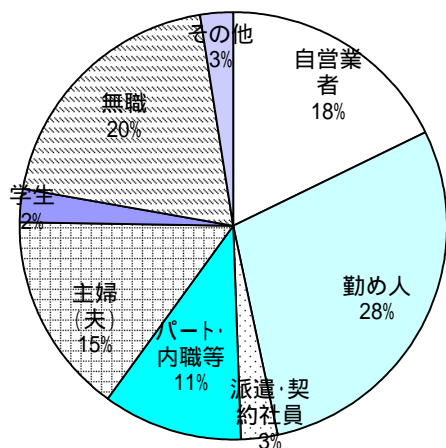
(2) 未婚・既婚の別について



単位：人

既婚	320
離別・死別	55
未婚	59
合計	434

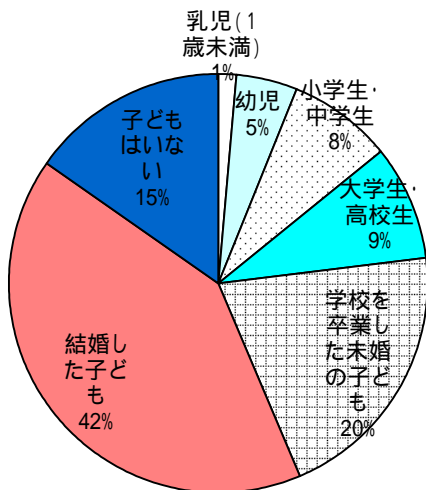
(3) 職業について



単位：人

自営業者	77
勤め人	125
派遣・契約社員	12
パート・内職等	46
主婦(夫)	67
学生	10
無職	86
その他	11
合計	434

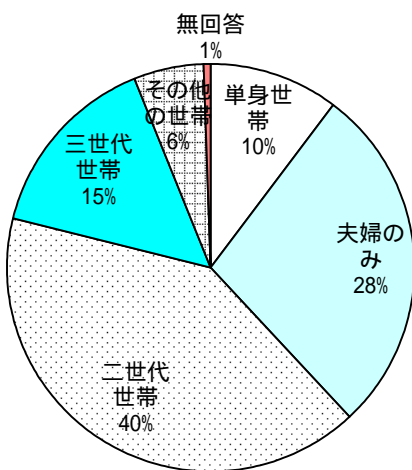
(4) 子どもの有無について



単位：人

乳児(1歳未満)	7
幼児	26
小学生・中学生	44
大学生・高校生	48
学校を卒業した未婚の子ども	110
結婚した子ども	221
子どもはいない	83

(5) 世帯の形態について



単位：人

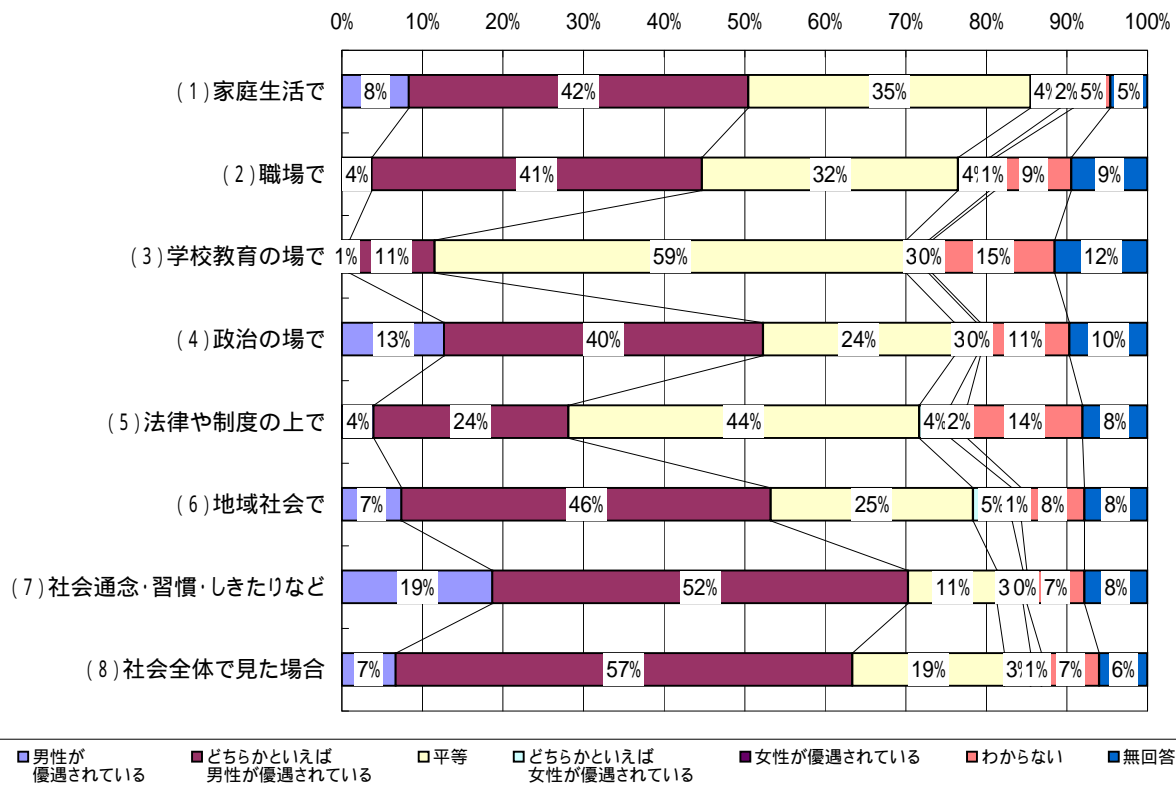
単身世帯	45
夫婦のみ	120
二世世代世帯	177
三世世代世帯	65
その他の世帯	24
無回答	3
合計	434

調查結果

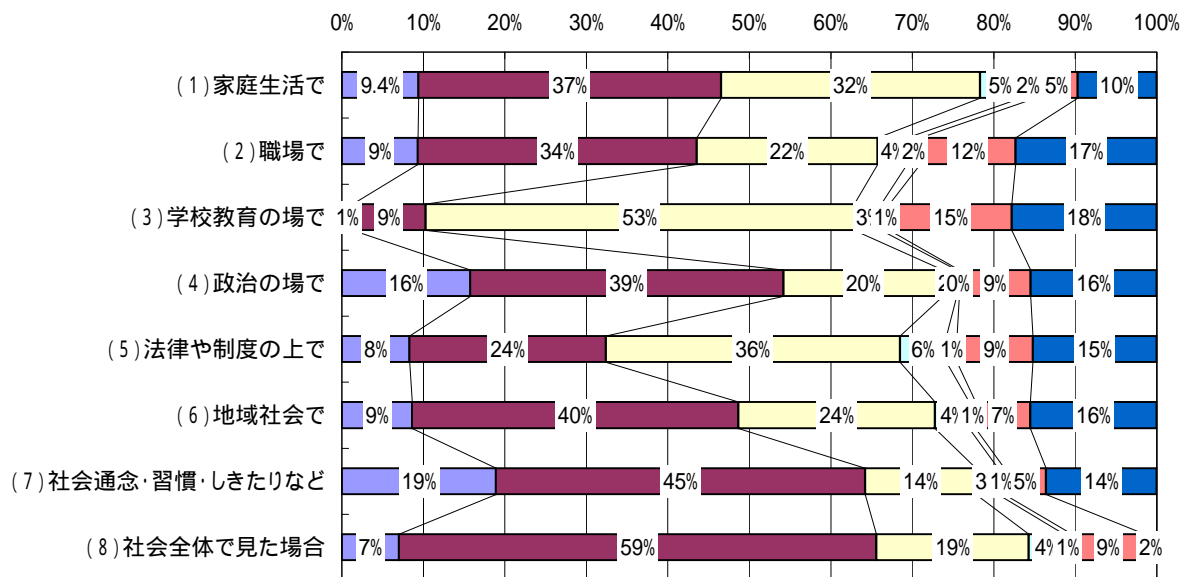
1. 男女の地位の平等について

問 あなたは、次にあげる分野について男女の地位を比べてみて平等になっていると思いますか。

それぞれの分野において男女の地位が平等になっているかどうかについて、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせて「男性が優遇されている」として、また「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせて「女性が優遇されている」として見た場合、(1)家庭生活で、(2)職場で、(4)政治の場で、(6)地域社会で、(7)社会通念・習慣・しきたりなど、(8)社会全体で見た場合、においては、「男性が優遇されている」という回答の割合が高く、(3)学校教育の場で、(5)法律や制度の上で、においては「平等」の割合が高くなっている。
平成17年度調査結果と比較した場合、(7)社会通念・習慣・しきたりなど、以外の項目において「平等」の割合が高くなっている。



平成17年度調査結果(参考)

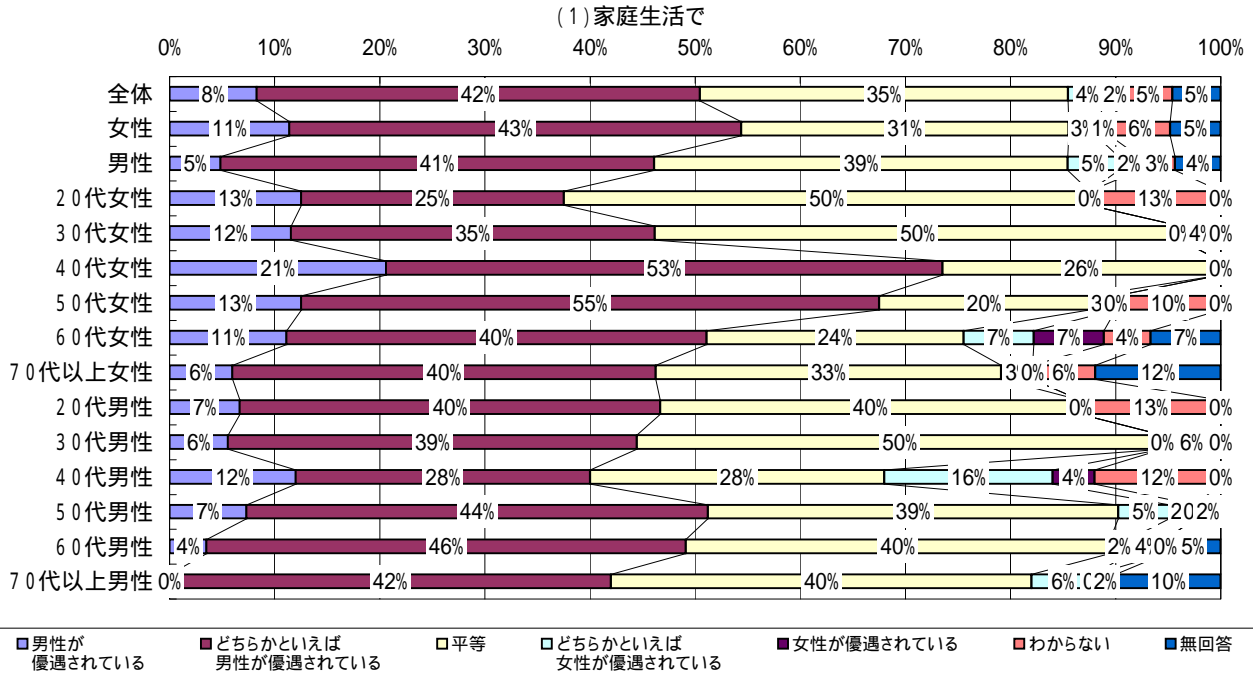


(1) 家庭生活で

家庭生活において、男女の地位が平等になっているかどうかについて、全体では「男性が優遇されている」という回答が5割となっている。

性別では、「男性が優遇されている」という女性(54%)の割合が男性(46%)より高くなっている。

年齢別では、「男性が優遇されている」という回答が40代女性(74%)、50代女性(68%)において高くなっており、「平等」と言う回答が20代女性、30代女性・男性(いずれも50%)において5割となっている。

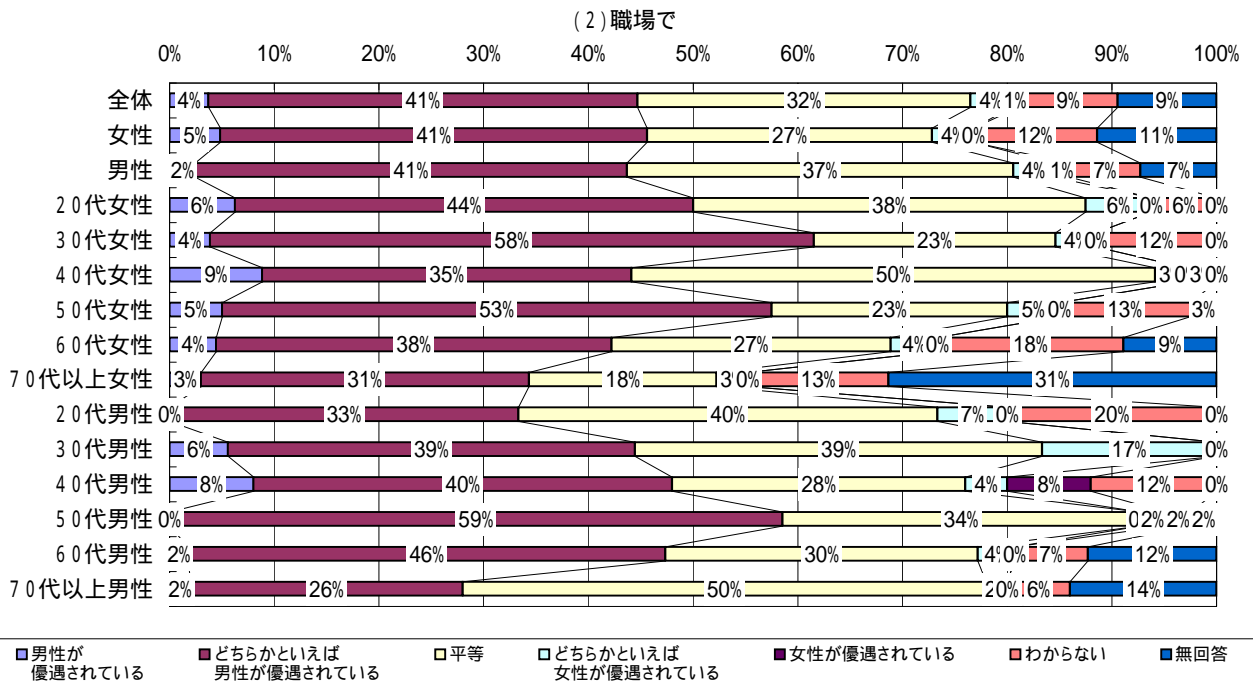


(2) 職場で

職場において、男女の地位が平等になっているかどうかについて、全体では「男性が優遇されている」という回答が4割を超えている。

性別では、「男性が優遇されている」という女性(46%)の割合が男性(43%)より若干高くなっている。

年齢別では、「男性が優遇されている」という回答が、20代女性(50%)、30代女性(62%)、50代女性(58%)、50代男性(59%)において高くなっており、「平等」と言う回答が、40代女性・70代以上男性(ともに50%)において5割となっている。



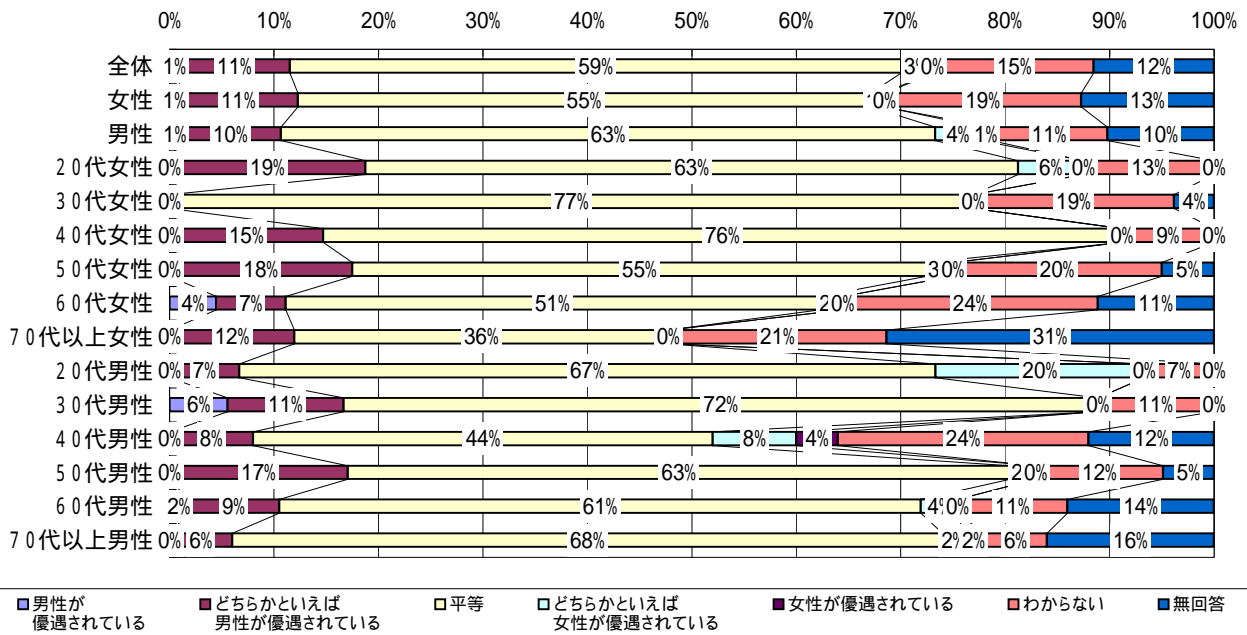
(3) 学校教育の場で

学校教育の場において、男女の地位が平等になっているかどうかについて、全体では「平等」という回答が約6割となっている。

性別では、「平等」という男性(63%)の割合が女性(55%)より高くなっている。

年齢別では、すべての年齢において「平等」という回答が最も高くなっている。

(3) 学校教育の場で



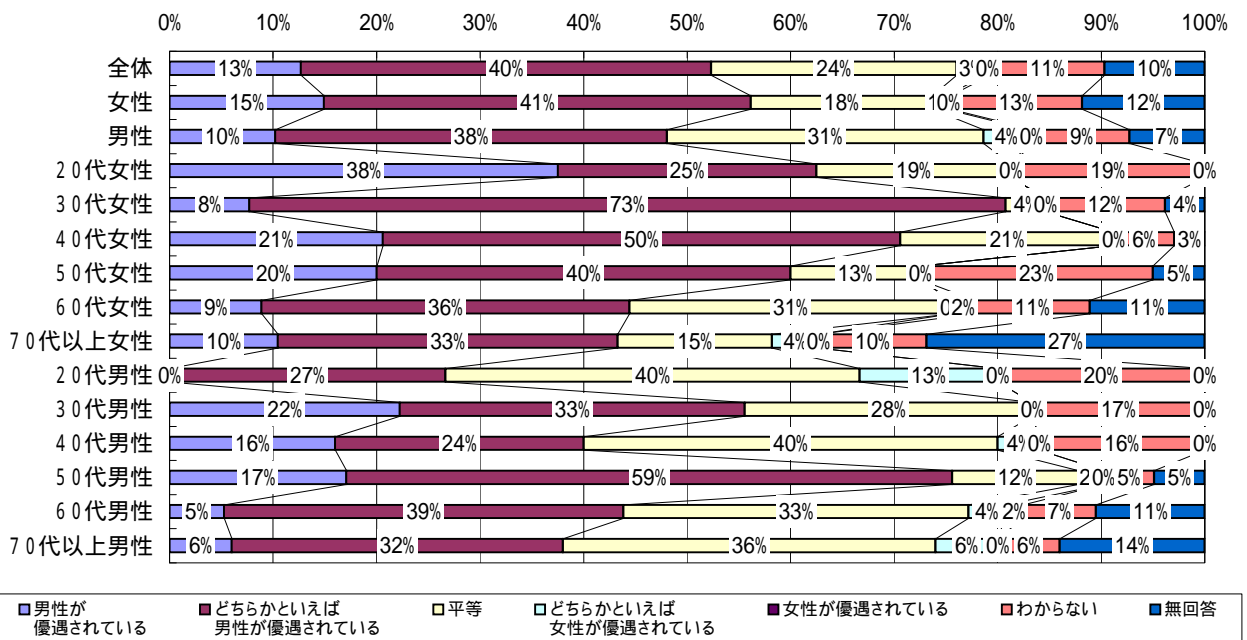
(4) 政治の場で

政治の場において、男女の地位が平等になっているかどうかについて、全体では「男性が優遇されている」という回答が5割を超えている。

性別では、「男性が優遇されている」という女性(56%)の割合が男性(48%)より高くなっている。

年齢別では、「男性が優遇されている」という回答が、30代女性(81%)、40代女性(71%)、50代男性(76%)において特に高くなっている。20代男性においてのみ、「平等」(40%)が、「男性が優遇されている」(27%)を上回っている。

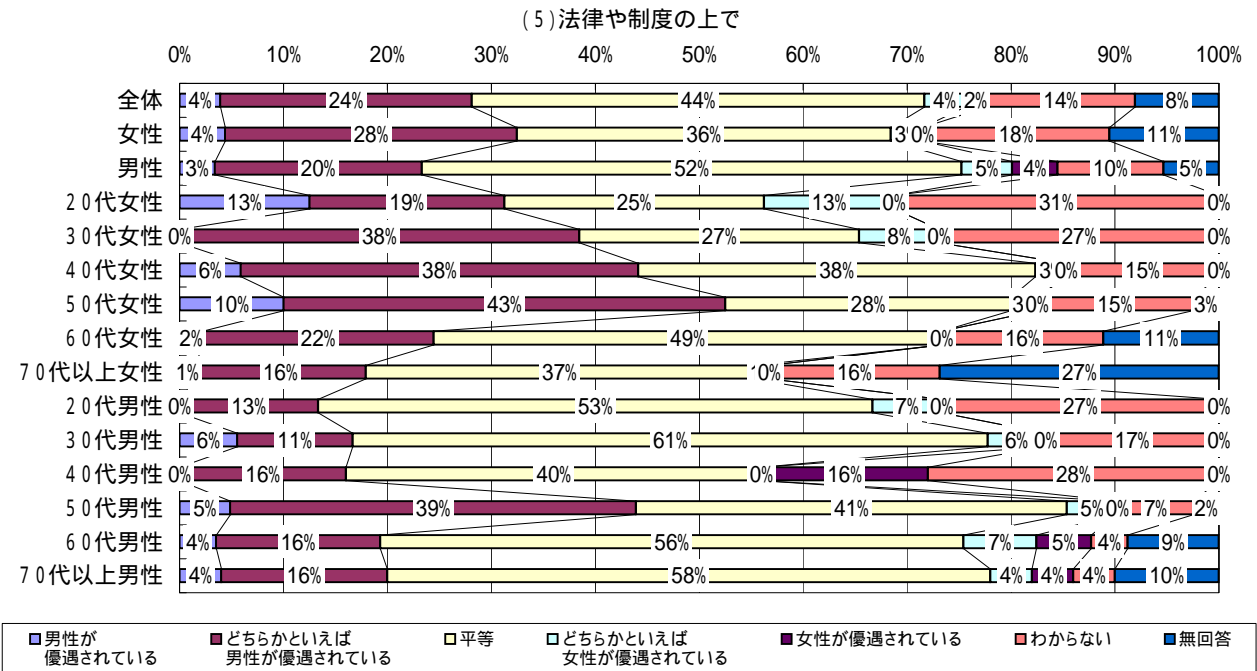
(4) 政治の場で



(5) 法律や制度の上で

法律や制度の上において、男女の地位が平等になっているかどうかについて、全体では「平等」(44%)という回答が最も高くなっている。

性別では、「男性が優遇されている」という女性(32%)の割合が男性(23%)より高くなっている。年齢別では、20代から50代の女性、50代男性において、「男性が優遇されている」が「平等」を上回っている。

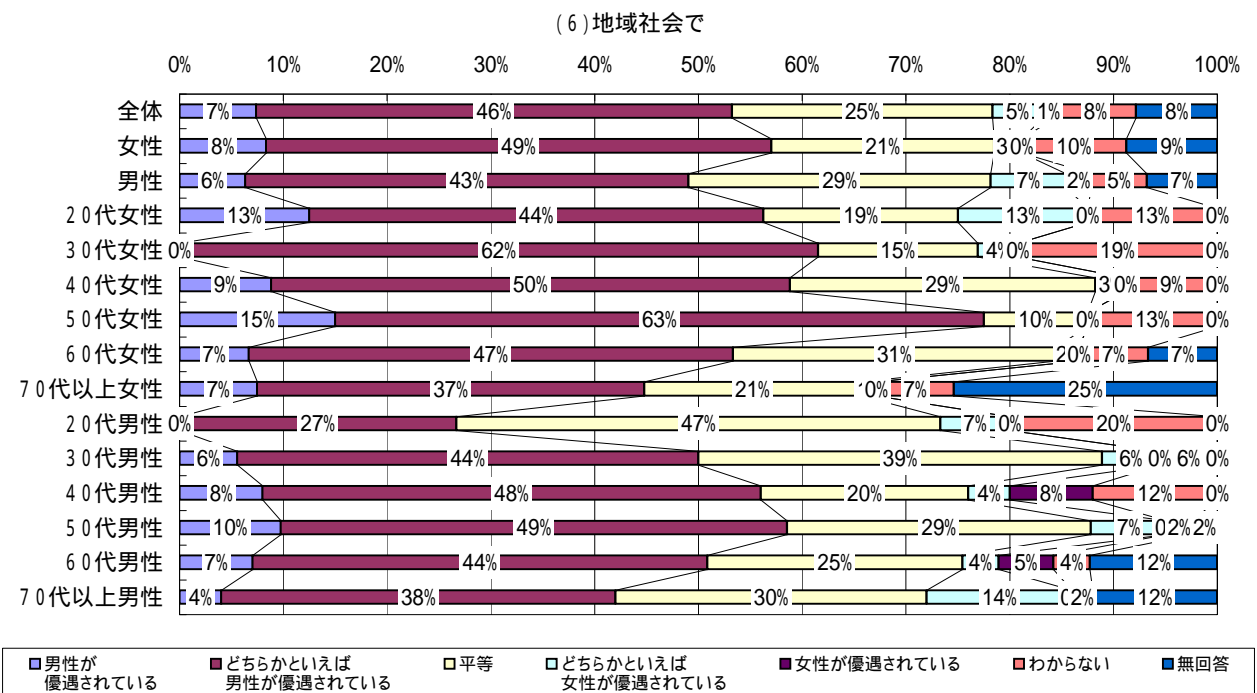


(6) 地域社会で

地域社会において、男女の地位が平等になっているかどうかについて、全体では「男性が優遇されている」という回答が5割を超えている。

性別では、「男性が優遇されている」という女性(57%)が男性(49%)より高くなっている。

年齢別では、50代女性において、「男性が優遇されている」(78%)という回答が特に高くなっている。20代男性においては、「平等」(47%)が「男性が優遇されている」(27%)を上回っている。



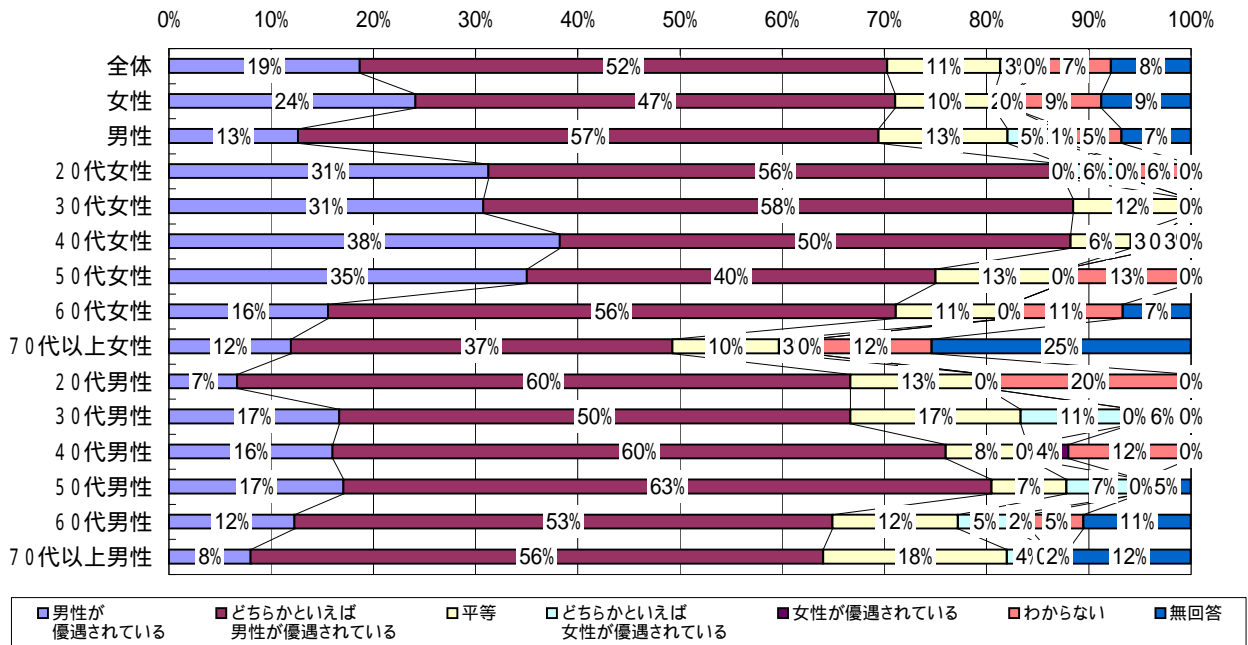
(7) 社会通念・習慣・しきたりなど

社会通念・習慣・しきたりなどにおいて、男女の地位が平等になっているかどうかについて、全体では「男性が優遇されている」という回答が7割を超えている。

性別では、男女ともに「男性が優遇されている」という回答が7割を超えており、大きな違いは見られない。

年齢別では、20代女性(87%)、30代女性(89%)、40代女性(88%)、50代男性(80%)において、「男性が優遇されている」という回答が8割を超えている。

(7) 社会通念・習慣・しきたりなど



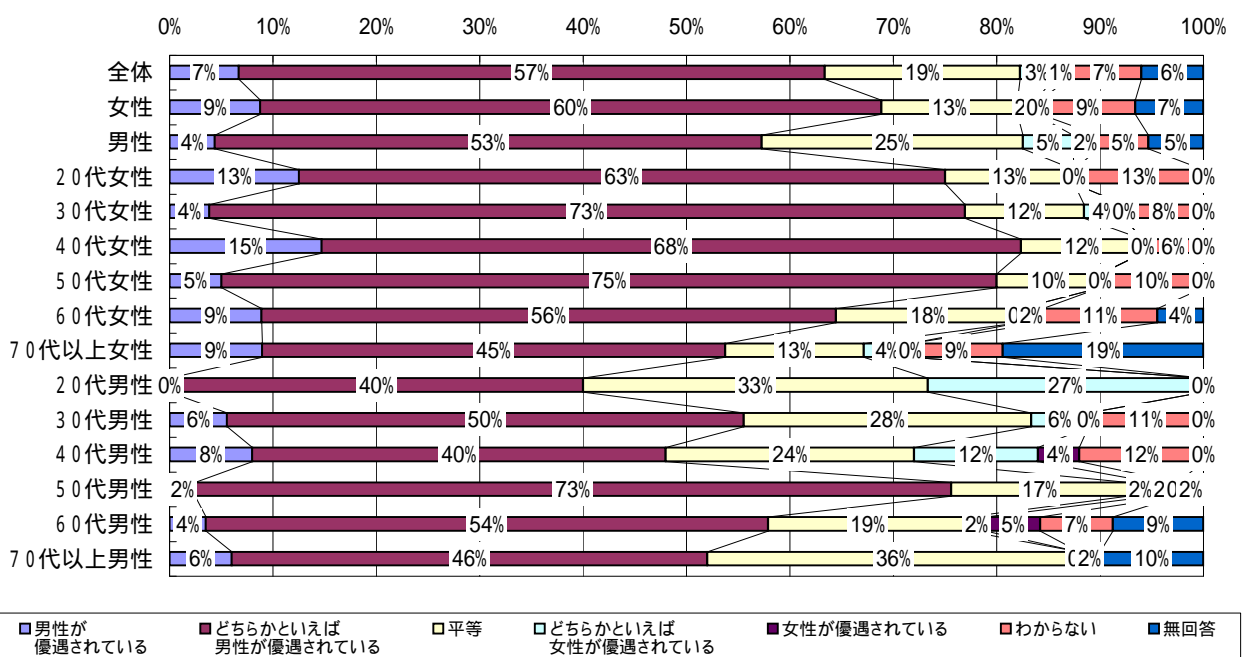
(8) 社会全体で見た場合

社会全体で見た場合において、男女の地位が平等になっているかどうかについて、全体では「男性が優遇されている」という回答が6割を超えている。

性別では、「男性が優遇されている」という回答が女性(69%)の割合が男性(57%)より高くなっている。

年齢別では、「男性が優遇されている」という回答が、40代女性(83%)、50代女性(80%)において8割を超えている。

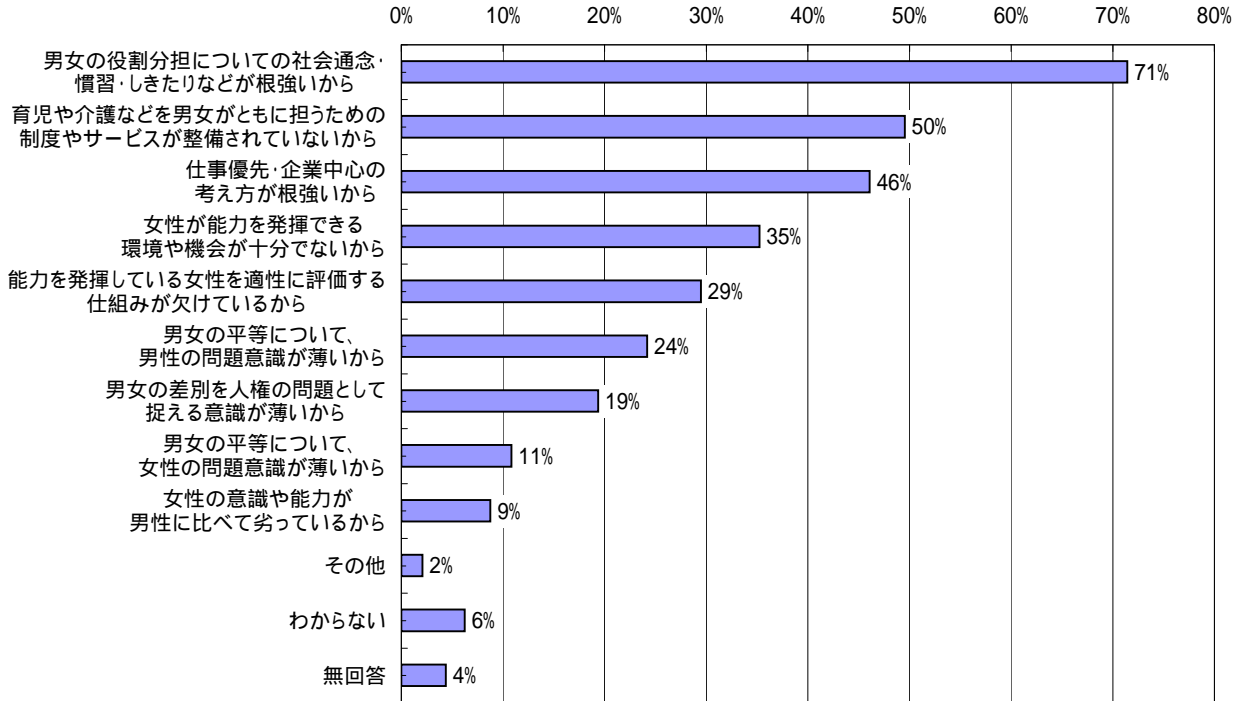
(8) 社会全体で見た場合



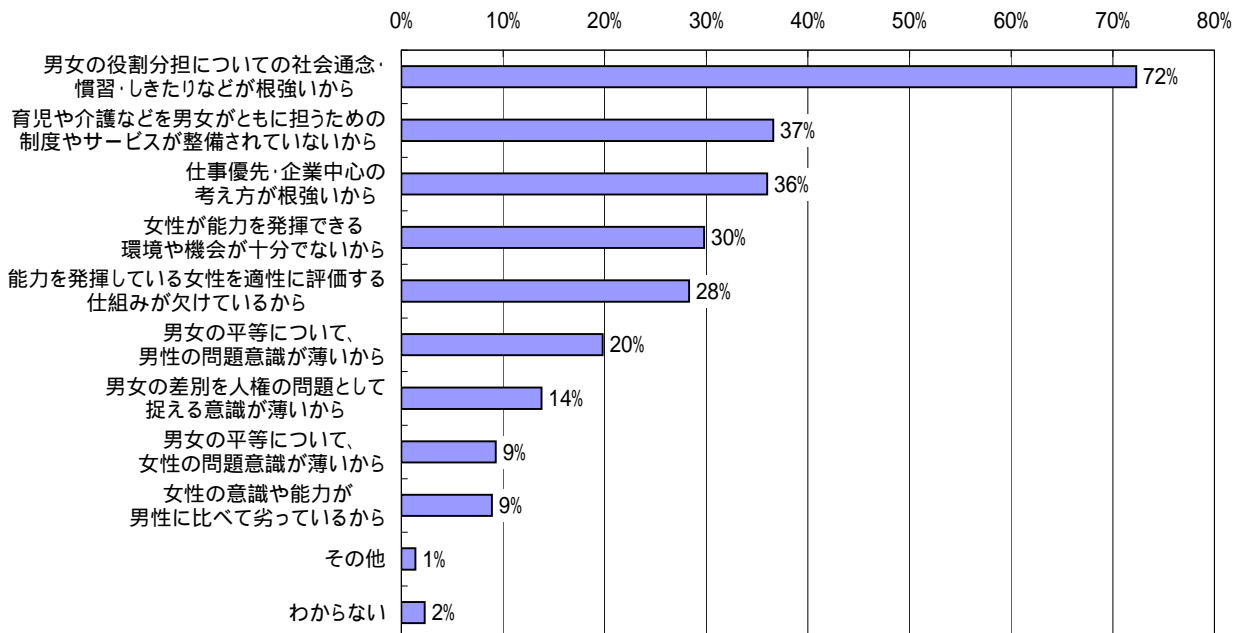
問 社会全体で見て男性の方が優遇されている原因は何だと思いますか

社会全体で見て男性の方が優遇されている原因について、「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから」(71%)が7割を超え最も高く、次いで「育児や介護などを男女がともに担うための制度やサービスが整備されていないから」(50%)、「仕事優先・企業中心の考え方が根強いから」(46%)となっている。

平成17年度調査結果と比較した場合、「育児や介護などを男女がともに担うための制度やサービスが整備されていないから」、「仕事優先・企業中心の考え方が根強いから」と回答した人がそれぞれ1割以上増加している。



平成17年度調査結果(参考)

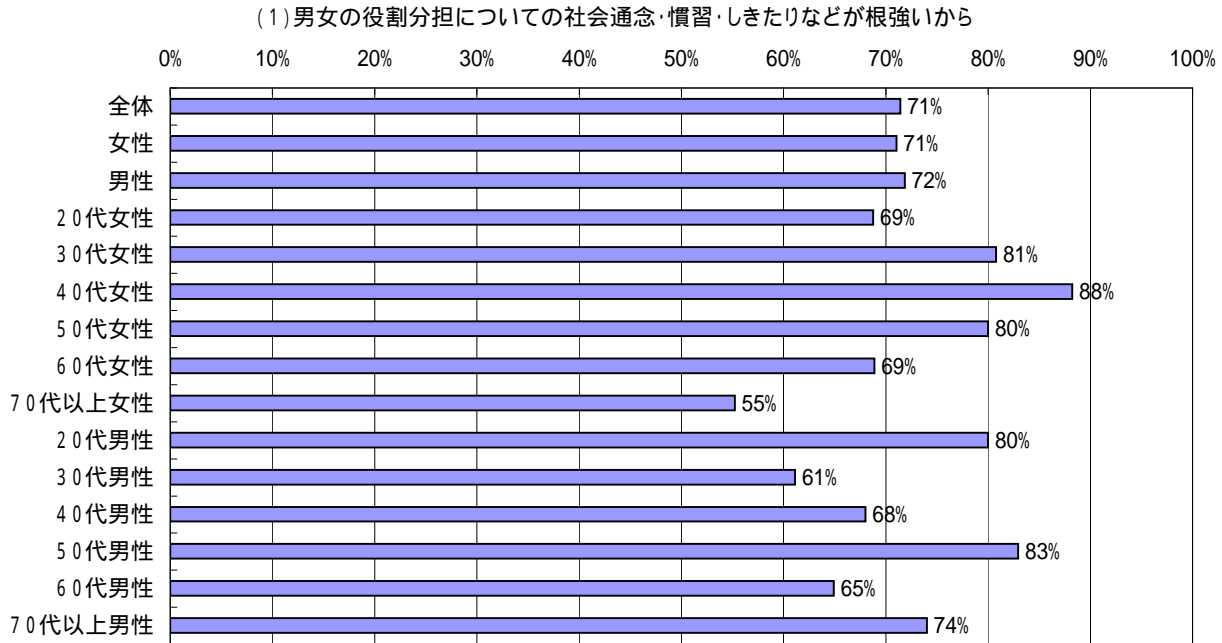


(1) 男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから

社会全体で見て男性の方が優遇されている原因について、「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから」(71%)が7割を超え、他の項目と比較して最も高くなっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、40代女性において、88%と9割近い割合となり、70代以上女性においては、55%と最も低くなっている。

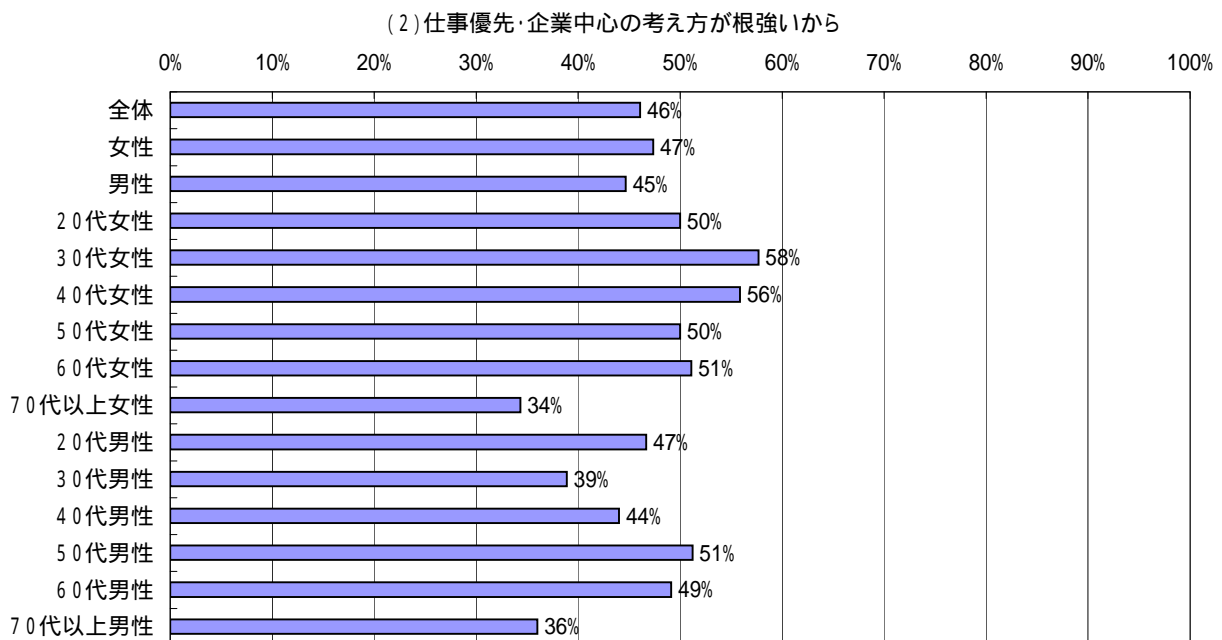


(2) 仕事優先・企業中心の考え方が根強いから

社会全体で見て男性の方が優遇されている原因について、「仕事優先・企業中心の考え方が根強いから」と回答した人は46%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比べて、30代女性(58%)、40代女性(56%)が若干高くなっており、70代女性(34%)、70代男性(36%)において低くなっている。

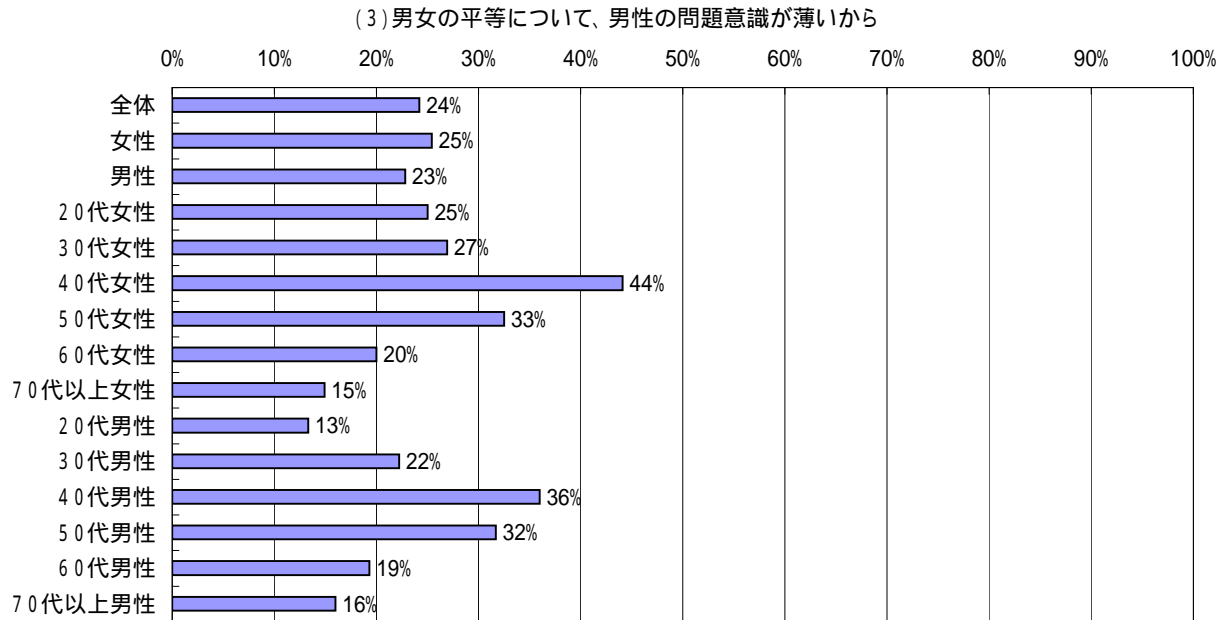


(3) 男女の平等について、男性の問題意識が薄いから

社会全体で見て男性の方が優遇されている原因について、「男女の平等について、男性の問題意識が薄いから」と回答した人は24%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比べて、40代女性(44%)、40代男性(36%)が高くなっており、20代男性(13%)が最も低くなっている。

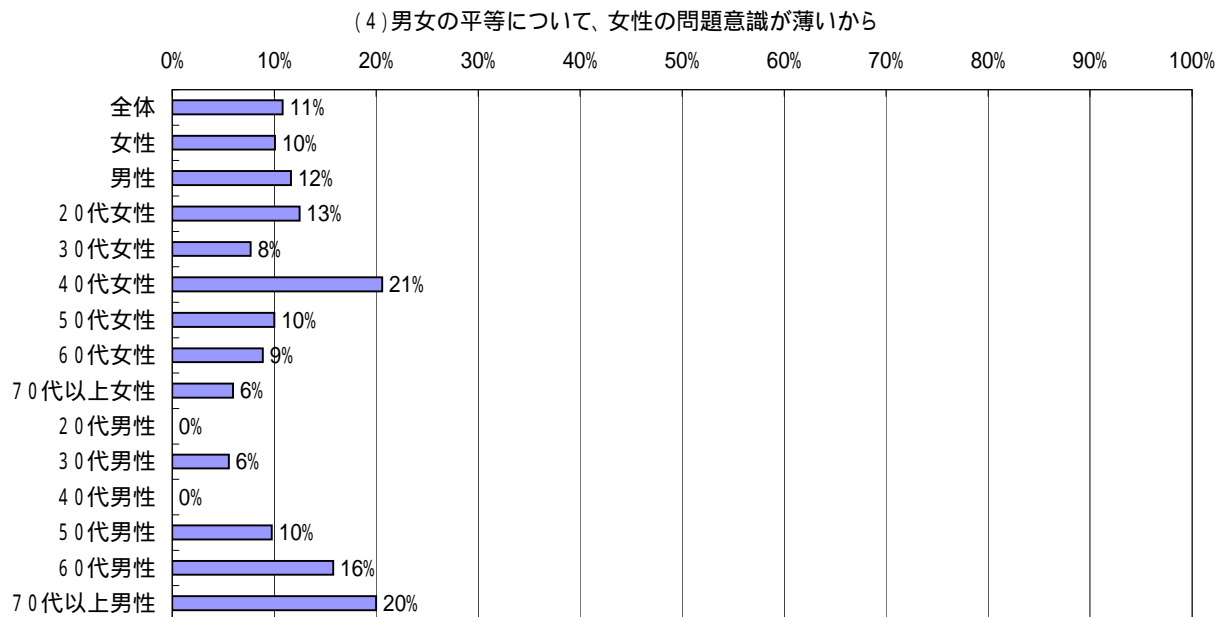


(4) 男女の平等について、女性の問題意識が薄いから

社会全体で見て男性の方が優遇されている原因について、「男女の平等について、女性の問題意識が薄いから」と回答した人は11%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比べて、40代女性(21%)、70代以上男性(20%)が高くなっており、20代・40代男性(ともに0%)が低くなっている。

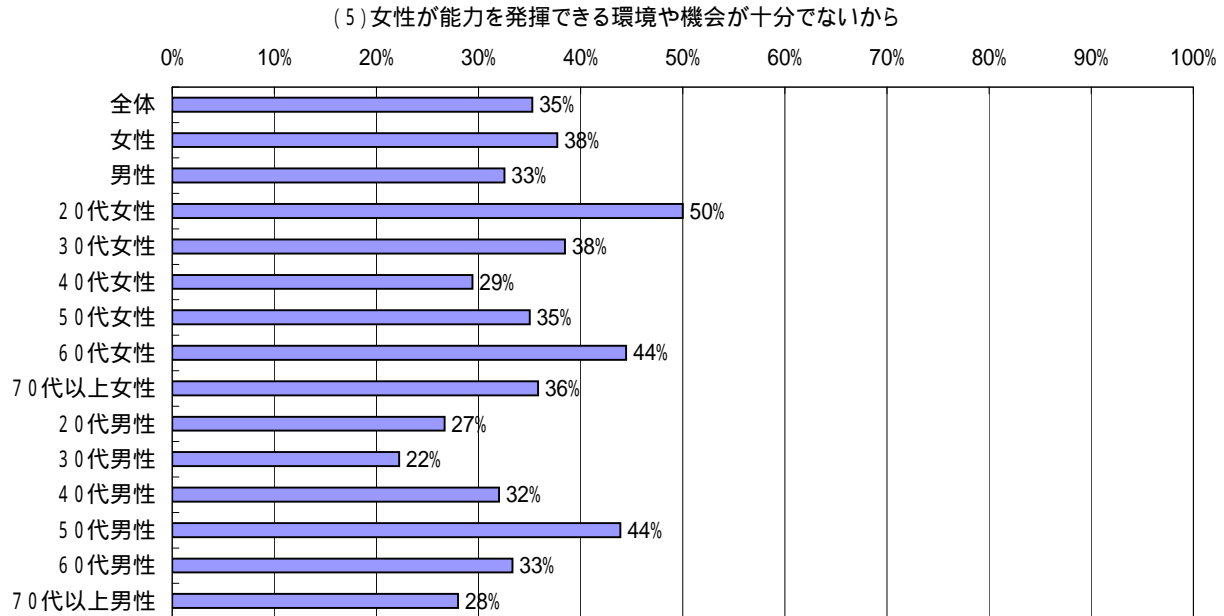


(5) 女性が能力を発揮できる環境や機会が十分でないから

社会全体で見て男性の方が優遇されている原因について、「女性が能力を発揮できる環境や機会が十分でないから」と回答した人は35%となっている。

性別では、女性(38%)が男性(33%)より若干高くなっている。

年齢別では、全体と比べて、20代女性(50%)、60代女性・50代男性(ともに44%)が高くなっており、20代男性(27%)、30代男性(22%)が低くなっている。

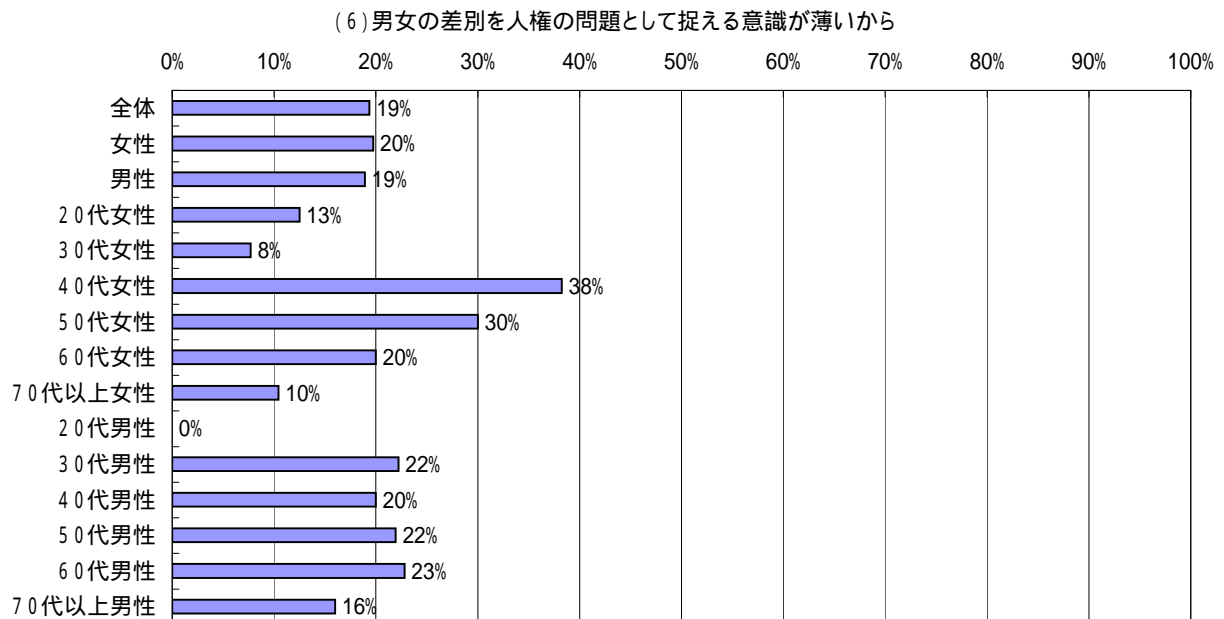


(6) 男女の差別を人権の問題として捉える意識が薄いから

社会全体で見て男性の方が優遇されている原因について、「男女の差別を人権の問題として捉える意識が薄いから」と回答した人は19%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比べて、40代女性(38%)、50代女性(30%)が高くなっており、30代女性(8%)、20代男性(0%)が低くなっている。

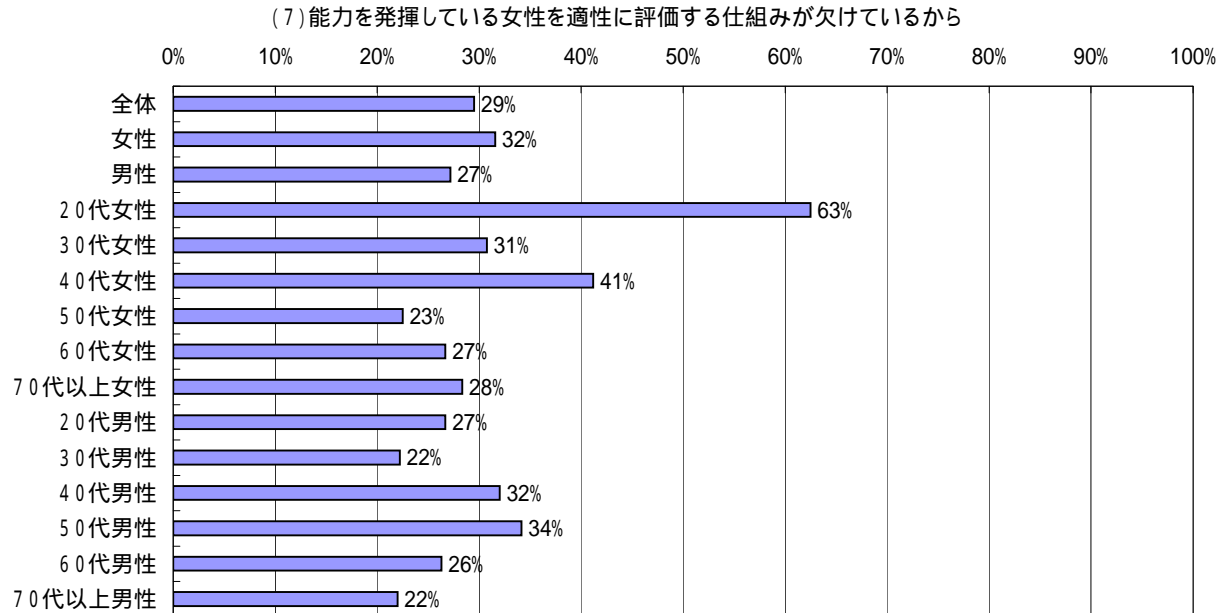


(7) 能力を発揮している女性を適性に評価する仕組みが欠けているから

社会全体で見ても男性の方が優遇されている原因について、「能力を発揮している女性を適性に評価する仕組みが欠けているから」と回答した人は29%となっている。

性別では、女性(32%)が男性(27%)より若干高くなっている。

年齢別では、全体と比べて、20代女性(63%)が特に高く、次いで40代女性(41%)が高くなっており、30代男性・70代以上男性(ともに22%)が低くなっている。

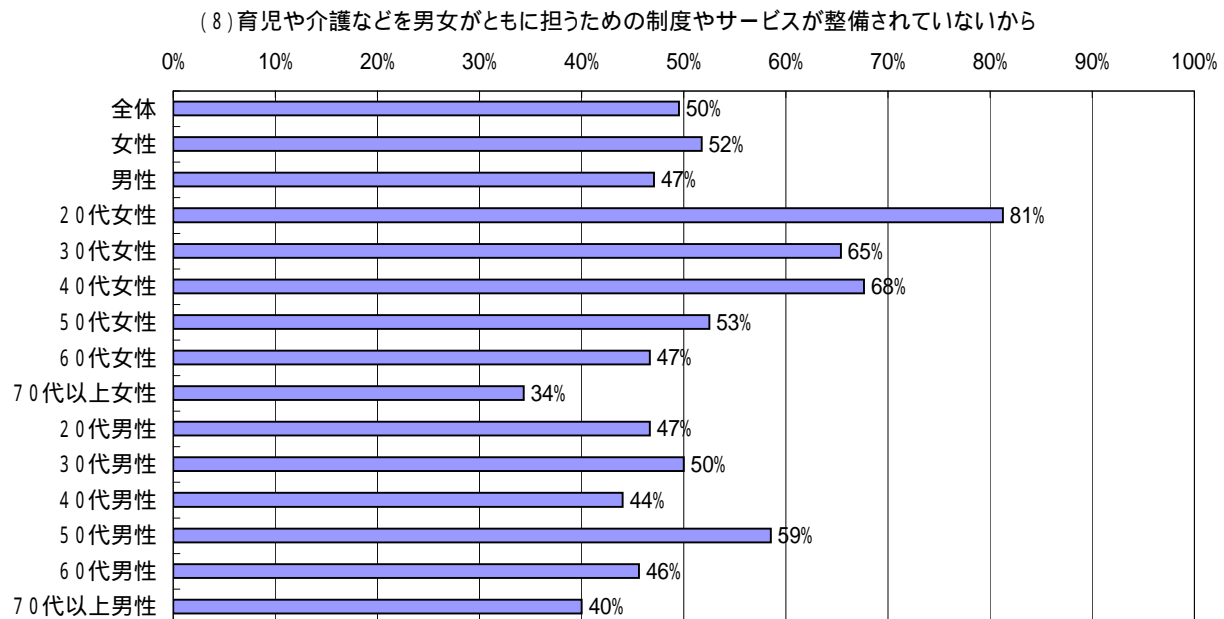


(8) 育児や介護などを男女がともに担うための制度やサービスが整備されていないから

社会全体で見ても男性の方が優遇されている原因について、「育児や介護などを男女がともに担うための制度やサービスが整備されていないから」と回答した人は50%となっている。

性別では、女性(52%)が男性(47%)より若干高くなっている。

年齢別では、全体と比べて、20代女性(81%)が特に高く、次いで40代女性(68%)、30代女性(65%)が高くなっており、70代以上女性(34%)、70代以上男性(40%)が低くなっている。

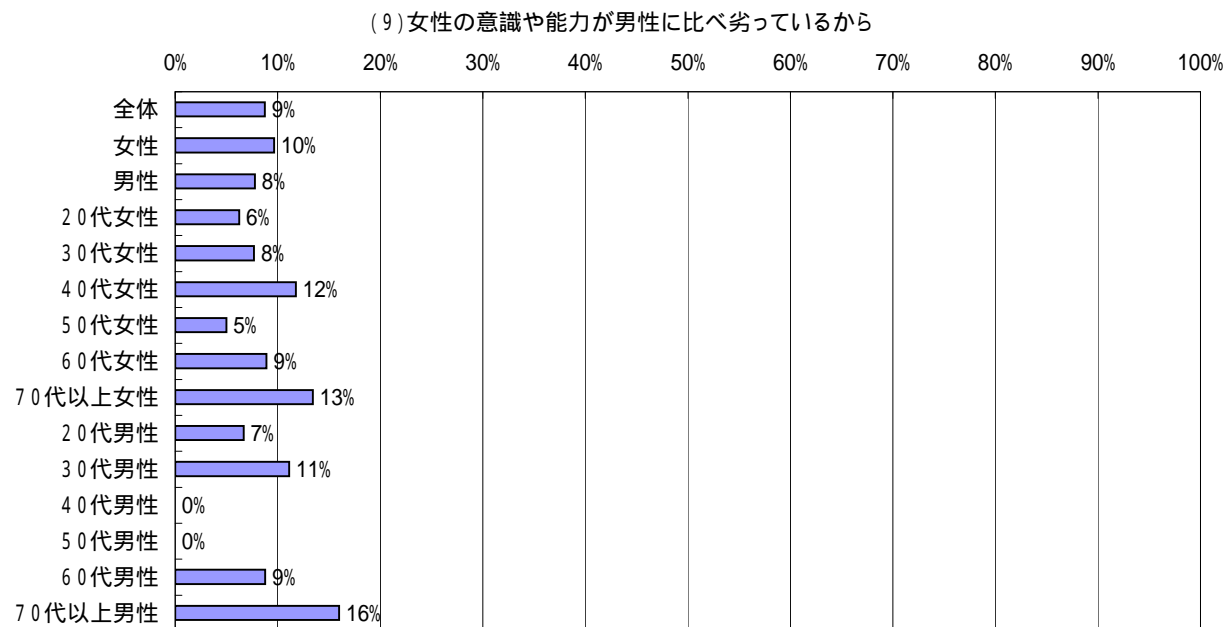


(9) 女性の意識や能力が男性に比べ劣っているから

社会全体で見て男性の方が優遇されている原因について、「女性の意識や能力が男性に比べ劣っているから」と回答した人は9%となっており、他の項目と比較して最も低くなっている。。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比べて、70代以上女性(13%)、70代男性(16%)が高くなっており、40代・50代男性(ともに0%)が低くなっている。



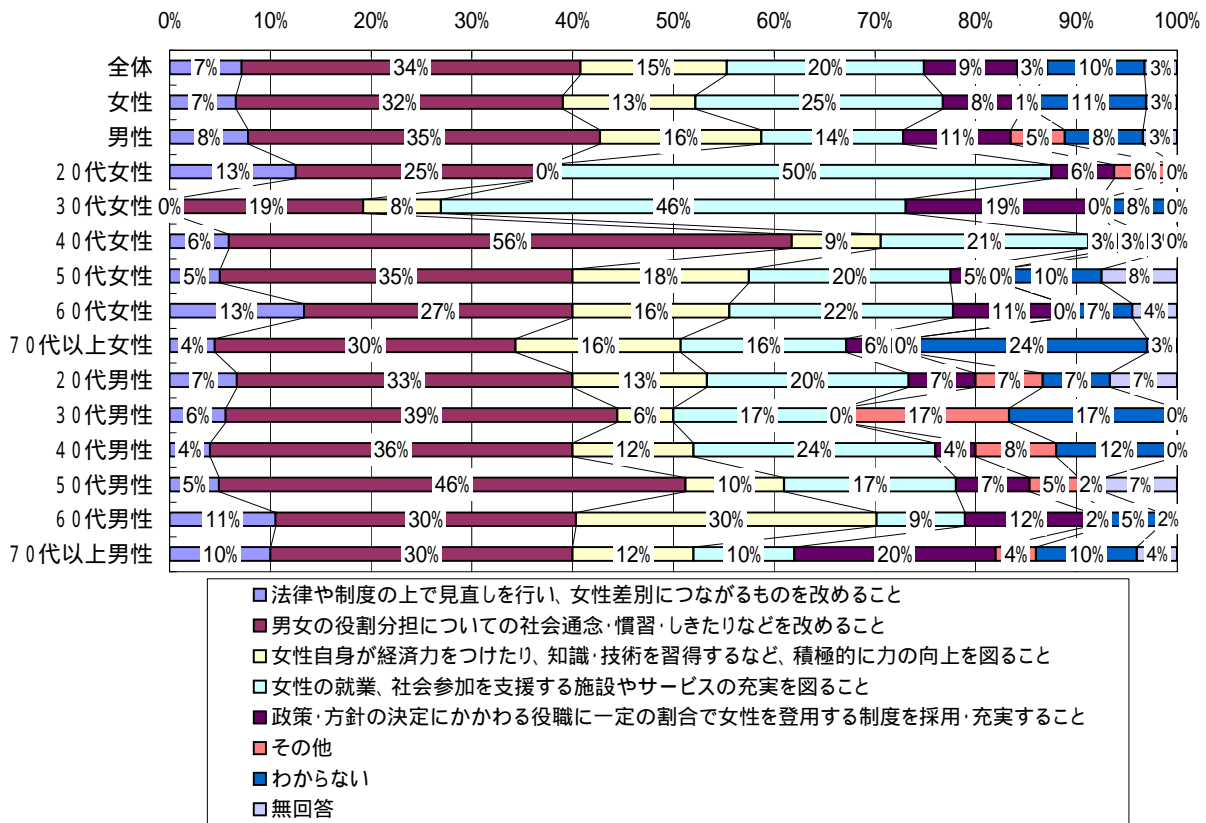
問 今後、男女があらゆる分野でもっと平等になるために最も重要と思うことはなんですか。

今後、男女があらゆる分野でもっと平等になるために最も重要と思うことについて、「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどを改めること」(34%)が最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(20%)、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」(15%)となっている。

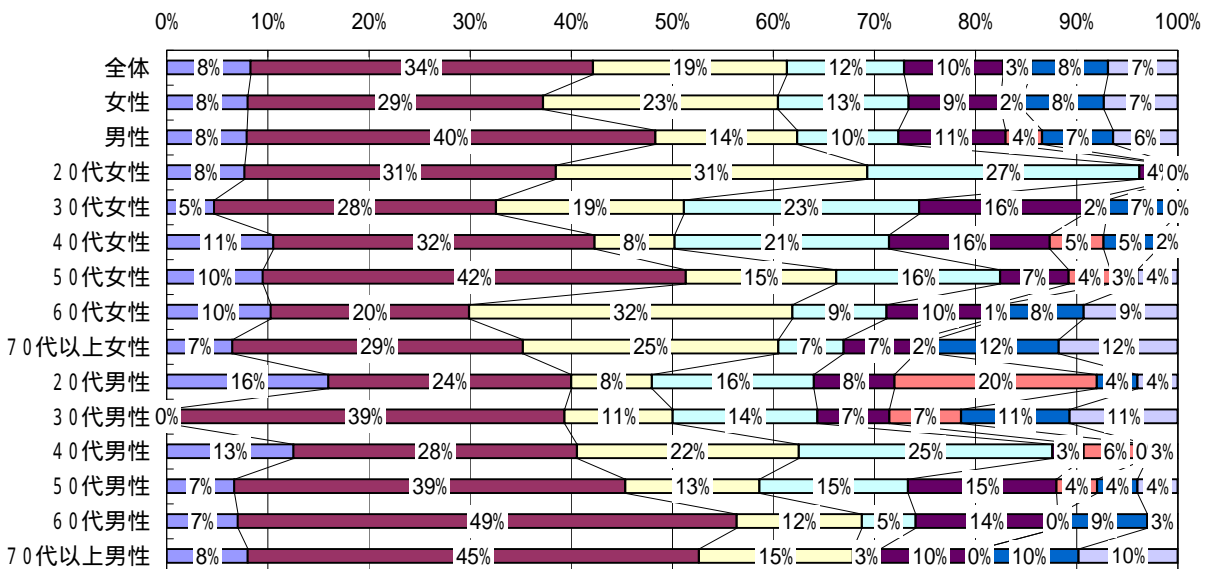
性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比べて、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」の回答が、20代女性(50%)、30代女性(46%)で高くなっている。

平成17年度調査結果と比較した場合、全体で「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」の割合が、12%(平成17年度)から19%(平成22年度)に増え、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」の割合が19%(平成17年度)から15%(平成22年度)に減っている。



平成17年度調査結果(参考)

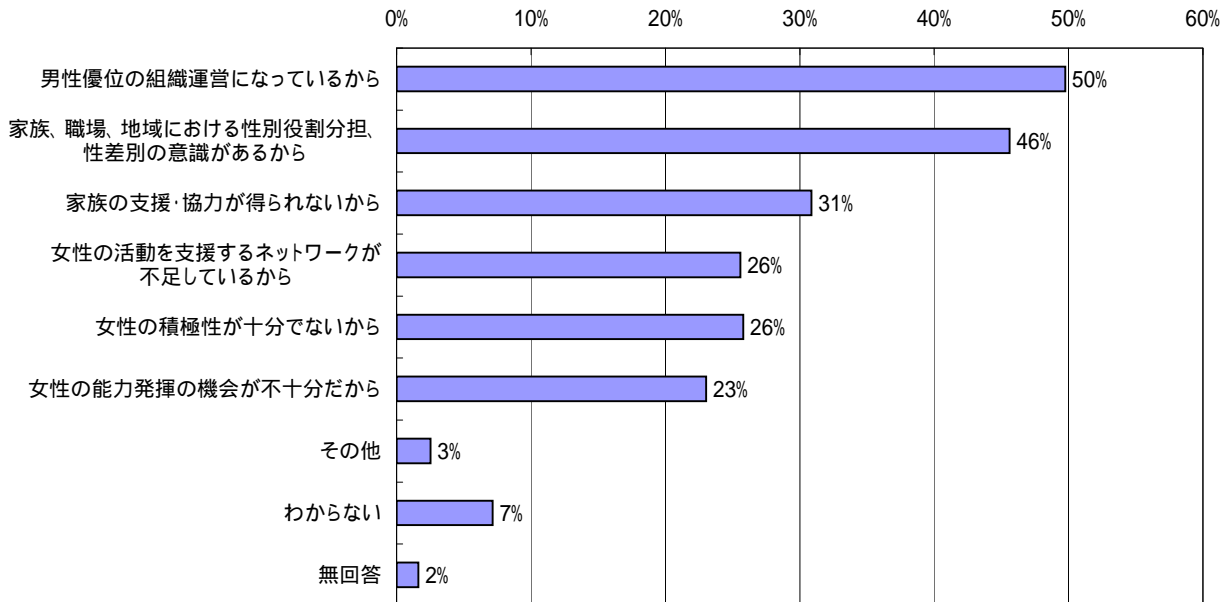


2. 女性の社会進出について

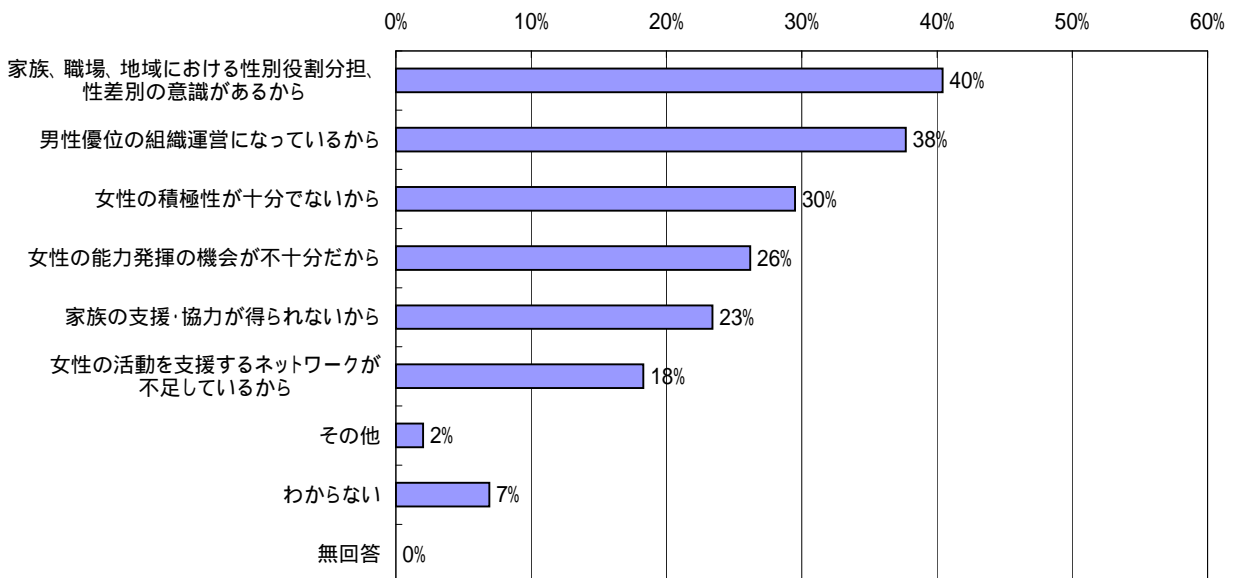
問 あなたは、行政、地域、職場等において、政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない理由は何だと思いますか。

行政、地域、職場等において、政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない理由について、「男性優位の組織運営になっているから」(50%)が最も高く、次いで「家族、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識があるから」(46%)、「家族の支援・協力が得られないから」(31%)となっている。

平成17年度調査結果と比較した場合、特に「男性優位の組織運営になっているから」、「家族の支援・協力が得られないから」、「女性の活動を支援するネットワークが不足しているから」という回答の割合が増えている。



平成17年度調査結果(参考)

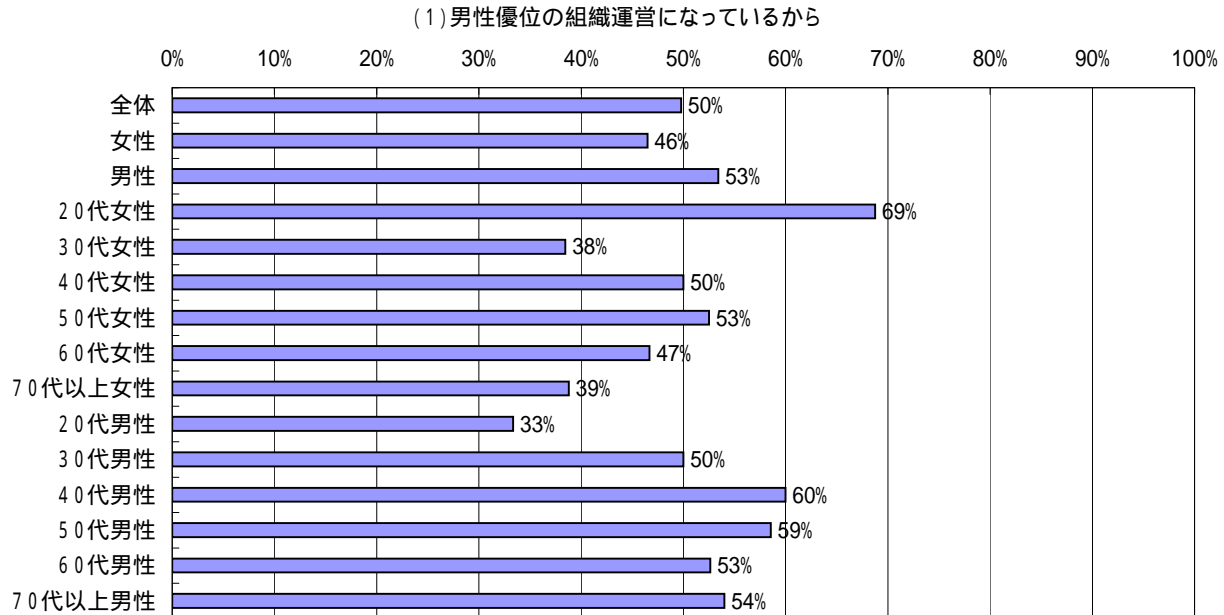


(1) 男性優位の組織運営になっているから

行政、地域、職場等において、政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない理由について、「男性優位の組織運営になっているから」と回答した人は50%となっており、他の項目と比較して最も高くなっている。

性別では、男性(53%)が女性(46%)より若干高くなっている。

年齢別では、全体と比べて、20代女性(69%)が特に高く、次いで40代男性(60%)となっており、20代男性(33%)が最も低くなっている。

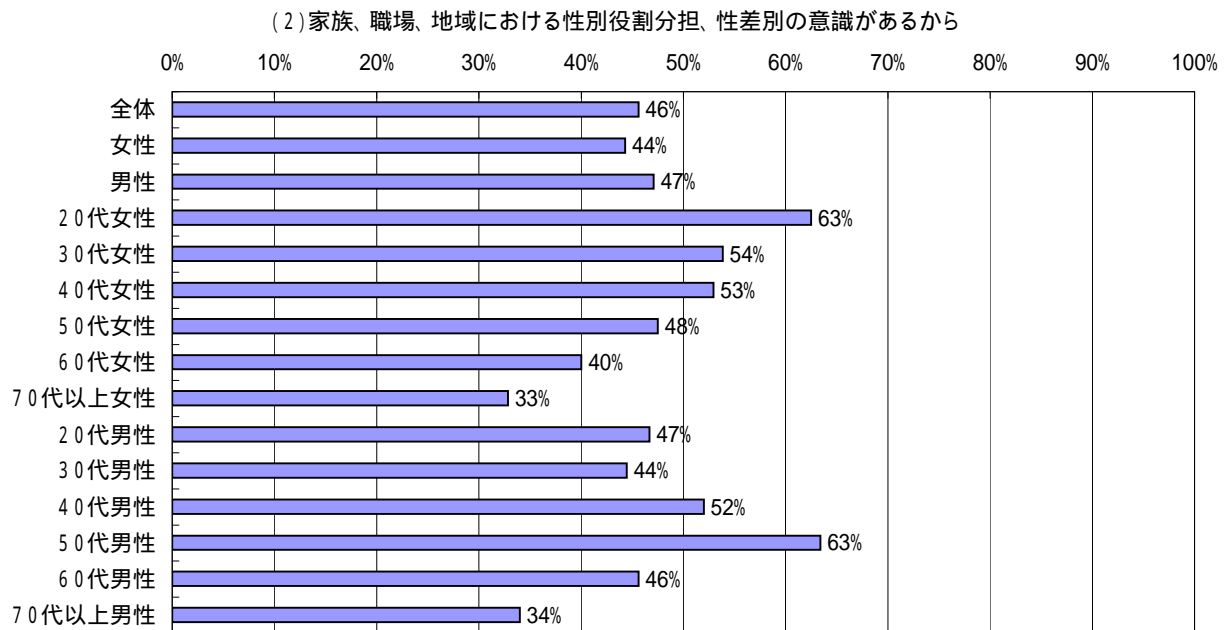


(2) 家族、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識があるから

行政、地域、職場等において、政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない理由について、「家族、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識があるから」と回答した人は46%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比べて、20代女性、50代男性(ともに63%)が特に高くなっており、70代以上女性・男性が低くなっている。

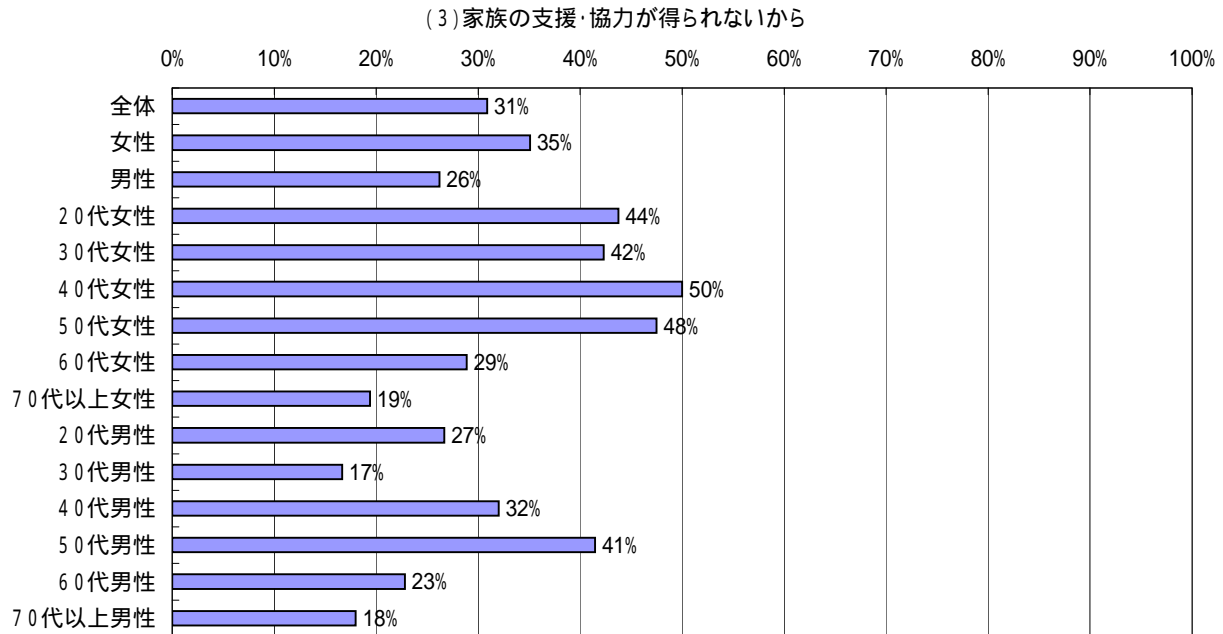


(3) 家族の支援・協力が得られないから

行政、地域、職場等において、政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない理由について、「家族の支援・協力が得られないから」と回答した人は31%となっている。

性別では、女性(35%)が男性(26%)より若干高くなっている。

年齢別では、全体と比べて、20代から50代の女性、50代男性で4割を上回っており、30代男性、70代以上女性・男性が2割を下回っている。

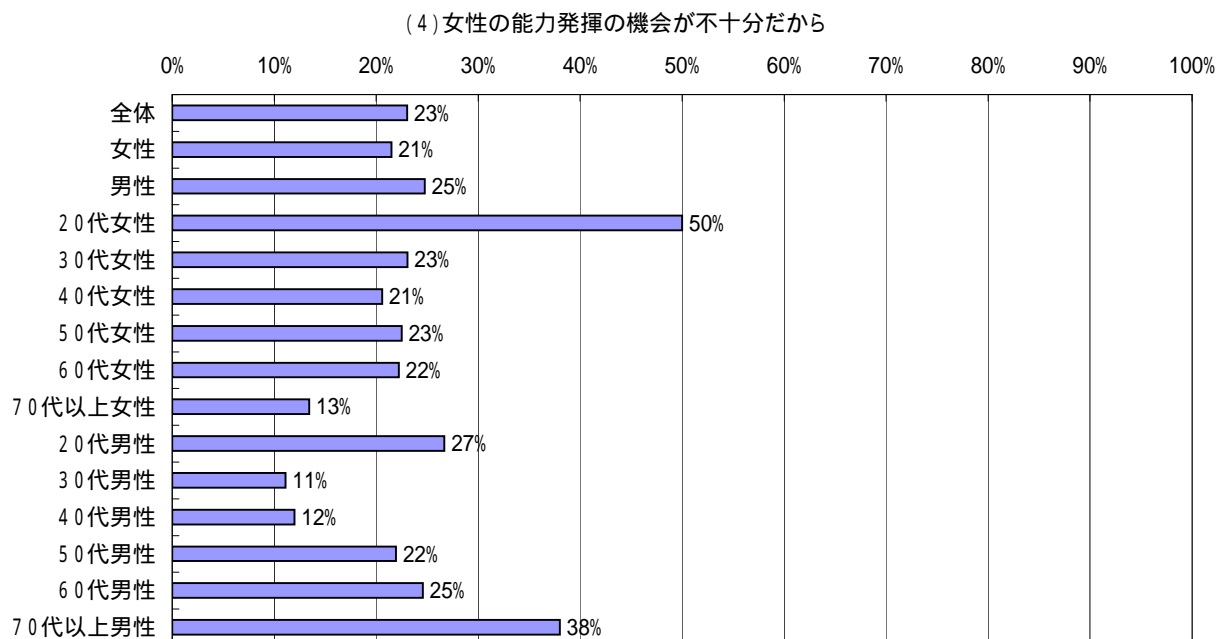


(4) 女性の能力発揮の機会が不十分だから

行政、地域、職場等において、政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない理由について、「女性の能力発揮の機会が不十分だから」と回答した人は23%となっており、他の項目と比較して最も低くなっている。

性別では、男性(25%)が女性(21%)より若干高くなっている。

年齢別では、全体と比べて、20代女性(50%)が特に高くなっており、30代から40代の男性で1割程度と低くなっている。



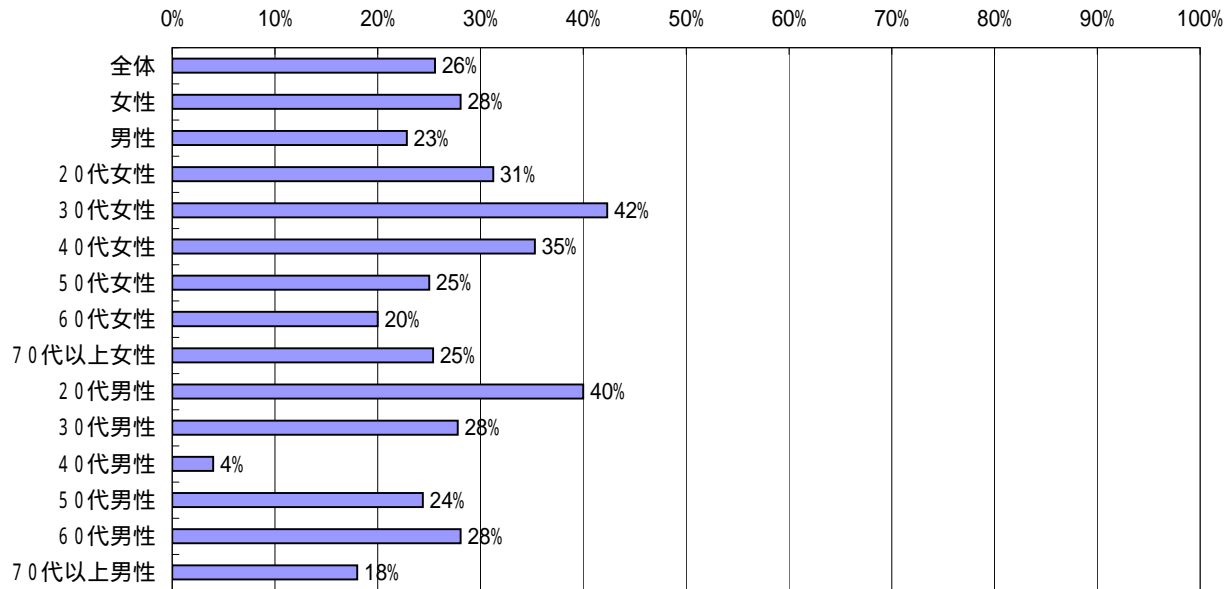
(5) 女性の活動を支援するネットワークが不足しているから

行政、地域、職場等において、政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない理由について、「女性の活動を支援するネットワークが不足しているから」と回答した人は26%となっている。

性別では、女性(28%)が男性(23%)より若干高くなっている。

年齢別では、20代から40代の女性、20代男性が3割を上回っており、40代男性(4%)が低くなっている。

(5) 女性の活動を支援するネットワークが不足しているから



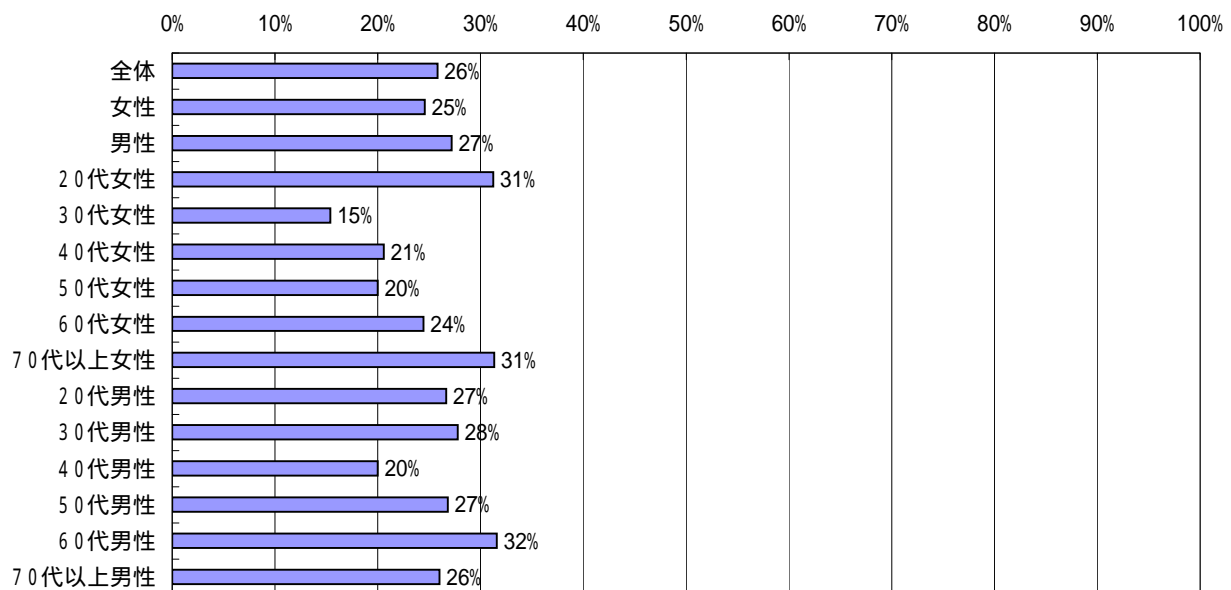
(6) 女性の積極性が十分でないから

行政、地域、職場等において、政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない理由について、「女性の積極性が十分でないから」と回答した人は26%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、20代女性、70代以上女性、60代男性が3割を上回っており、30代女性(15%)が低くなっている。

(6) 女性の積極性が十分でないから



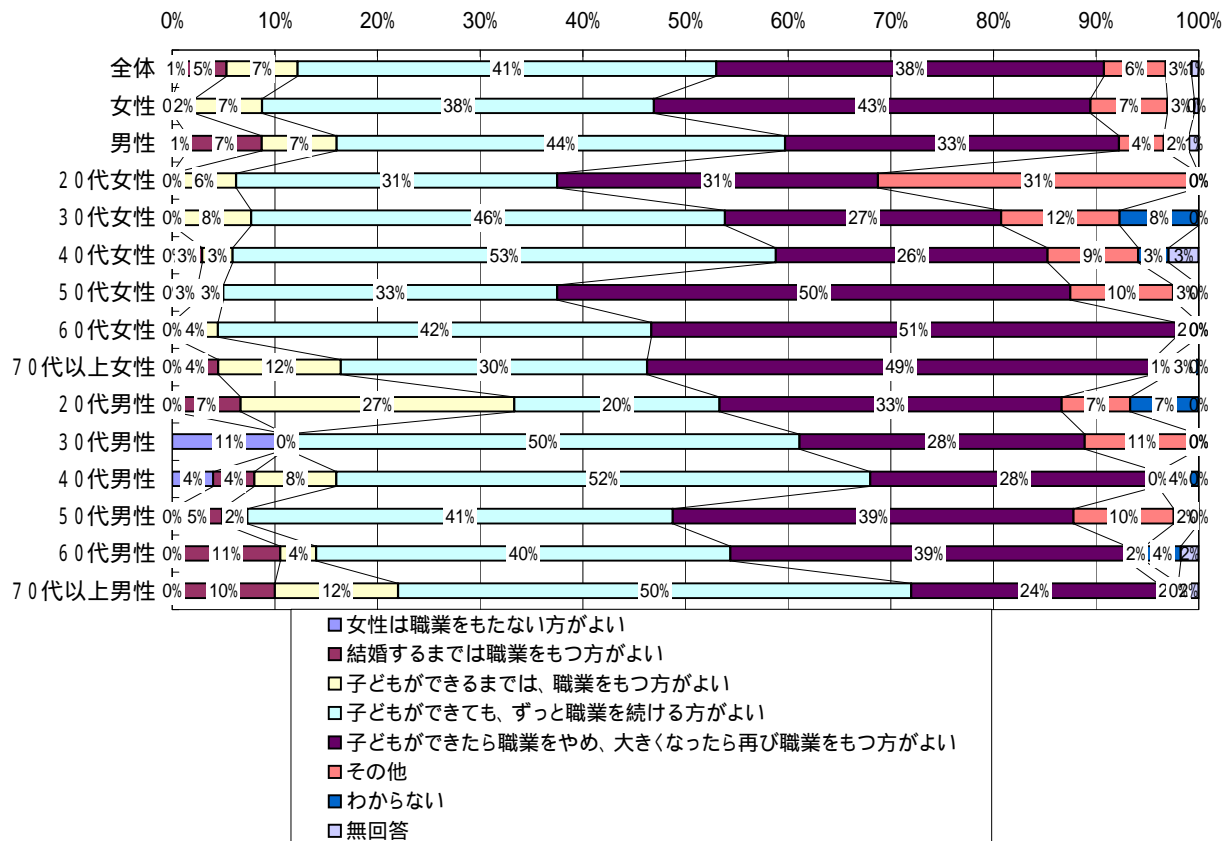
問 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。

一般的に女性が職業を持つことについて、全体では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(41%)が最も高く、次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(38%)となっている。

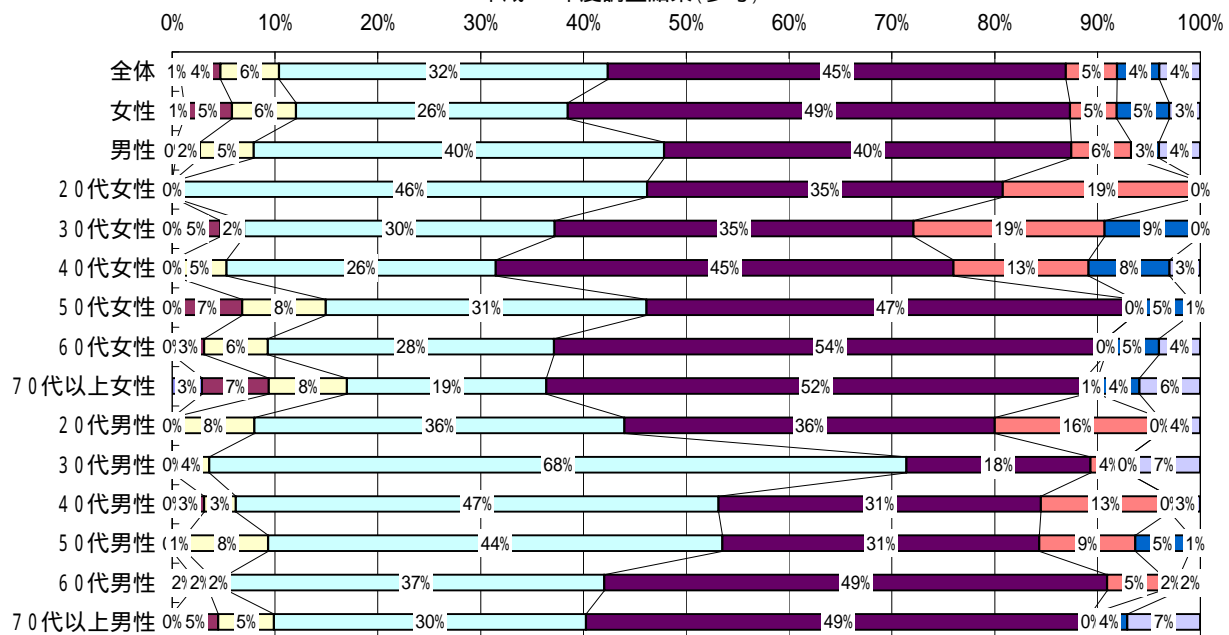
性別では、「女性は職業を持たないほうがよい」、「結婚するまでは職業をもつ方がよい」の割合が男性において高くなっている。

年齢別では、「女性は職業をもたない方がよい」の回答が、30代男性(11%)、40代男性(4%)において見られる。また、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」の割合が20代男性(27%)で高くなっている。

平成17年度調査結果と比較した場合、「女性は職業をもたない方がよい」の回答が30代男性(11%)、40代男性(4%)において増えている。また、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」の回答が20代男性(27%)において増えている。



平成17年度調査結果(参考)

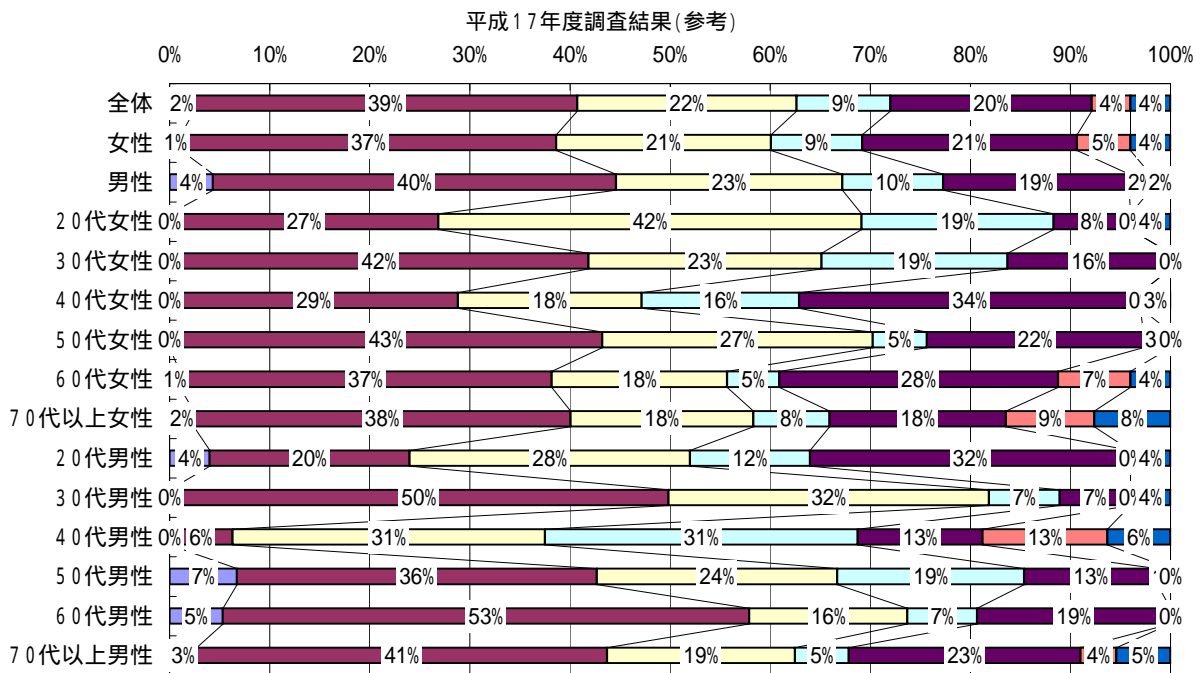
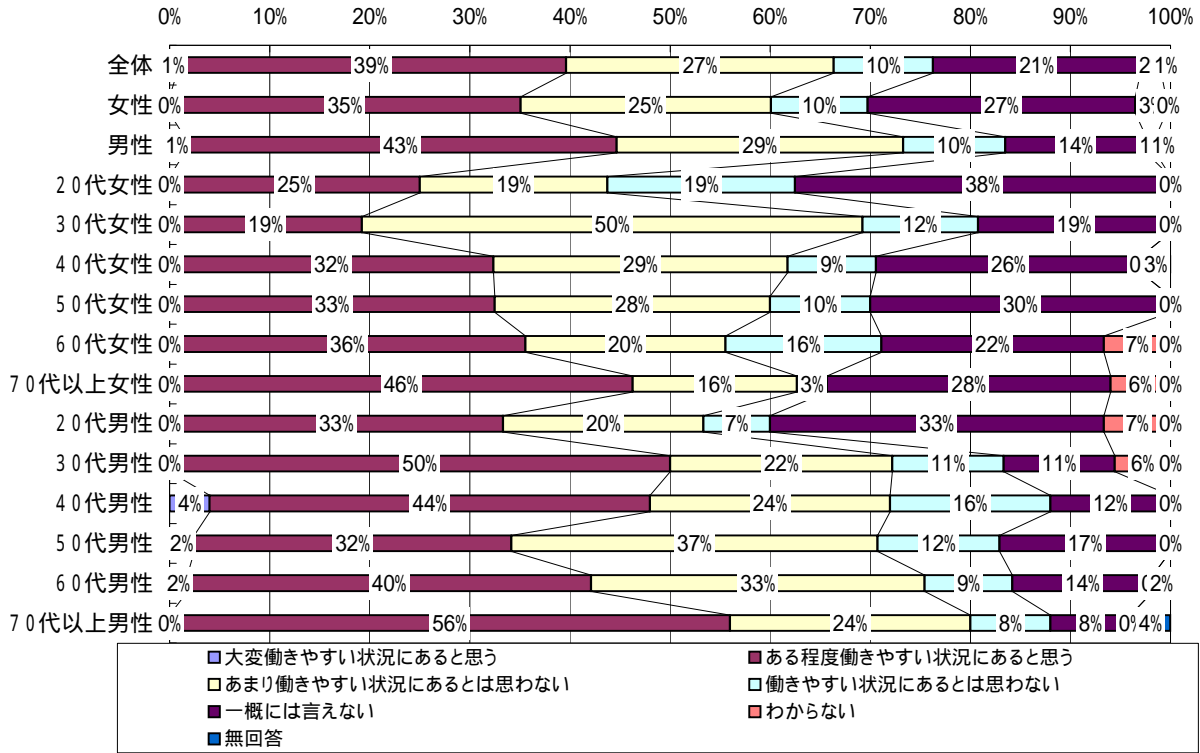


問 あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。

現在の社会は女性にとって働きやすい状況にあると思うかについて、全体では、「ある程度働きやすい状況にあると思う」（39%）が最も高く、「大変働きやすい状況にあると思う」（1%）とあわせた「働きやすい状況にある」という回答は40%となっている。また、「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」（27%）と「働きやすい状況にあるとは思わない」（10%）をあわせた「働きやすい状況にあるとは思わない」という回答が37%となっている。

性別では、「働きやすい状況にあると思う」の回答が、男性が女性に比べ約1割高くなっている。また、女性において「一概には言えない」（27%）の割合が高くなっている。

平成17年度調査結果と比較した場合、「一概には言えない」の割合が、20代女性（38%）で高くなっている。



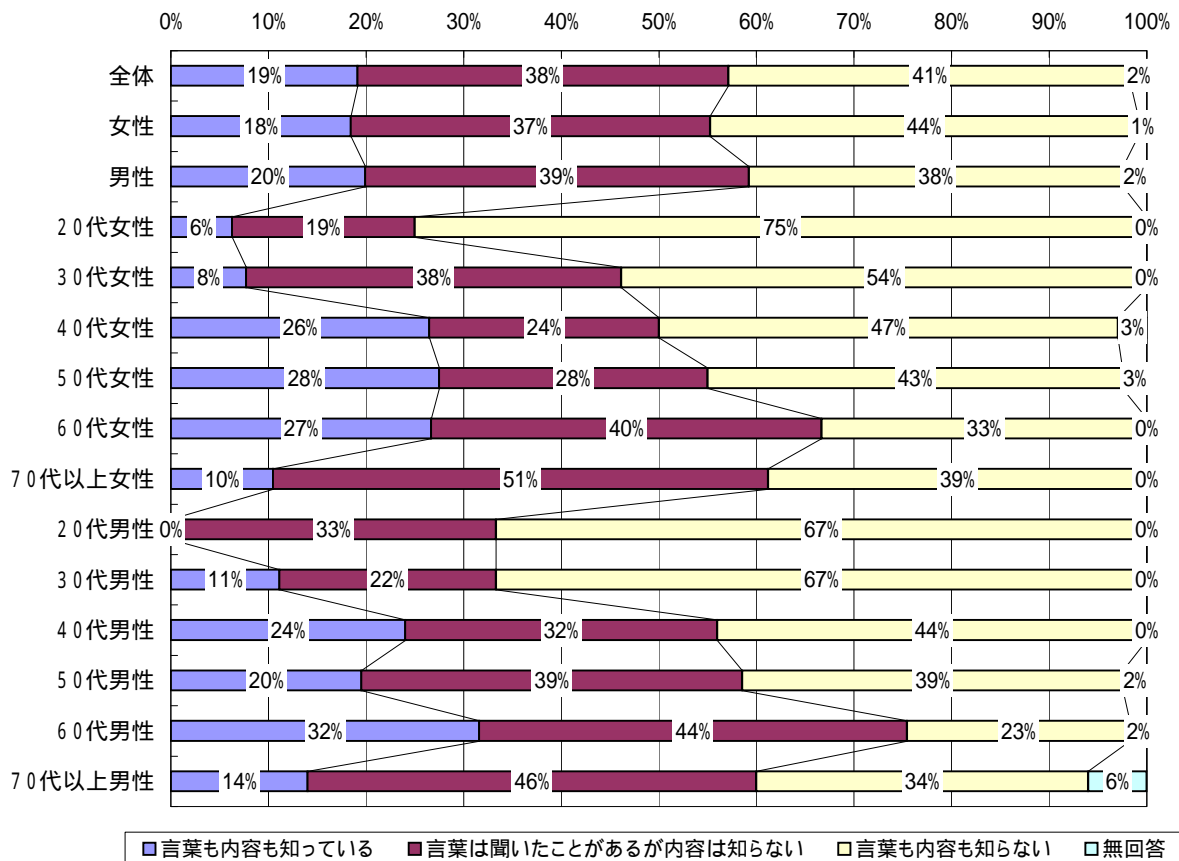
3. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

問 あなたは、ワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか。

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)という言葉を知っているかどうかについて、全体では、「知っている」(19%)という回答は約2割にとどまり、「言葉も内容も知らない」(41%)という回答が、約4割となっている。

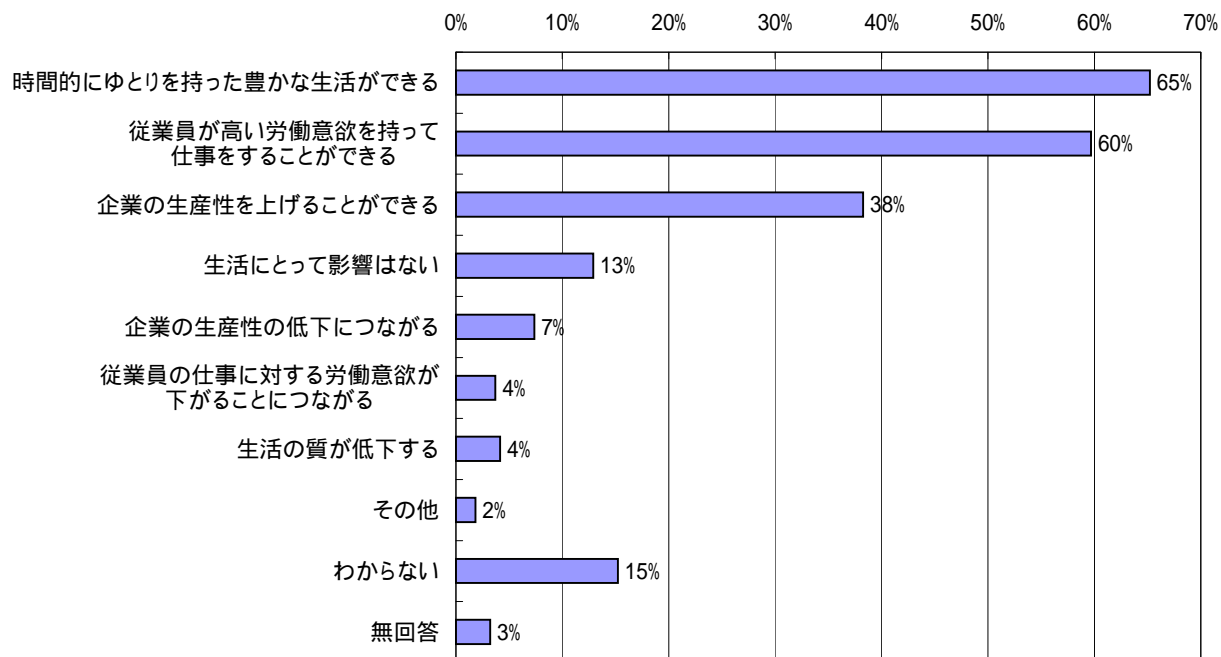
性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、「言葉も内容も知らない」という回答が、20代女性(75%)、30代女性(54%)、20代・30代男性(ともに67%)で高くなっている。



問 ワーク・ライフ・バランスを進めることで、どのような効果があると思いますか。

ワーク・ライフ・バランスを進めることで、どのような効果があると思うかについて、全体では、「時間的にゆとりを持った豊かな生活ができる」(65%)という回答が最も高く、次いで「従業員が高い労働意欲を持って仕事をすることができる」(60%)、「企業の生産性を上げることができる」(38%)という回答となっている。

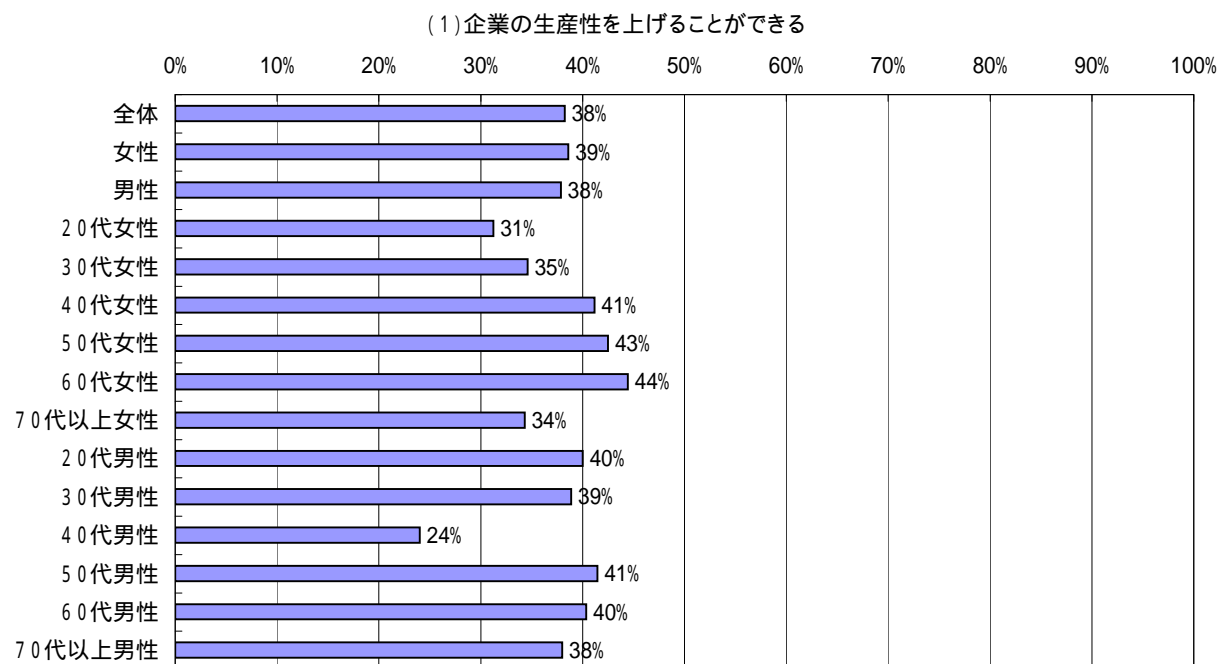


(1) 企業の生産性を上げることができる

ワーク・ライフ・バランスを進めることで、どのような効果があると思うかについて、「企業の生産性を上げることができる」と回答した人は38%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比較して、40代男性(24%)が低くなっている。



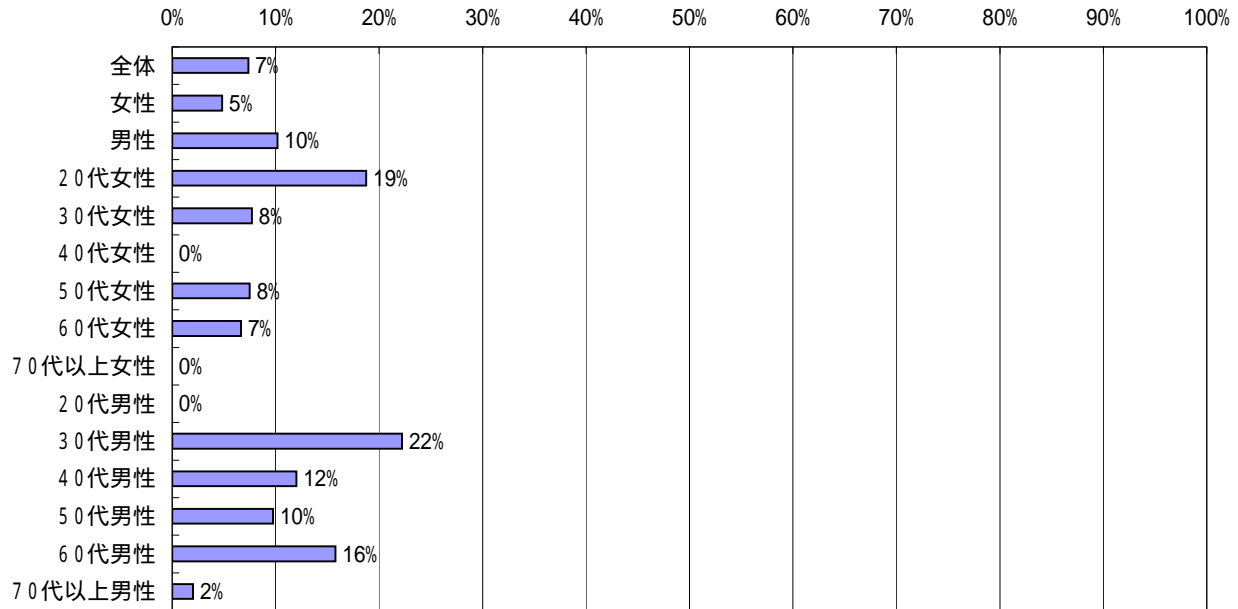
(2) 企業の生産性の低下につながる

ワーク・ライフ・バランスを進めることで、どのような効果があると思うかについて、「企業の生産性の低下につながる」と回答した人は7%となっている。

性別では、男性(10%)が女性(5%)より若干高くなっている。

年齢別では、全体と比較して、20代女性(19%)、30代男性(22%)、60代男性(16%)が高くなっている。

(2) 企業の生産性の低下につながる



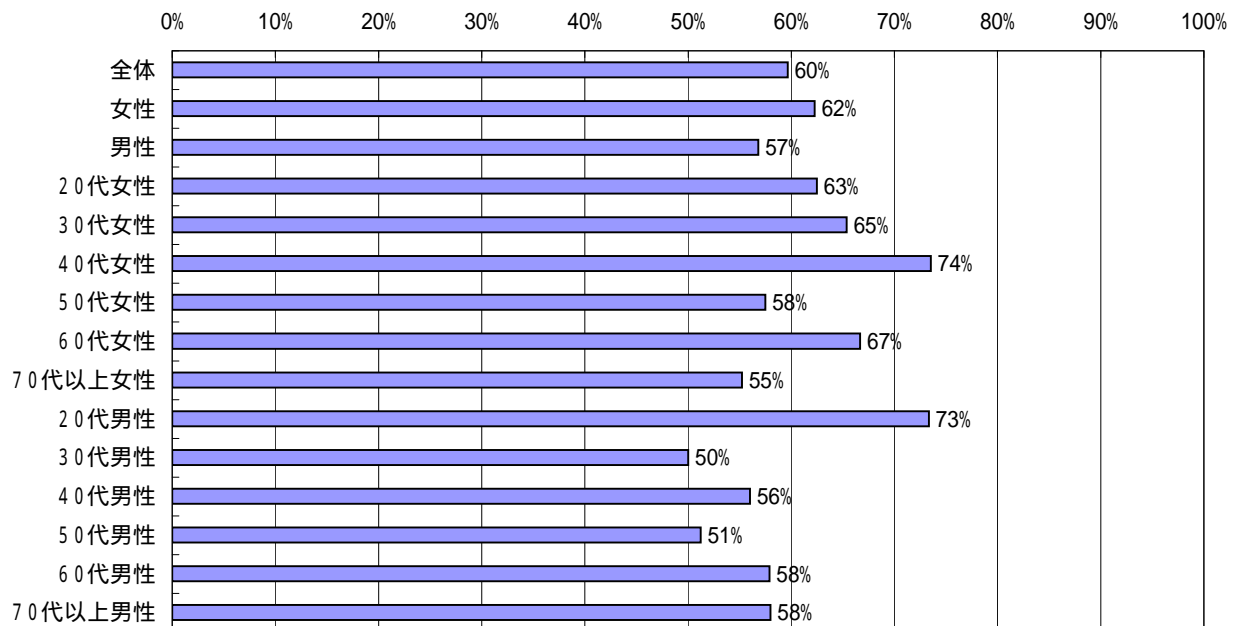
(3) 従業員が高い労働意欲を持って仕事をすることができる

ワーク・ライフ・バランスを進めることで、どのような効果があると思うかについて、「従業員が高い労働意欲を持って仕事をすることができる」と回答した人は60%となっている。

性別では、女性(62%)が男性(57%)より若干高くなっている。

年齢別では、全体と比較して、40代女性(74%)、20代男性(73%)が高く、30代男性(50%)、50代男性(51%)が低くなっている。

(3) 従業員が高い労働意欲を持って仕事をすることができる

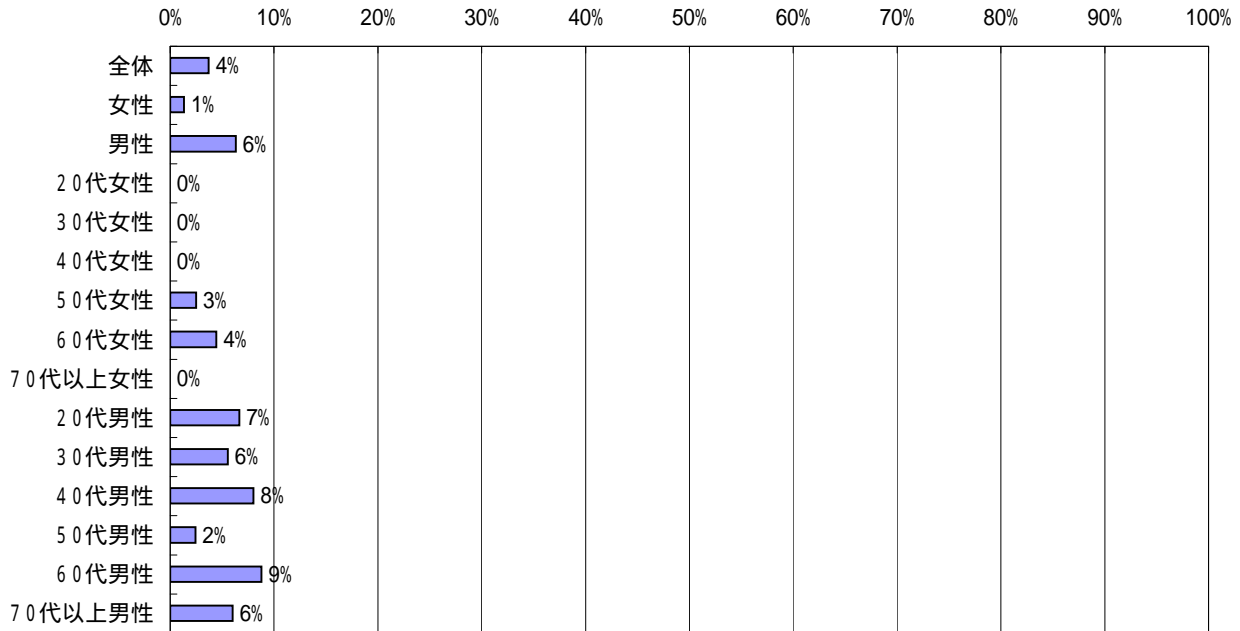


(4) 従業員の仕事に対する労働意欲が下がることにつながる

ワーク・ライフ・バランスを進めることで、どのような効果があると思うかについて、「従業員の仕事に対する労働意欲が下がることにつながる」と回答した人は4%で、「生活の質が低下する」とともに、他の項目と比較して最も低い割合となっている。

性別では、男性(6%)が女性(1%)より若干高くなっている。

(4) 従業員の仕事に対する労働意欲が下がることにつながる



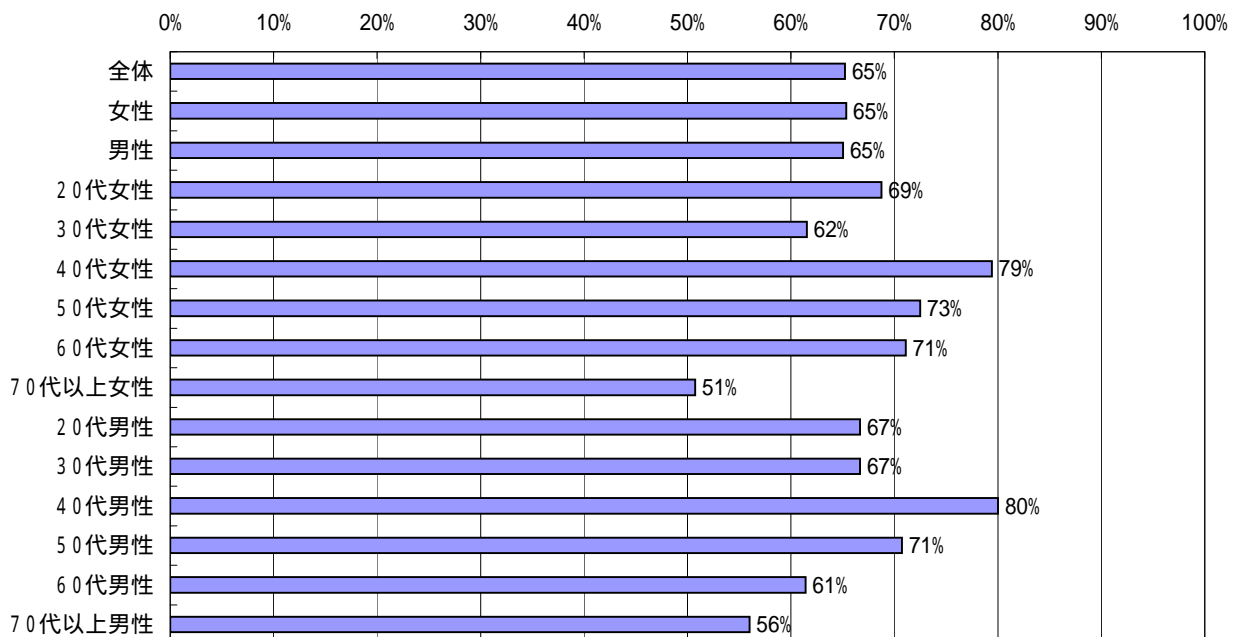
(5) 時間的にゆとりを持った豊かな生活ができる

ワーク・ライフ・バランスを進めることで、どのような効果があると思うかについて、「時間的にゆとりを持った豊かな生活ができる」と回答した人は65%となっている。

性別では、差は見られない。

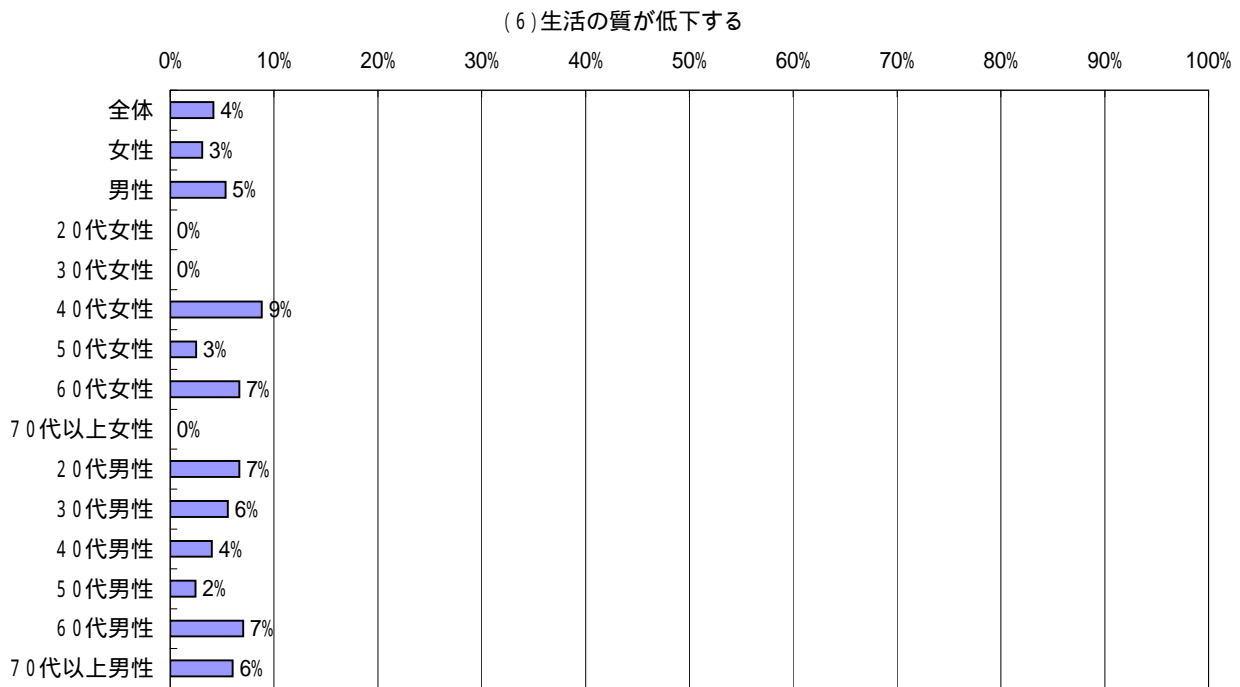
年齢別では、全体と比較して、40代女性(79%)、40代男性(80%)が高く、70代以上女性(51%)、70代以上男性(56%)が低くなっている。

(5) 時間的にゆとりを持った豊かな生活ができる



(6) 生活の質が低下する

ワーク・ライフ・バランスを進めることで、どのような効果があると思うかについて、「生活の質が低下する」と回答した人は4%で、「従業員の仕事に対する労働意欲が下がることにつながる」とともに、他の項目と比較して最も低い割合となっている。

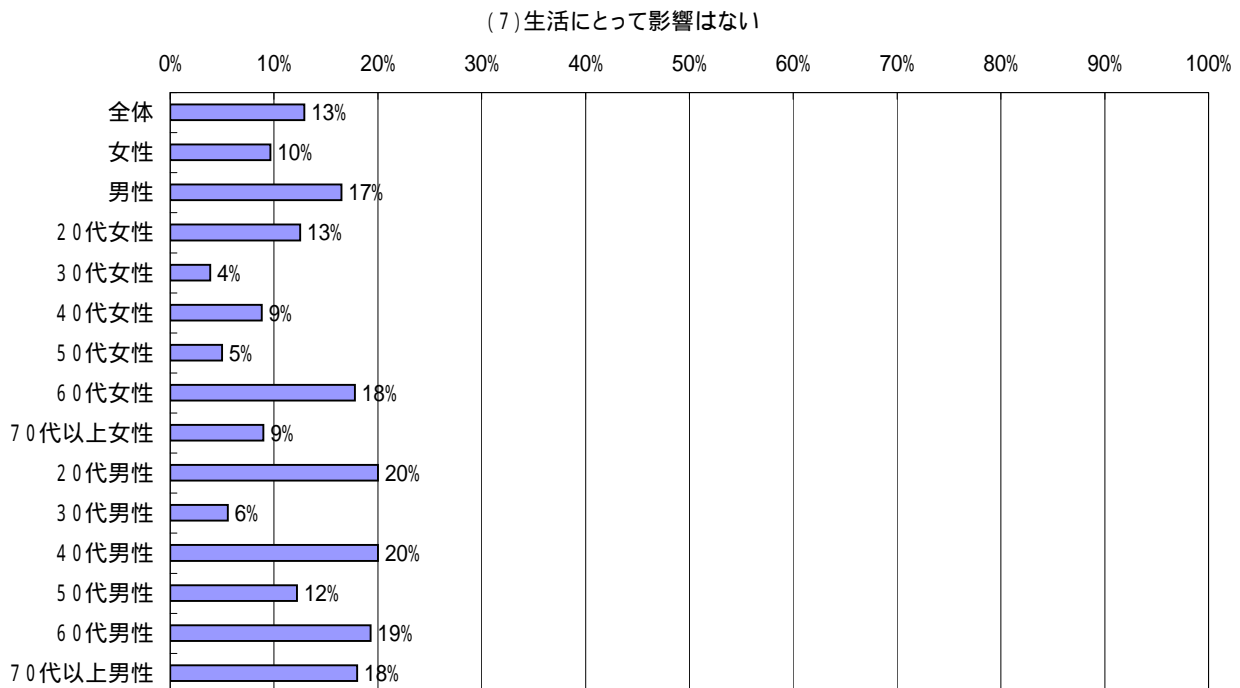


(7) 生活にとって影響はない

ワーク・ライフ・バランスを進めることで、どのような効果があると思うかについて、「生活にとって影響はない」と回答した人は13%となっている。

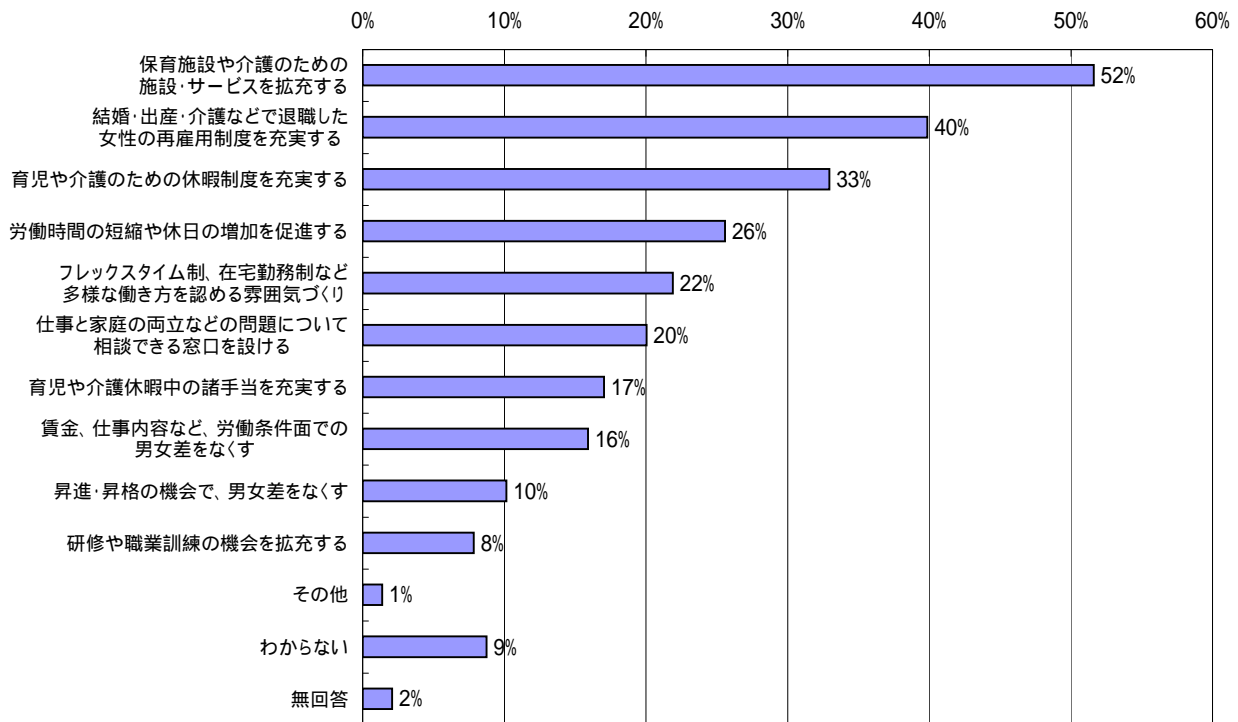
性別では、男性(17%)が女性(10%)より若干高くなっている。

年齢別では、全体と比較して、20代・40代男性(ともに20%)が高く、30代女性(4%)、50代女性(5%)、30代男性(6%)が低くなっている。



問 ワーク・ライフ・バランスを推進するために何が必要だと思いますか。

ワーク・ライフ・バランスを推進するために何が必要だと思うかについて、全体では、「保育施設や介護のための施設・サービスを拡充する」(52%)という回答が最も高く、次いで「結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実する」(40%)、「育児や介護のための休暇制度を充実する」(33%)となっている。



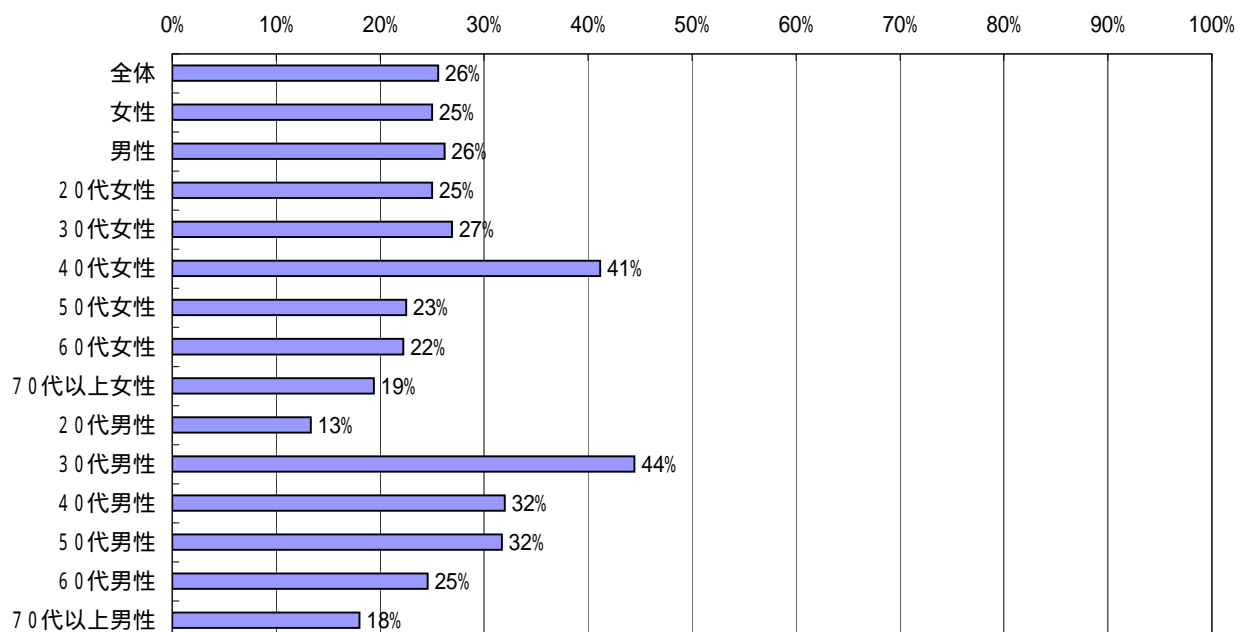
(1) 労働時間の短縮や休日の増加を促進する

ワーク・ライフ・バランスを推進するために何が必要だと思うかについて、「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」と回答した人は26%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比較して、40代女性(41%)、30代男性(44%)が高く、20代男性(13%)が低くなっている。

(1) 労働時間の短縮や休日の増加を促進する



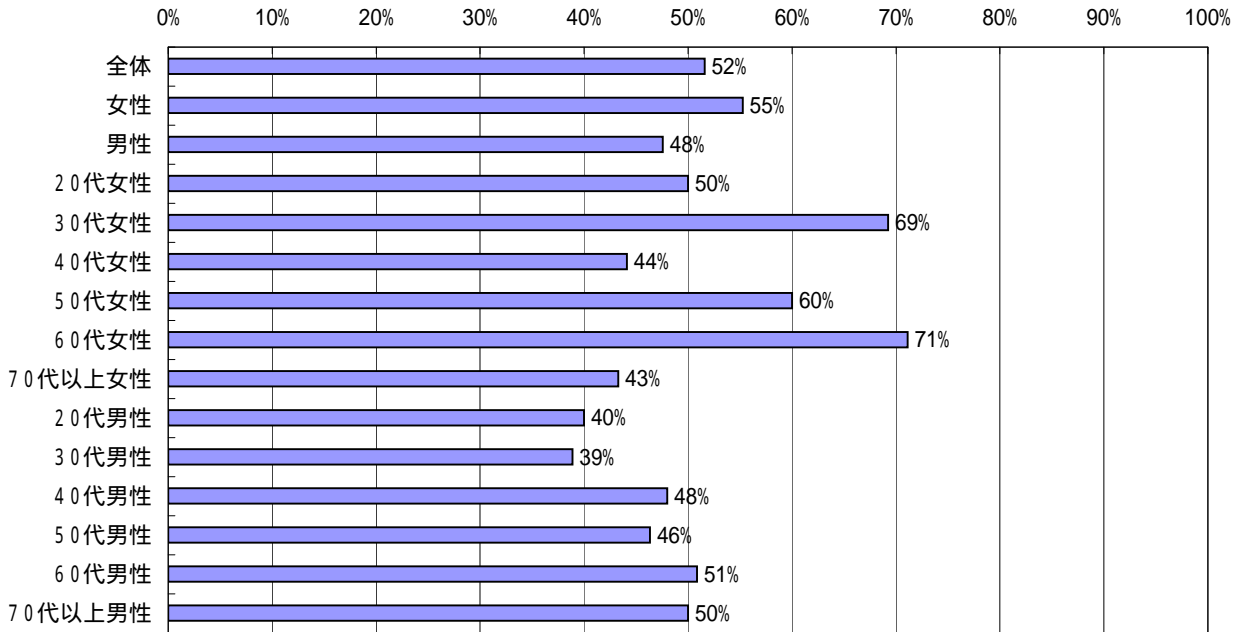
(2) 保育施設や介護のための施設・サービスを拡充する

ワーク・ライフ・バランスを推進するために何が必要だと思うかについて、「保育施設や介護のための施設・サービスを拡充する」と回答した人は52%となっている。

性別では、女性(55%)が男性(48%)より若干高くなっている。

年齢別では、全体と比較して、30代女性(69%)、60代女性(71%)が高く、20代男性(40%)、30代男性(39%)が低くなっている。

(2) 保育施設や介護のための施設・サービスを拡充する



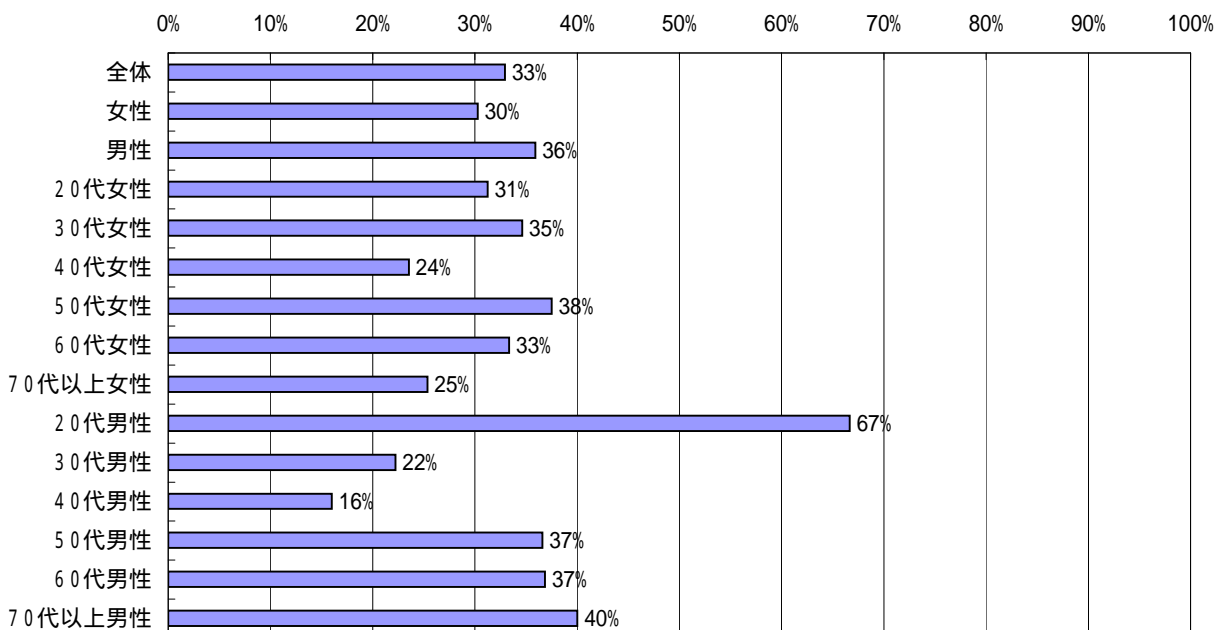
(3) 育児や介護のための休暇制度を充実する

ワーク・ライフ・バランスを推進するために何が必要だと思うかについて、「育児や介護のための休暇制度を充実する」と回答した人は33%となっている。

性別では、男性(36%)が女性(30%)より若干高くなっている。

年齢別では、全体と比較して、20代男性(67%)が特に高く、40代男性(16%)が低くなっている。

(3) 育児や介護のための休暇制度を充実する



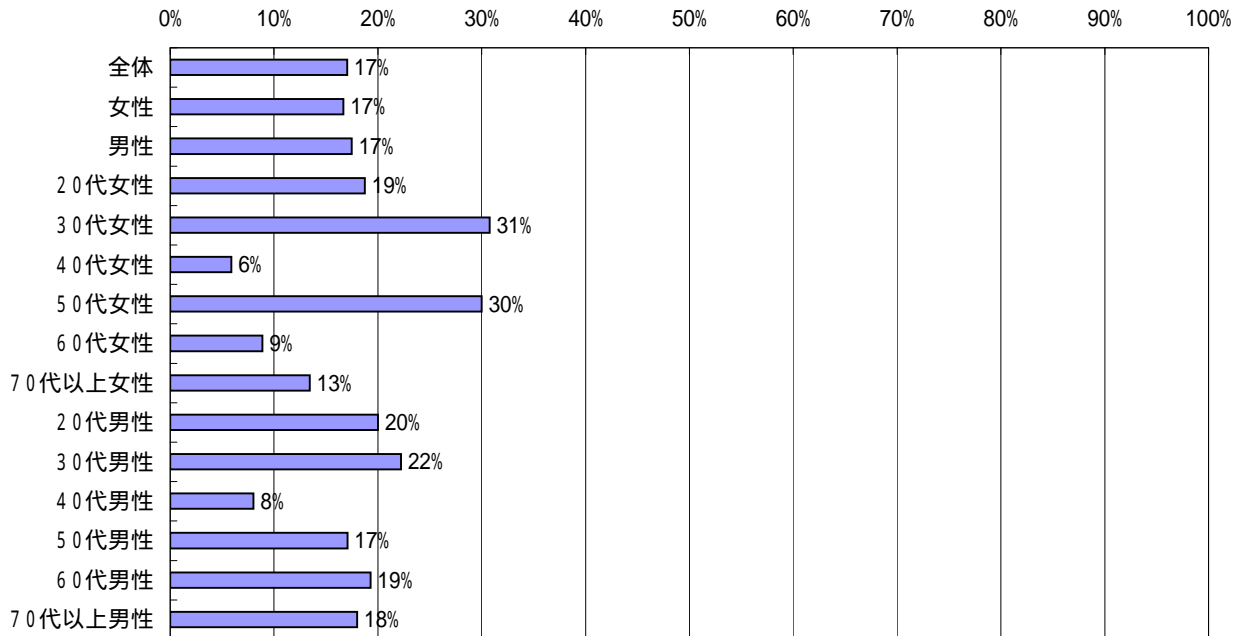
(4) 育児や介護休暇中の諸手当を充実する

ワーク・ライフ・バランスを推進するために何が必要だと思うかについて、「育児や介護休暇中の諸手当を充実する」と回答した人は17%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比較して、30代女性(31%)、50代女性(30%)が高く、40代女性(6%)、40代男性(8%)が低くなっている。

(4) 育児や介護休暇中の諸手当を充実する



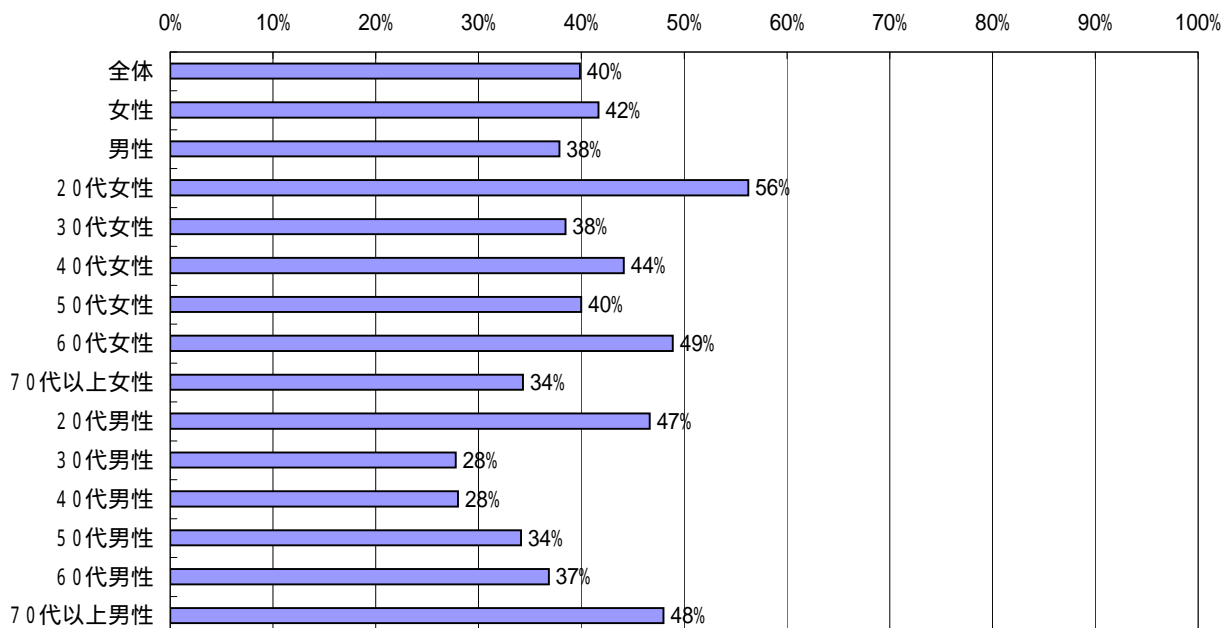
(5) 結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実する

ワーク・ライフ・バランスを推進するために何が必要だと思うかについて、「結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実する」と回答した人は40%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比較して、20代女性(56%)が高く、30代・40代男性(ともに28%)が低くなっている。

(5) 結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実する



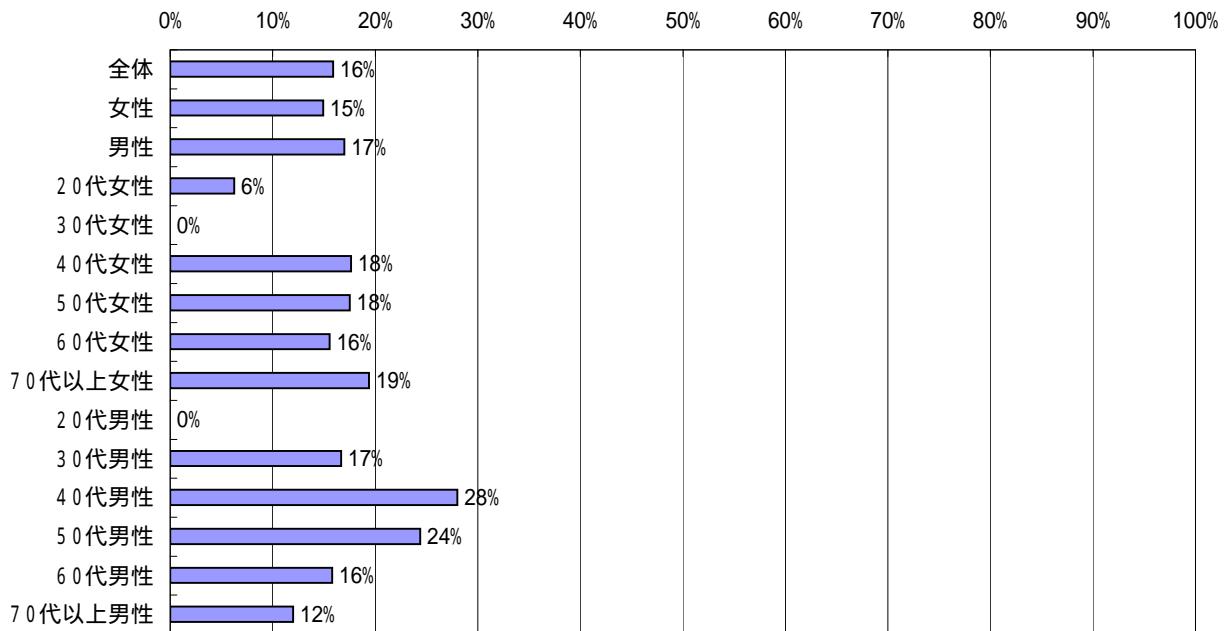
(6) 賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす

ワーク・ライフ・バランスを推進するために何が必要だと思うかについて、「賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす」と回答した人は16%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比較して、40代男性(28%)が高く、30代女性・20代男性(ともに0%)が低くなっている。

(6) 賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす



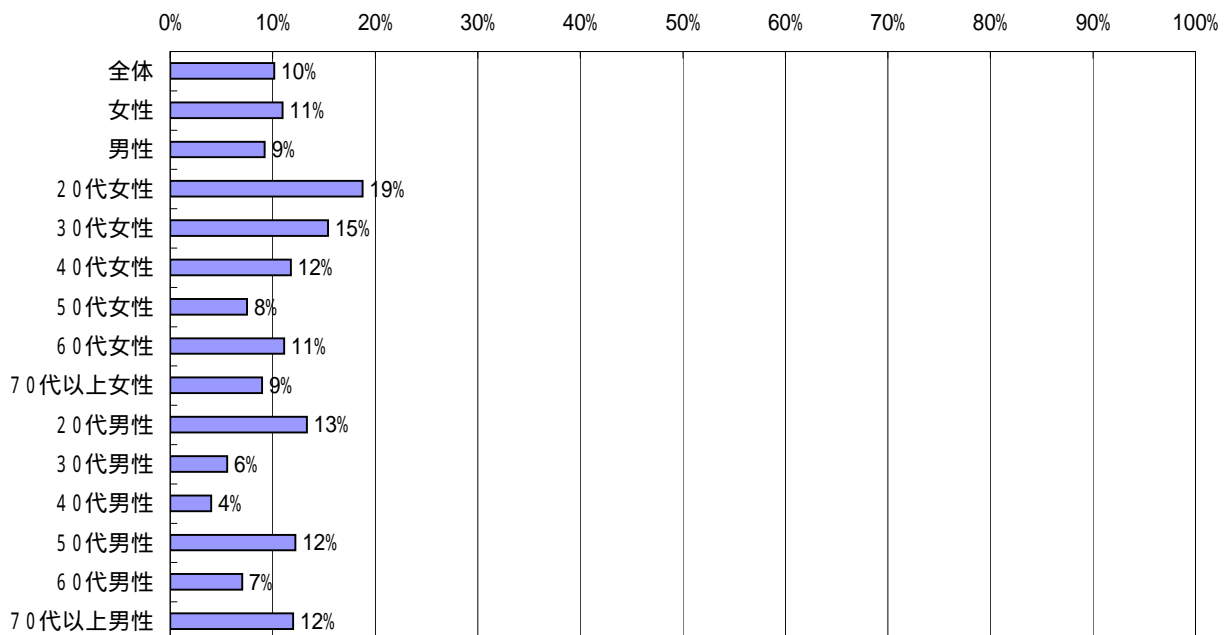
(7) 昇進・昇格の機会、男女差をなくす

ワーク・ライフ・バランスを推進するために何が必要だと思うかについて、「昇進・昇格の機会、男女差をなくす」と回答した人は10%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比較して、20代女性(19%)が高く、40代男性(4%)が低くなっている。

(7) 昇進・昇格の機会、男女差をなくす



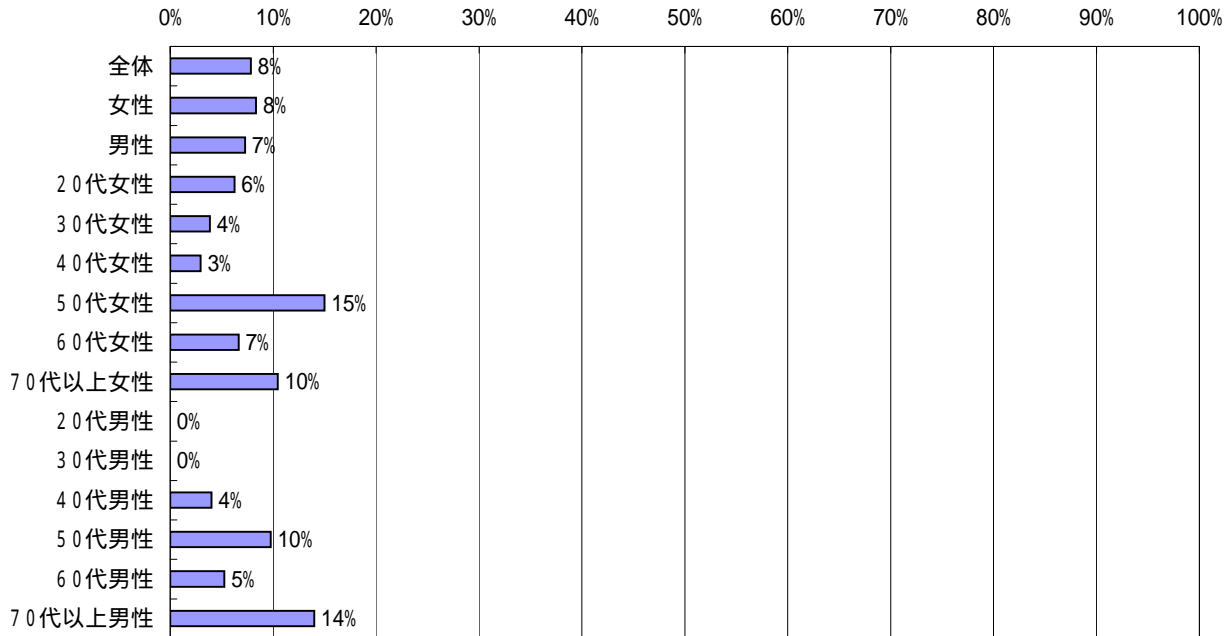
(8) 研修や職業訓練の機会を拡充する

ワーク・ライフ・バランスを推進するために何が必要だと思うかについて、「研修や職業訓練の機会を拡充する」と回答した人は8%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比較して、50代女性(15%)、70代以上男性(14%)が高く、20代・30代男性(ともに0%)が低くなっている。

(8) 研修や職業訓練の機会を拡充する



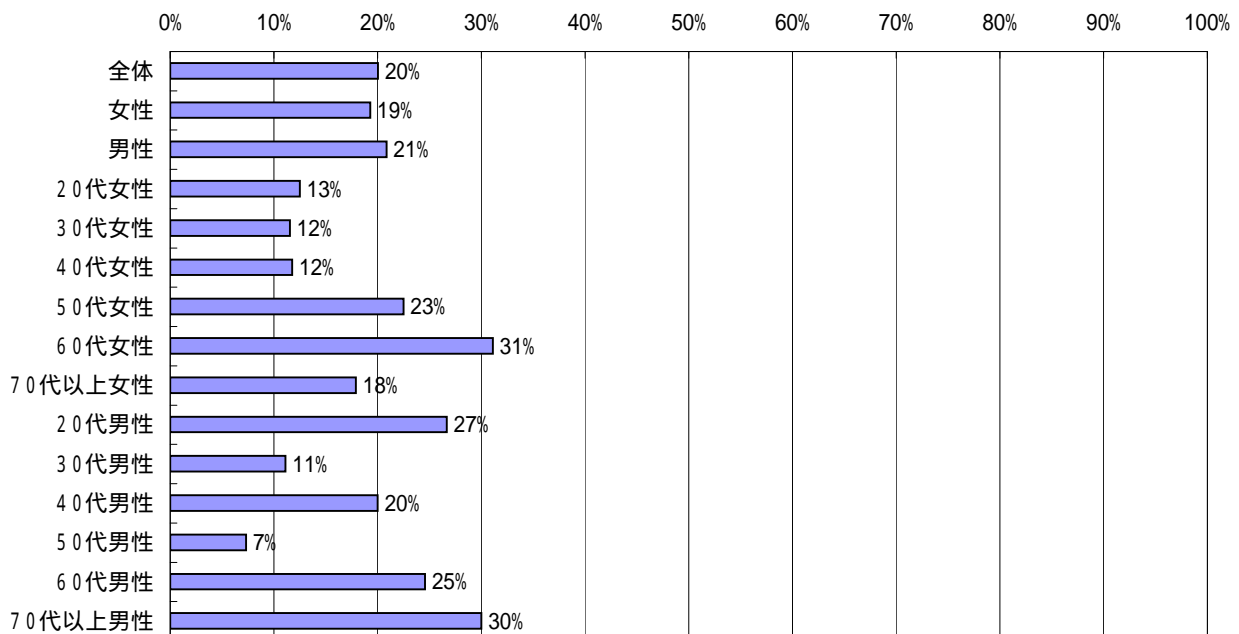
(9) 仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設ける

ワーク・ライフ・バランスを推進するために何が必要だと思うかについて、「仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設ける」と回答した人は20%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比較して、60代女性(31%)、70代以上男性(30%)が高く、50代男性(7%)が低くなっている。

(9) 仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設ける



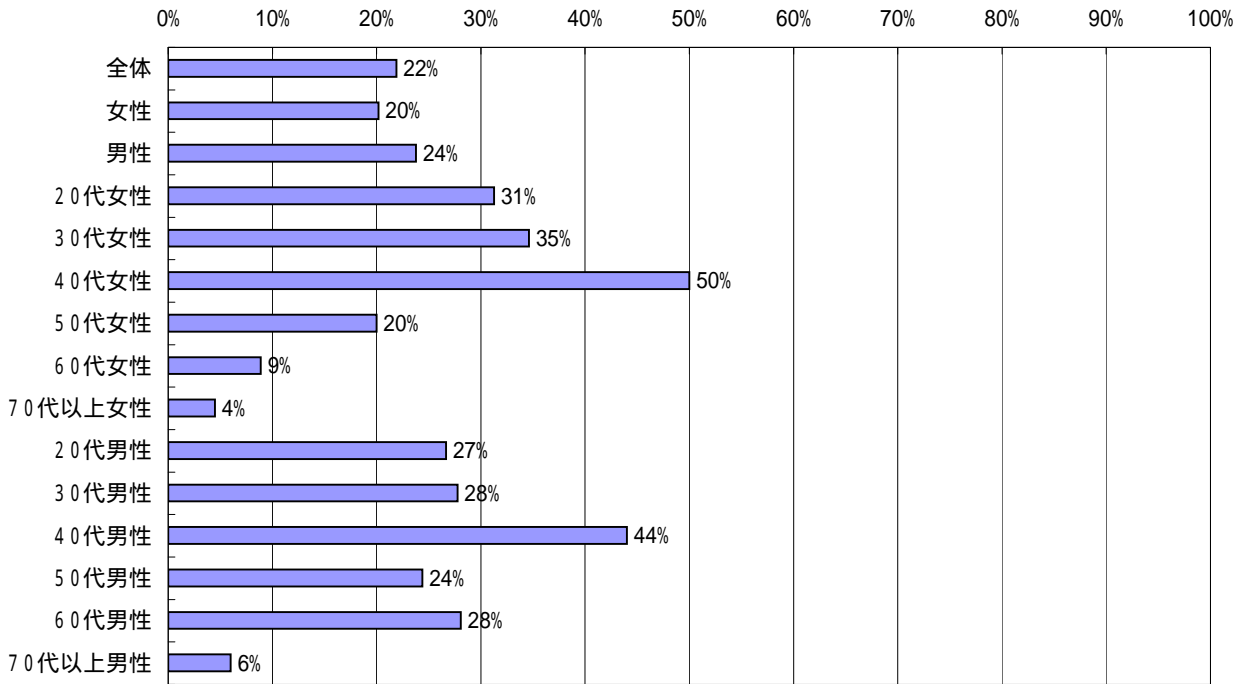
(10) フレックスタイム制、在宅勤務制など多様な働き方を認める雰囲気づくり

ワーク・ライフ・バランスを推進するために何が必要だと思うかについて、「フレックスタイム制、在宅勤務制など多様な働き方を認める雰囲気づくり」と回答した人が22%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比較して、40代女性(50%)、40代男性(44%)が高く、70代以上女性(4%)、70代以上男性(6%)が低くなっている。

(10) フレックスタイム制、在宅勤務制など多様な働き方を認める雰囲気づくり



4. 結婚・家庭生活・子育てについて

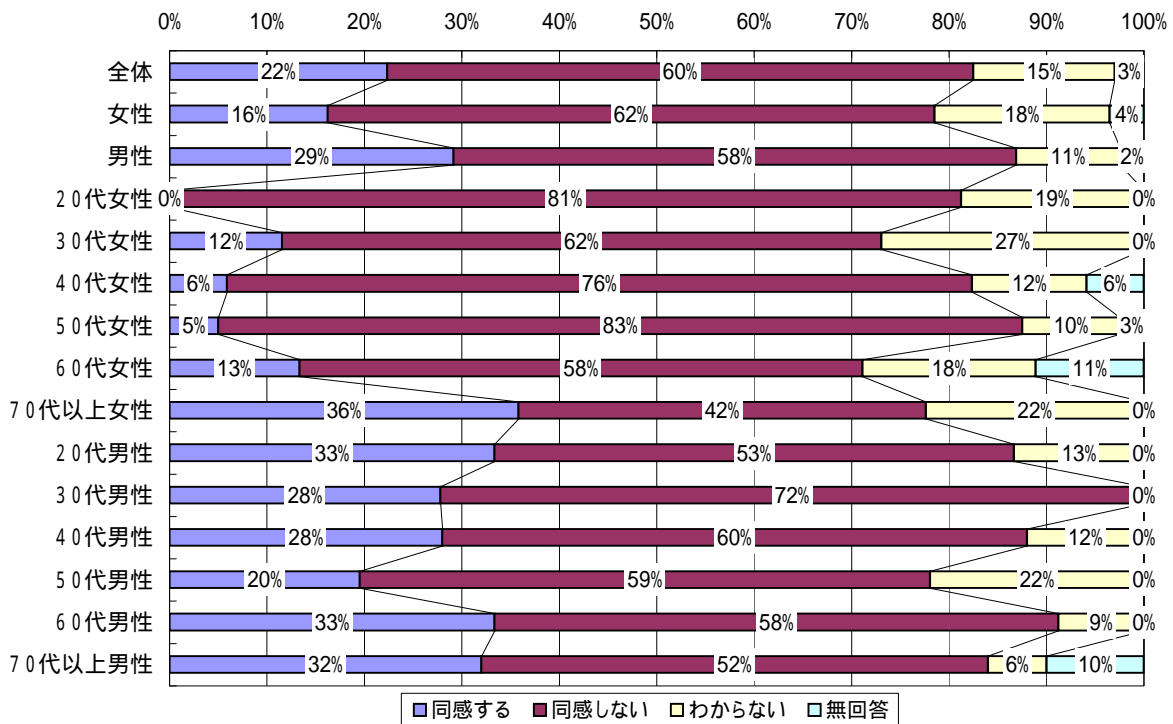
問 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について、あなたはどのようにお考えですか。

「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について、どのように考えるかについて、全体では「同感しない」(60%)という回答が約6割となっており、「同感する」(22%)を大きく上回っている。

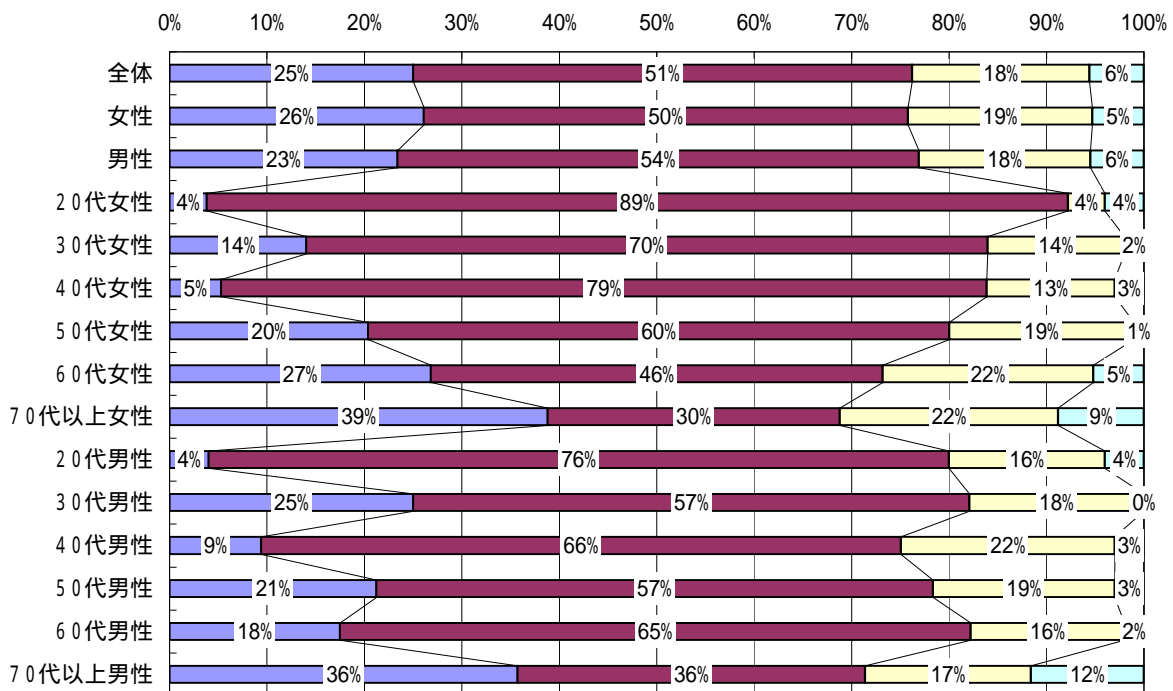
性別では、「同感する」という男性(29%)の割合が女性(16%)より高くなっている。

年齢別では、「同感する」という回答が、全体に比べ、70代以上女性(36%)、20代男性(33%)、60代男性(33%)、70代以上男性(32%)で高くなっている。

平成17年度調査結果と比較した場合、「同感しない」の割合が、全体、性別で増えているが、女性はほぼすべての年代で「同感する」という回答が低くなっているのに対し、男性は50代男性以外はすべて「同感する」という回答が高くなっている。



平成17年度調査結果(参考)



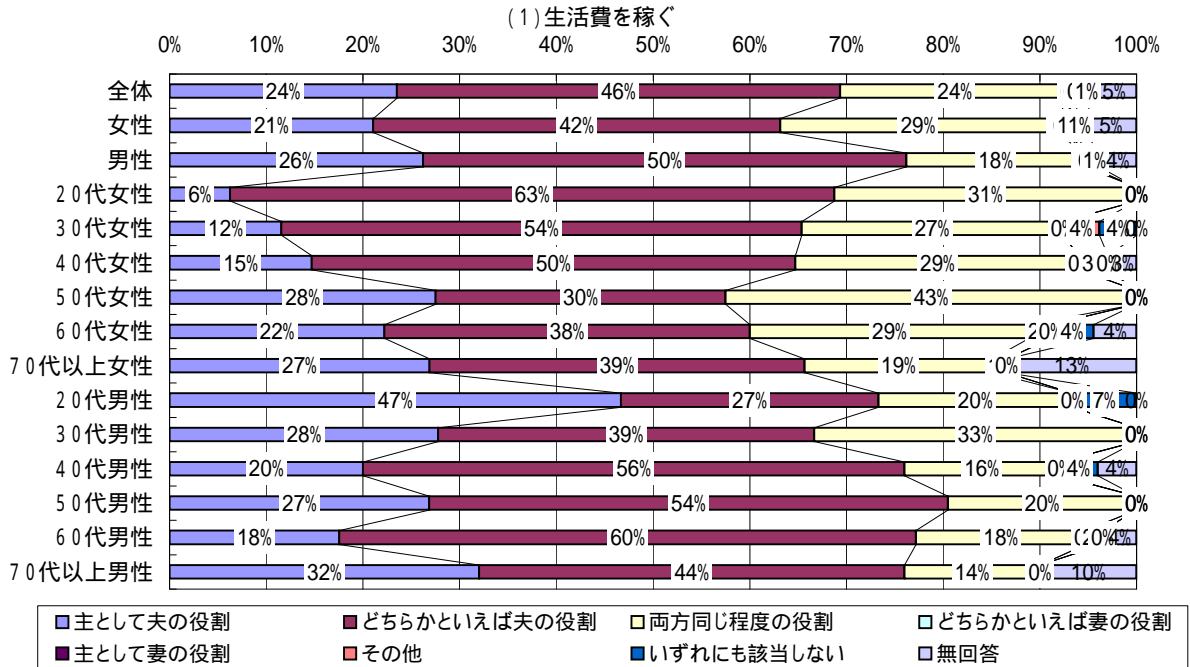
問 家庭の仕事の役割について、あなたはどのようにお考えですか。

(1) 生活費を稼ぐ

家庭の仕事の役割で、「生活費を稼ぐ」ことについてどのように考えるかについて、「夫の役割」(70%)と回答した人が約7割となっている。

性別では、「夫の役割」という男性(76%)が、女性(63%)を上回っている。

年齢別では、全体と比較して、「両方の役割」という回答が、50代女性(43%)で高いものの、すべての年代で「夫の役割」の割合が高く、50代男性(81%)が最も高くなっている。

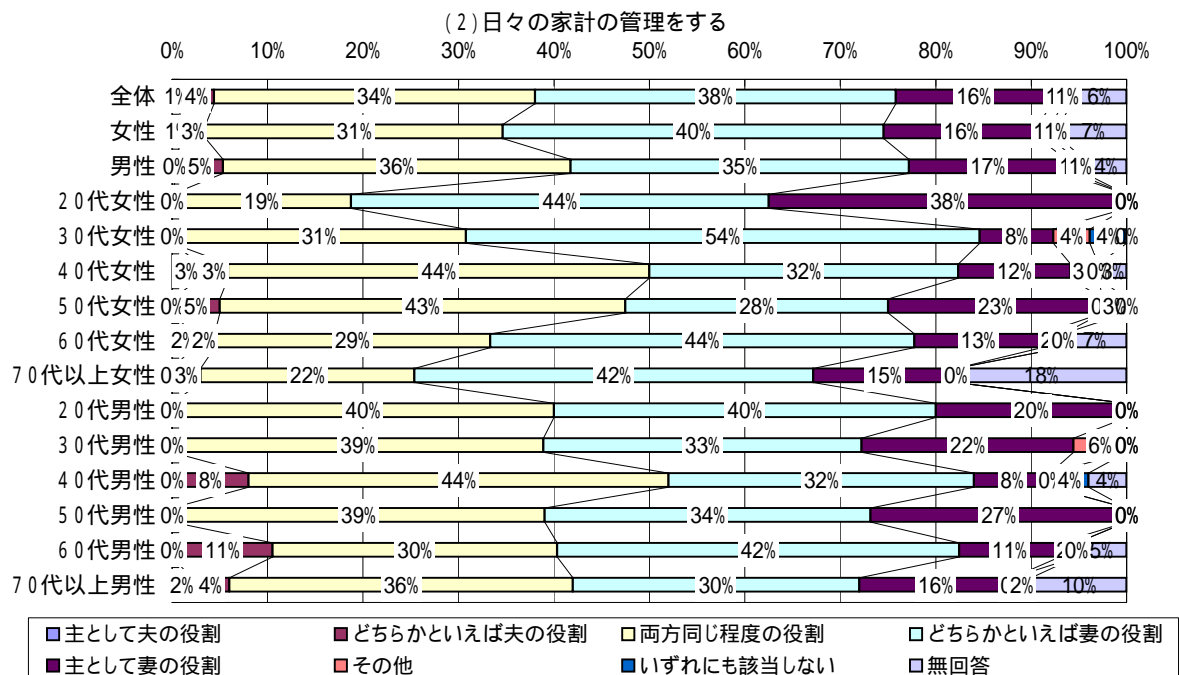


(2) 日々の家計の管理をする

家庭の仕事の役割で、「日々の家計の管理をする」ことについてどのように考えるかについて、「妻の役割」(54%)という回答の割合が5割を超えている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比較して、「妻の役割」という回答が、20代女性(82%)、30代女性(62%)で高くなっている。

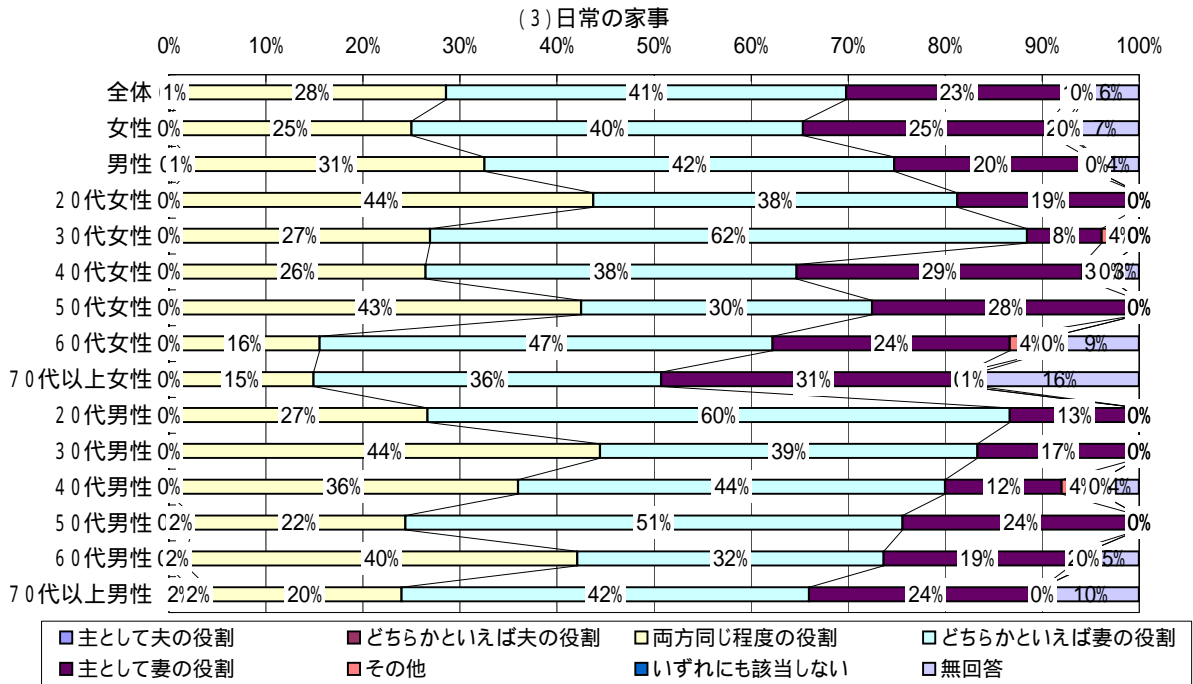


(3) 日常の家事

家庭の仕事の役割で、「日常の家事」についてどのように考えるかについて、「妻の役割」(64%)と回答した人が6割を超えている。

性別では、「妻の役割」という女性(65%)が、男性(62%)を若干上回っている。

年齢別では、全体と比較して、「妻の役割」という回答が、30代女性(70%)、60代女性(71%)、20代男性(73%)、50代男性(75%)で高くなっている。

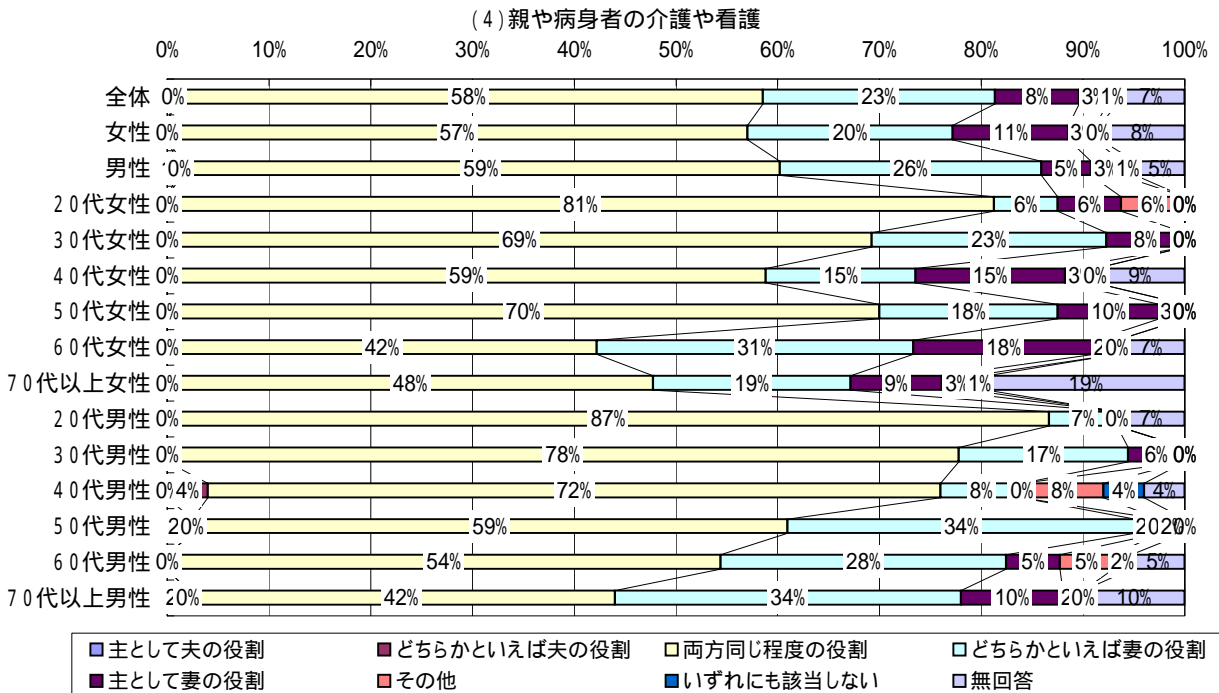


(4) 親や病身者の介護や看護

家庭の仕事の役割で、「親や病身者の介護や看護」についてどのように考えるかについて、「両方の役割」(58%)と回答した人が約6割となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、全体と比較して、「両方の役割」という回答が、20代女性(81%)、20代男性(87%)で高く、年齢が高くなるにつれ、「妻の役割」の割合が高くなっている。

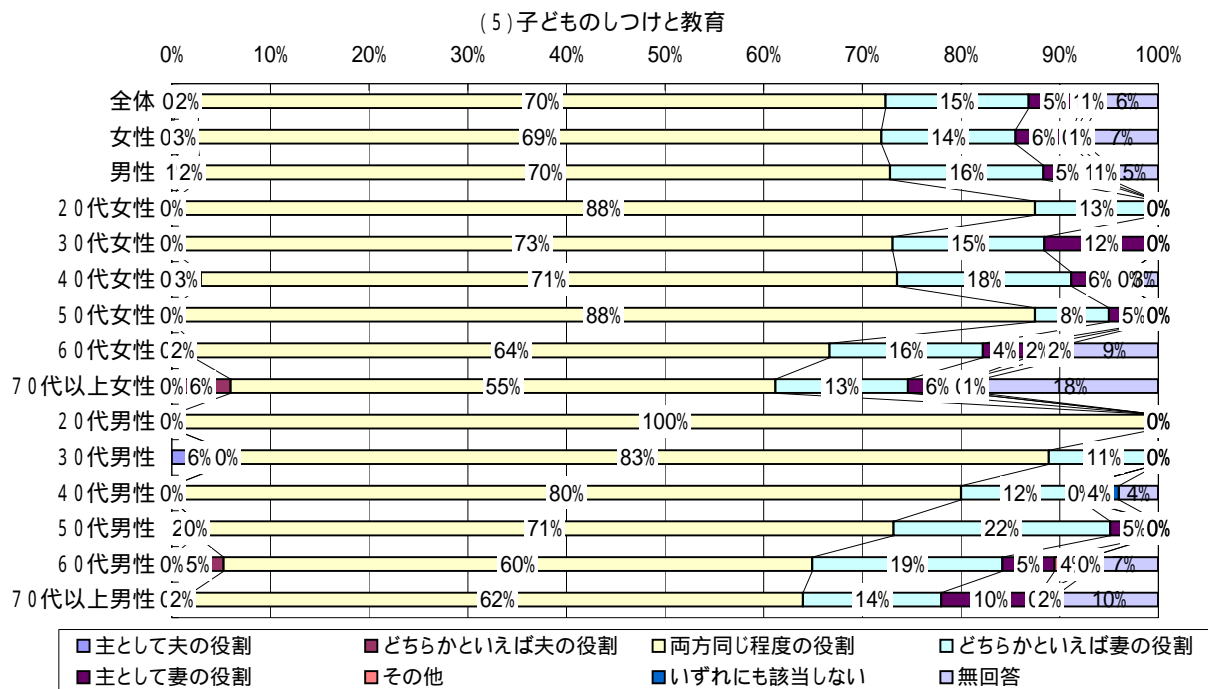


(5) 子どものしつけと教育

家庭の仕事の役割で、「子どものしつけと教育」についてどのように考えるかについて、「両方の役割」(70%)と回答した人が約7割となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、「両方の役割」という回答が、20代男性(100%)で全員となっており、次いで20代・50代女性(ともに88%)で高くなっている。

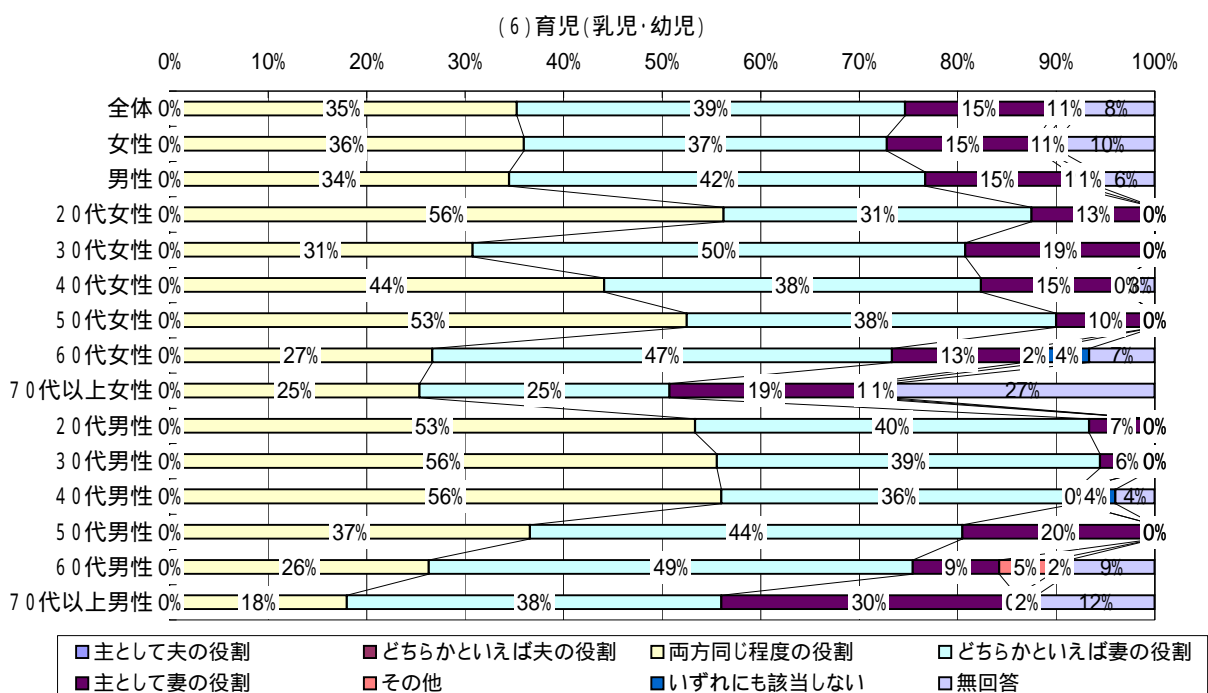


(6) 育児(乳児・幼児)

家庭の仕事の役割で、「育児(乳児・幼児)」についてどのように考えるかについて、「妻の役割」(54%)と回答した人が5割を超えている。

性別では、「妻の役割」という男性(57%)が、女性(52%)を若干上回っている。

年齢別では、「両方の役割」という回答が、20代女性(56%)、50代女性(53%)、20代男性(53%)、30代・40代男性(ともに56%)で高くなっている。

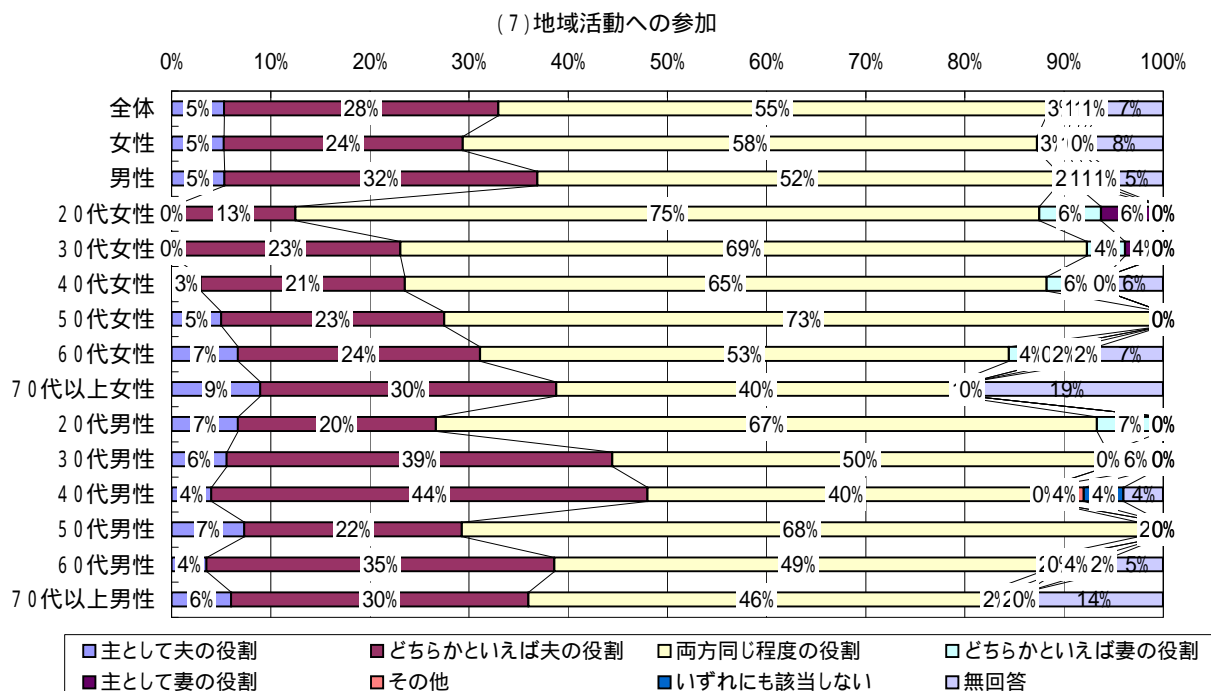


(7) 地域活動への参加

家庭の仕事の役割で、「地域活動への参加」についてどのように考えるかについて、「両方の役割」(55%)と回答した人が5割を超えている。

性別では、「夫の役割」という男性(37%)が、女性(29%)を若干上回っている。

年齢別では、「両方の役割」という回答が、20代女性(75%)で最も高くなっているが、40代男性では「夫の役割」(48%)が「両方の役割」(40%)を上回っている。



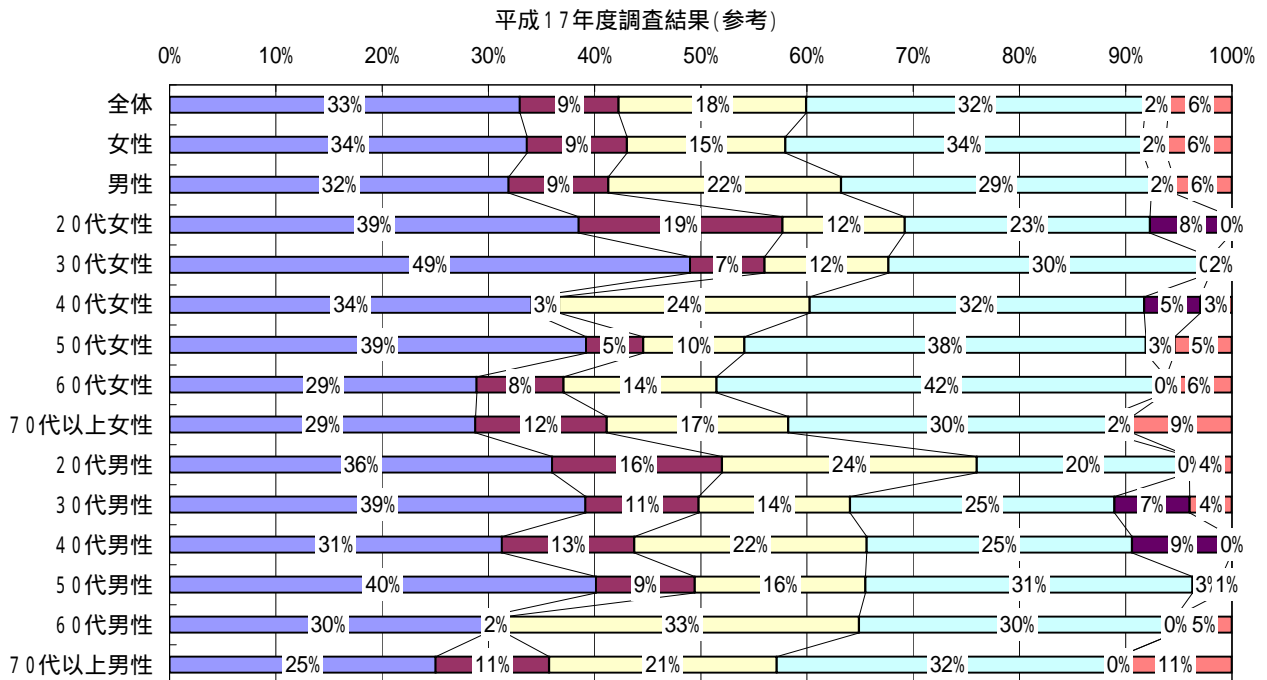
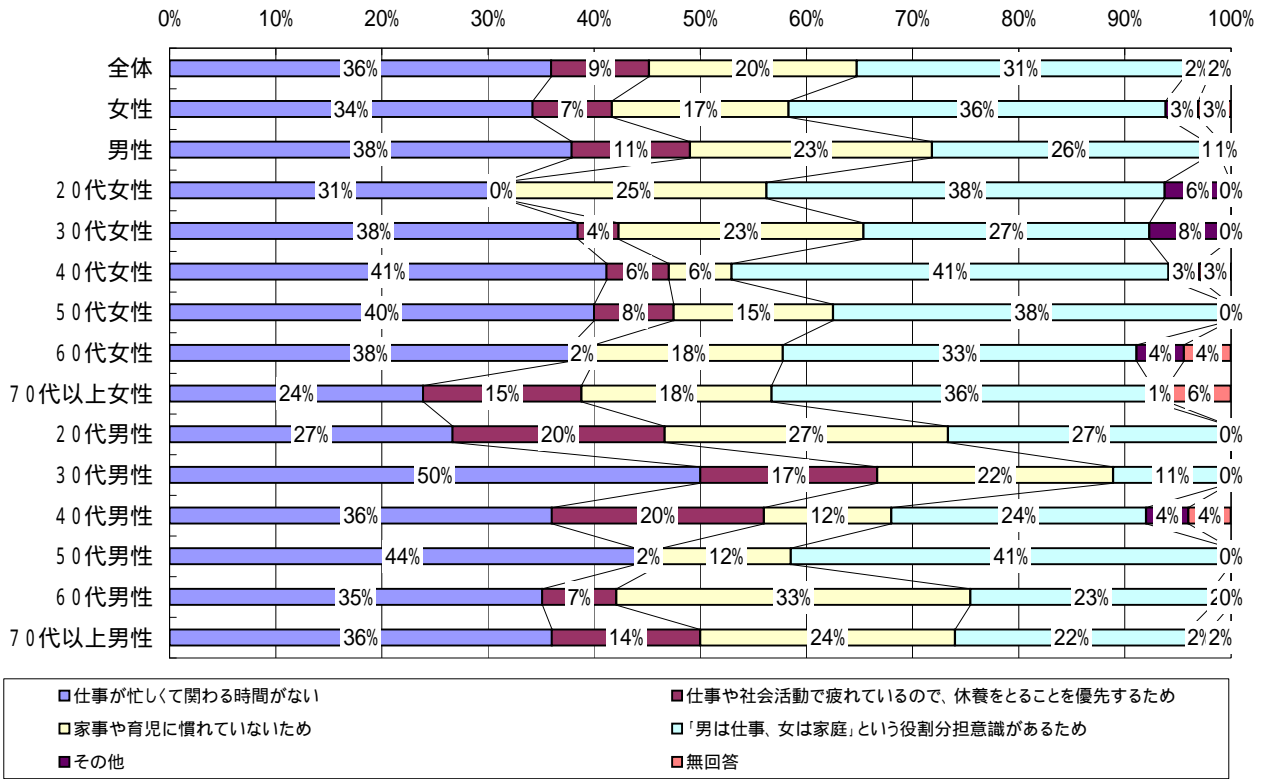
問 男性が家事や育児に参加する機会が少ないのはどうしてだと思いますか。

男性が家事や育児に参加する機会が少ないのはどうしてだと思いますかについて、全体では「仕事が忙しくて関わる時間がない」(36%)が最も高く、次いで「男は仕事、女は家庭」という役割分担意識があるため(31%)となっている。

性別では、女性において全体と異なり「男は仕事、女は家庭」という役割分担意識があるため(36%)が最も高くなっている。

年齢別では、「仕事」を原因とした回答の割合が、30代男性(67%)、40代男性(56%)で高くなっている。

平成17年度調査結果と比較した場合、男性において「仕事」を原因とした回答の割合が増えている。



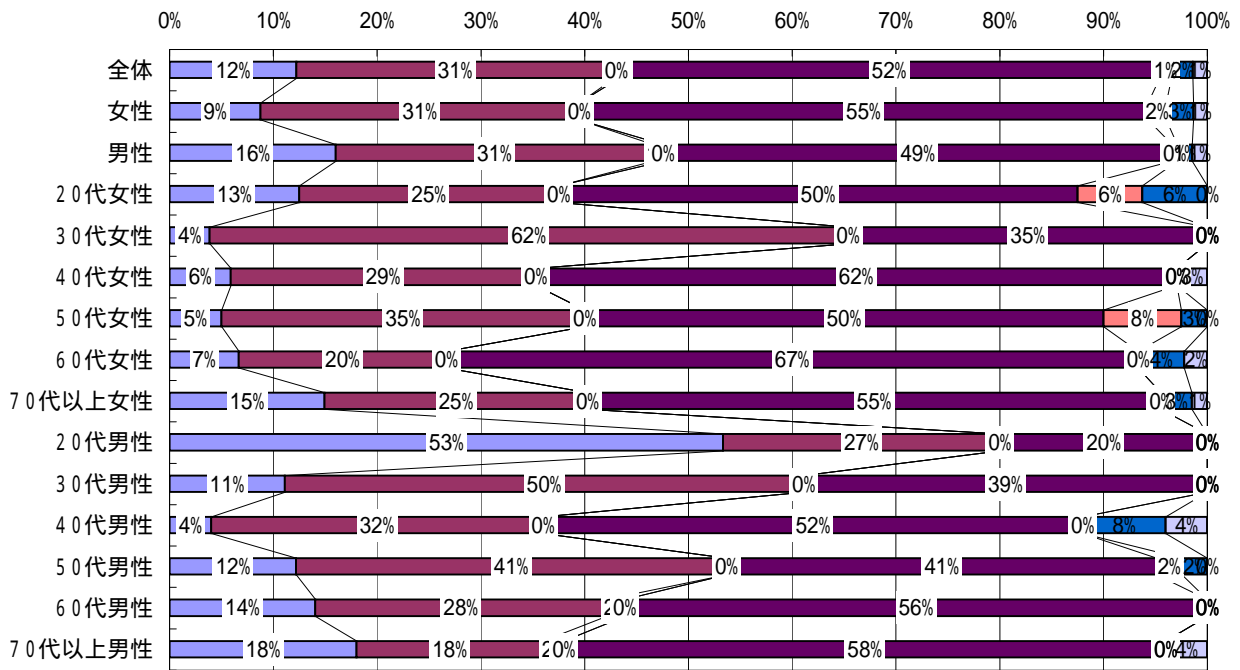
問 あなたは、子どもの育て方についてどのように考えますか。

子どもの育て方についてどのように考えるかについて、全体では「女の子にも男の子にも本人が望むように教育を受けさせたい」（52%）が最も高く、次いで「女の子らしく、男の子らしくにとらわれず、個性にあった育て方をした方がよい」（31%）となっている。

性別では、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」という男性（16%）の割合が女性（9%）より若干高くなっている。

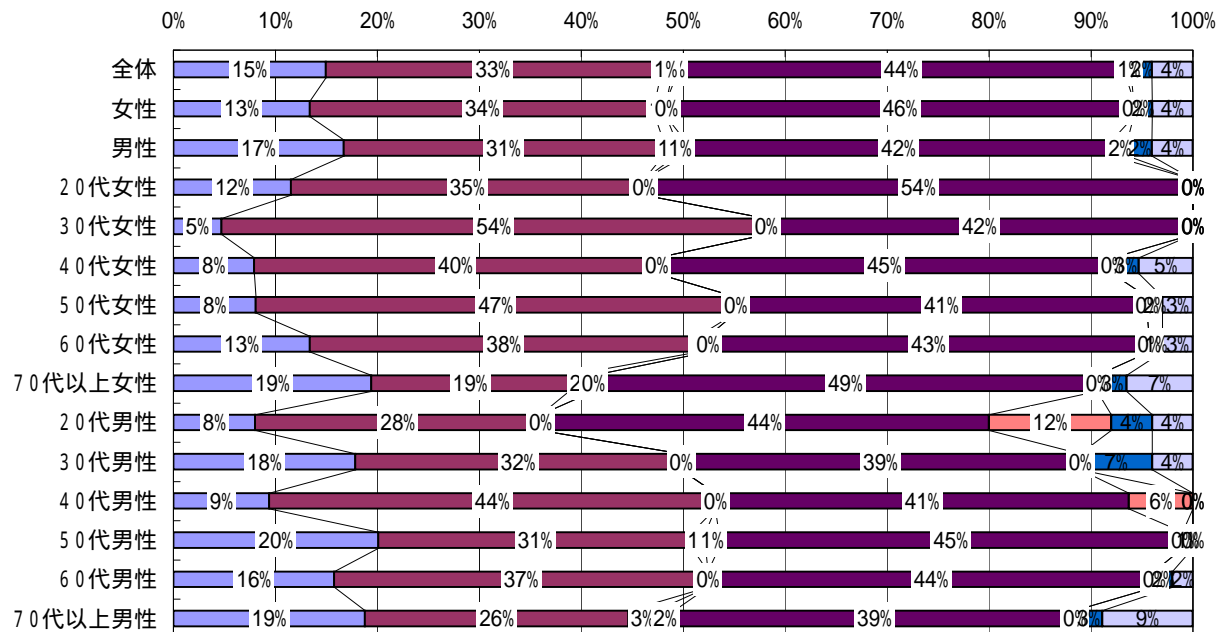
年齢別では、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」といった回答の割合が20代男性（53%）で特に高くなっている。

平成17年度調査結果と比較した場合、全体において「女の子にも男の子にも本人が望むように教育を受けさせたい」の割合が増え、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」の割合が減っている。



- 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい
- 女の子らしく、男の子らしくにとらわれず、個性にあった育て方をした方がよい
- 男の子は女の子よりも高等教育を受けさせたい
- 女の子は男の子よりも高等教育を受けさせたい
- 女の子にも男の子にも本人が望むように教育を受けさせたい
- その他
- わからない
- 無回答

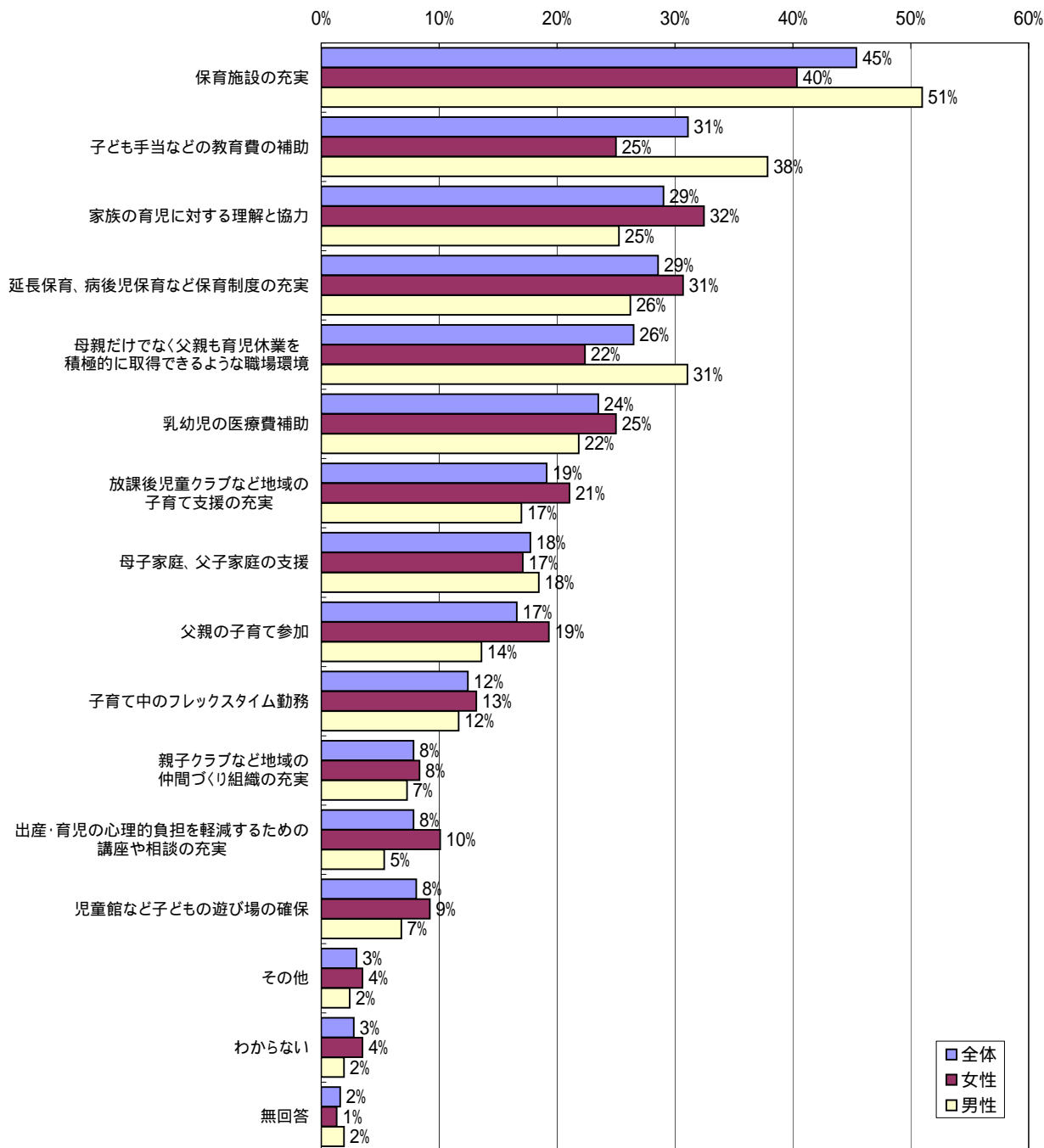
平成17年度調査結果（参考）



問 安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思いますか。

安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思うかについて、「保育施設の充実」(45%)が最も高く、次いで「子ども手当などの教育費の補助」(31%)となっている。

性別では、女性が「保育施設の充実」(40%)、「家族の育児に対する理解と協力」(32%)、「延長保育、病後児保育など保育制度の充実」(31%)の順であるのに対して、男性は「保育施設の充実」(51%)、「子ども手当などの教育費の補助」(38%)、「母親だけでなく父親も育児休業を積極的に取得できるような職場環境」(31%)となっている。



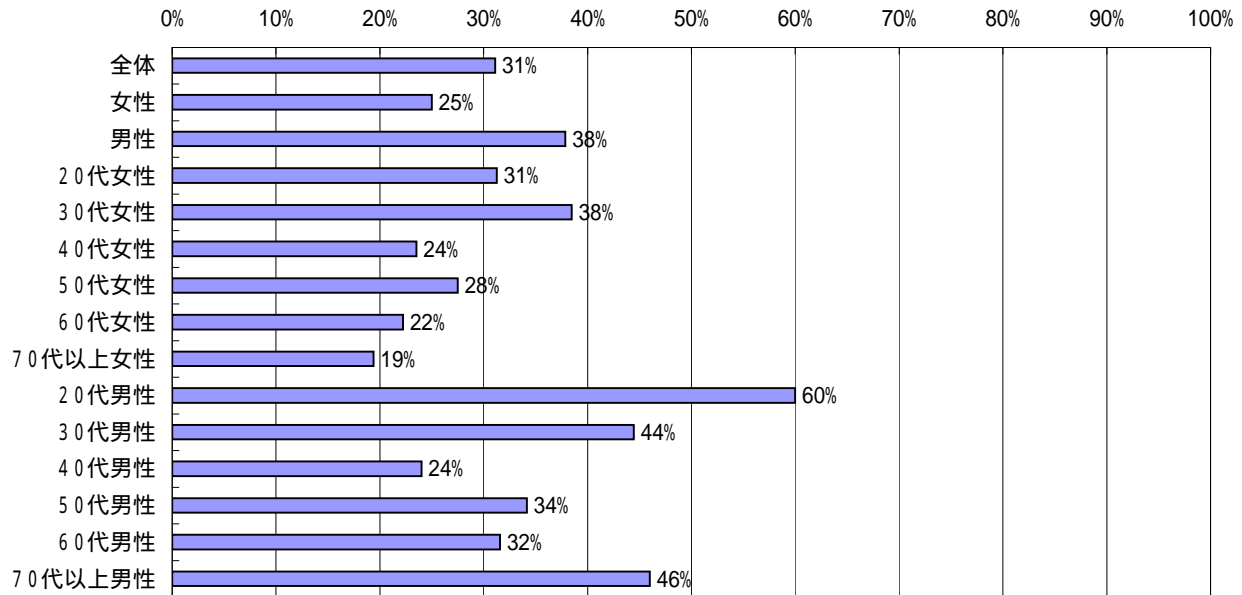
(1) 子ども手当などの教育費の補助

安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思うかについて、「子ども手当などの教育費の補助」と回答した人は31%となっている。

性別では、男性(38%)が、女性(25%)を上回っている。

年齢別では、20代男性(60%)で最も高くなっており、70代以上女性(19%)で最も低くなっている。

(1)子ども手当などの教育費の補助



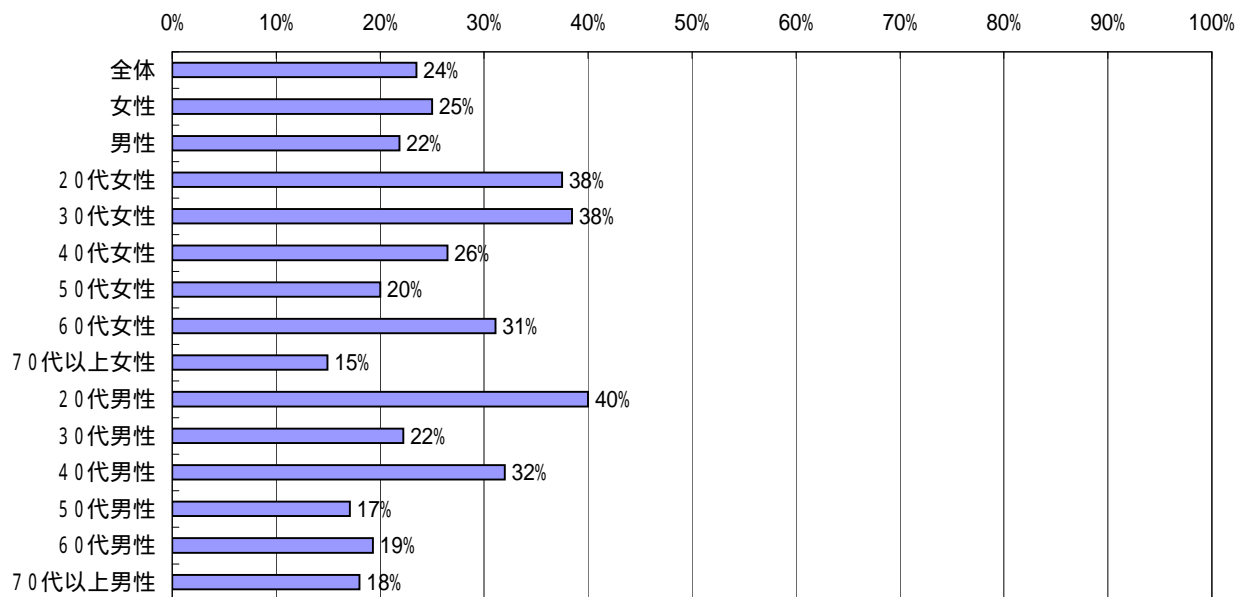
(2) 乳幼児の医療費補助

安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思うかについて、「乳幼児の医療費補助」と回答した人は24%となっている。

性別では、女性(25%)が、男性(22%)を若干上回っている。

年齢別では、20代・30代女性(ともに38%)、20代男性(40%)で最も高くなっており、70代以上女性(15%)で最も低くなっている。

(2)乳幼児の医療費補助



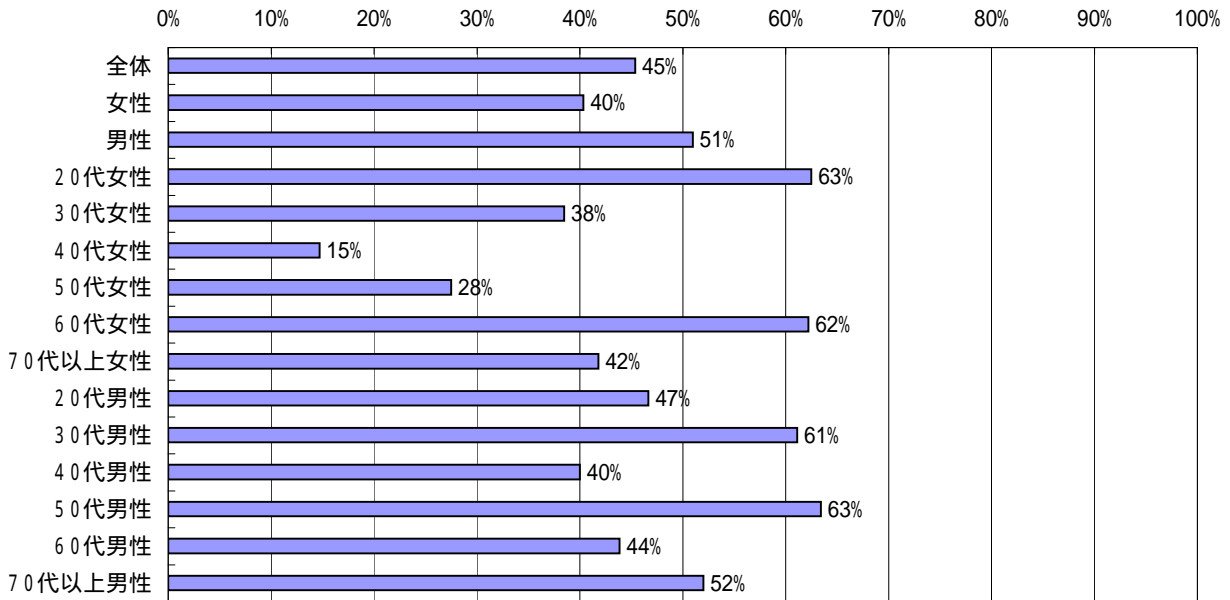
(3) 保育施設の充実

安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思うかについて、「保育施設の充実」と回答した人は45%となっている。

性別では、男性(51%)が、女性(40%)を上回っている。

年齢別では、20代女性(63%)、60代女性(62%)、30代男性(61%)、50代男性(63%)で6割を超えており、40代女性(15%)で最も低くなっている。

(3) 保育施設の充実



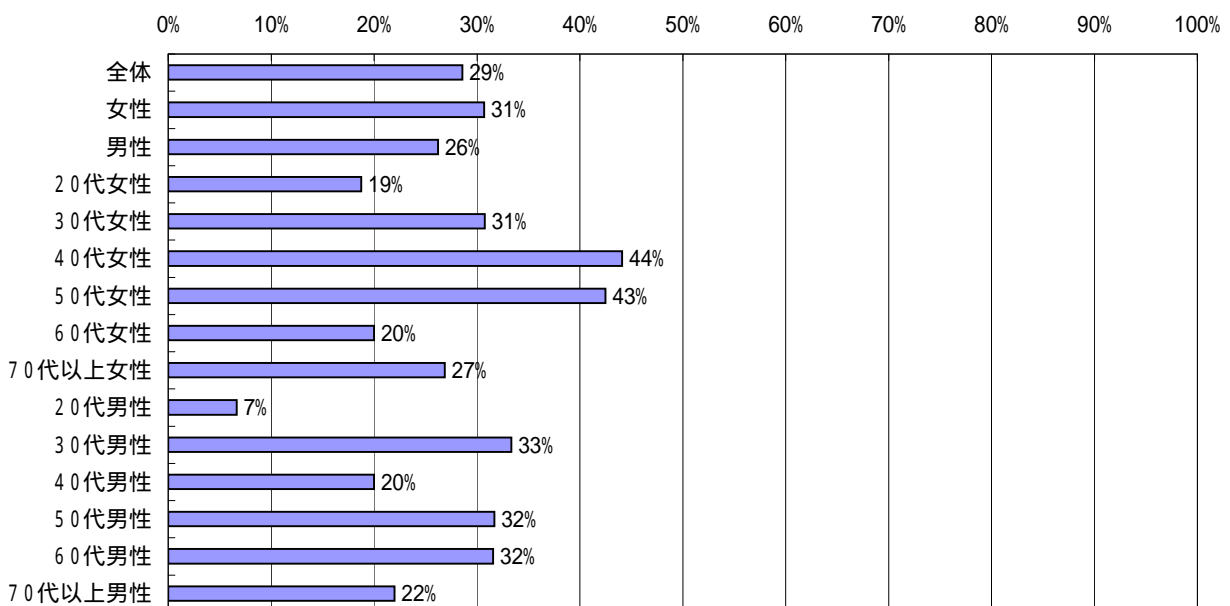
(4) 延長保育、病後児保育など保育制度の充実

安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思うかについて、「延長保育、病後児保育など保育制度の充実」と回答した人は28%となっている。

性別では、女性(31%)が、男性(26%)を若干上回っている。

年齢別では、40代女性(44%)、50代女性(43%)で割合が高くなっている。

(4) 延長保育、病後児保育など保育制度の充実



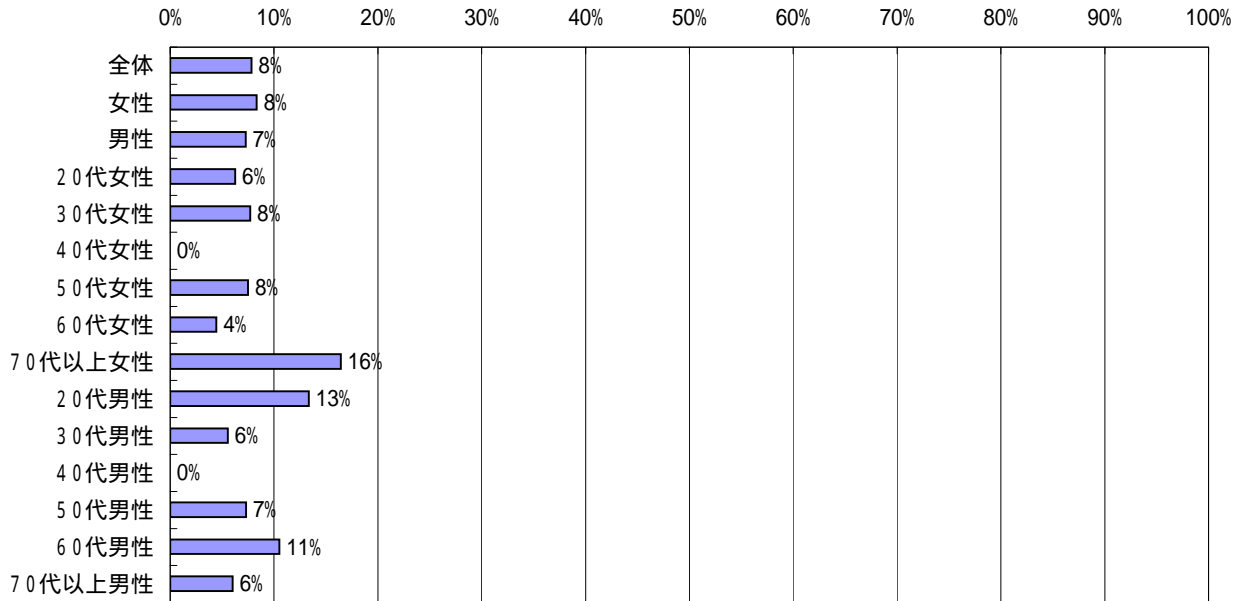
(5) 親子クラブなど地域の仲間づくり組織の充実

安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思うかについて、「親子クラブなど地域の仲間づくり組織の充実」と回答した人は8%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、70代以上女性(16%)で割合が高くなっている。

(5) 親子クラブなど地域の仲間づくり組織の充実



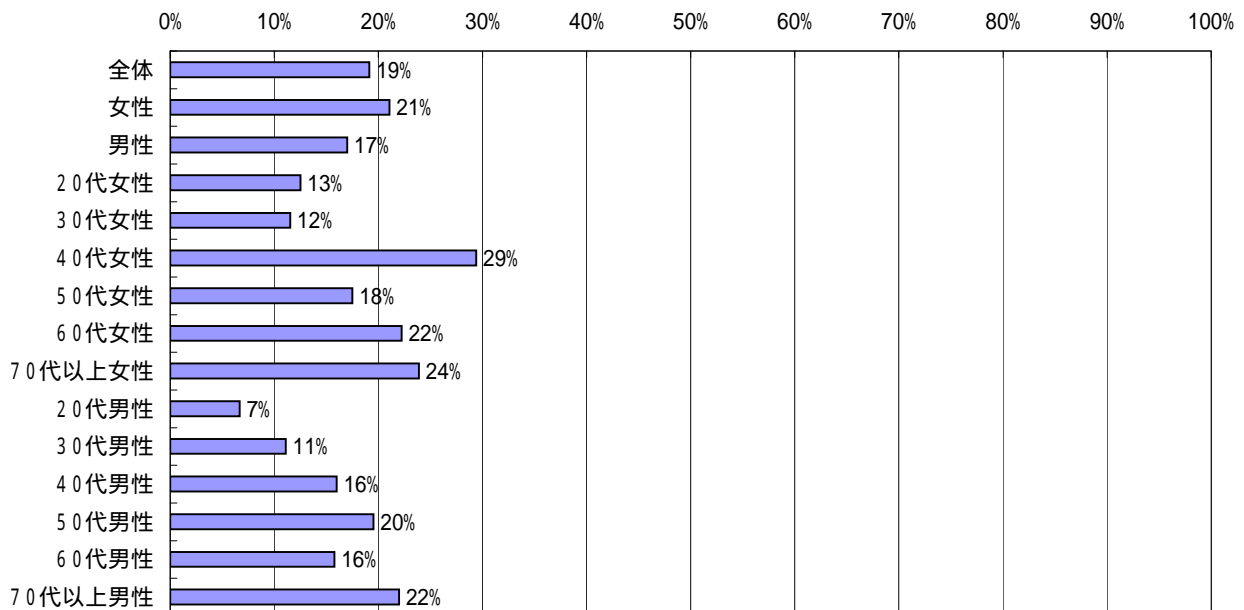
(6) 放課後児童クラブなど地域の子育て支援の充実

安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思うかについて、「放課後児童クラブなど地域の子育て支援の充実」と回答した人は19%となっている。

性別では、女性(21%)が男性(17%)を若干上回っている。

年齢別では、40代女性(29%)で割合が高く、20代、30代で男女とも低くなっている。

(6) 放課後児童クラブなど地域の子育て支援の充実



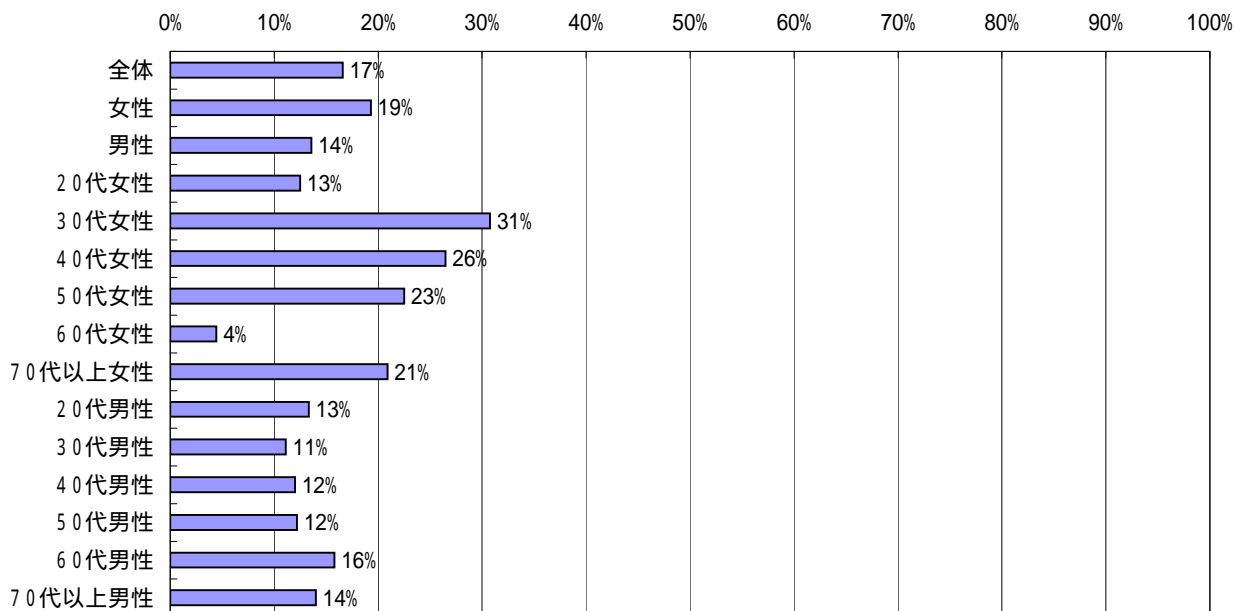
(7) 父親の子育て参加

安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思うかについて、「父親の子育て参加」と回答した人は17%となっている。

性別では、女性(19%)が男性(14%)を若干上回っている。

年齢別では、30代女性(31%)40代女性(26%)で割合が高くなっている。

(7)父親の子育て参加



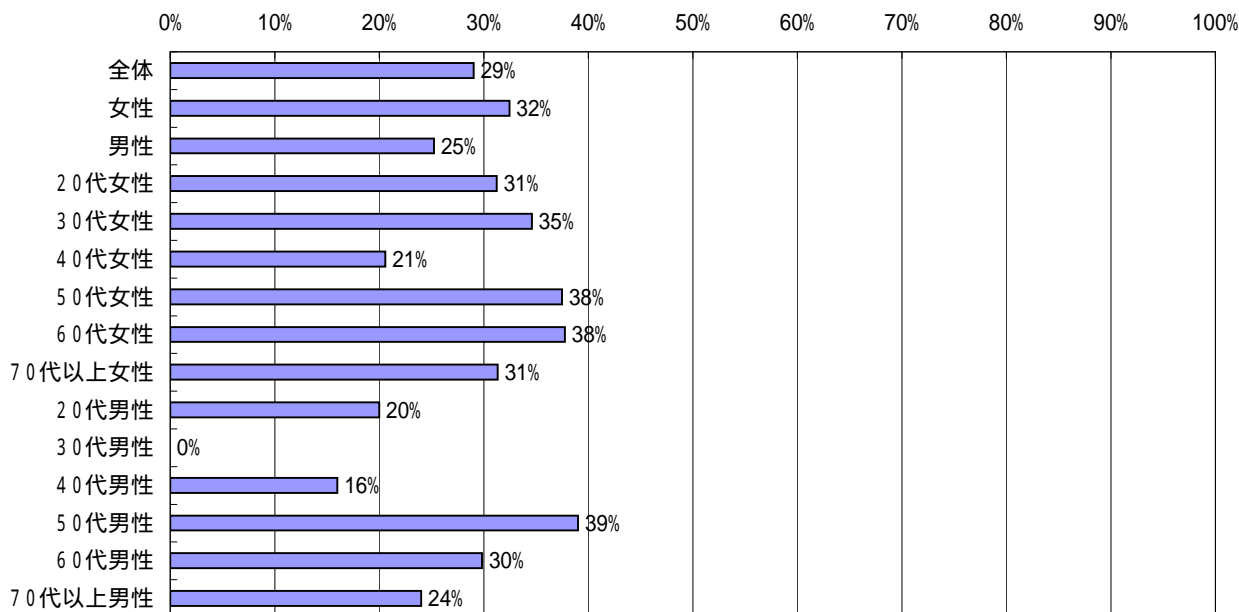
(8) 家族の育児に対する理解と協力

安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思うかについて、「家族の育児に対する理解と協力」と回答した人は29%となっている。

性別では、女性(32%)が男性(25%)を若干上回っている。

年齢別では、20代から40代男性で割合が低くなっている。

(8)家族の育児に対する理解と協力



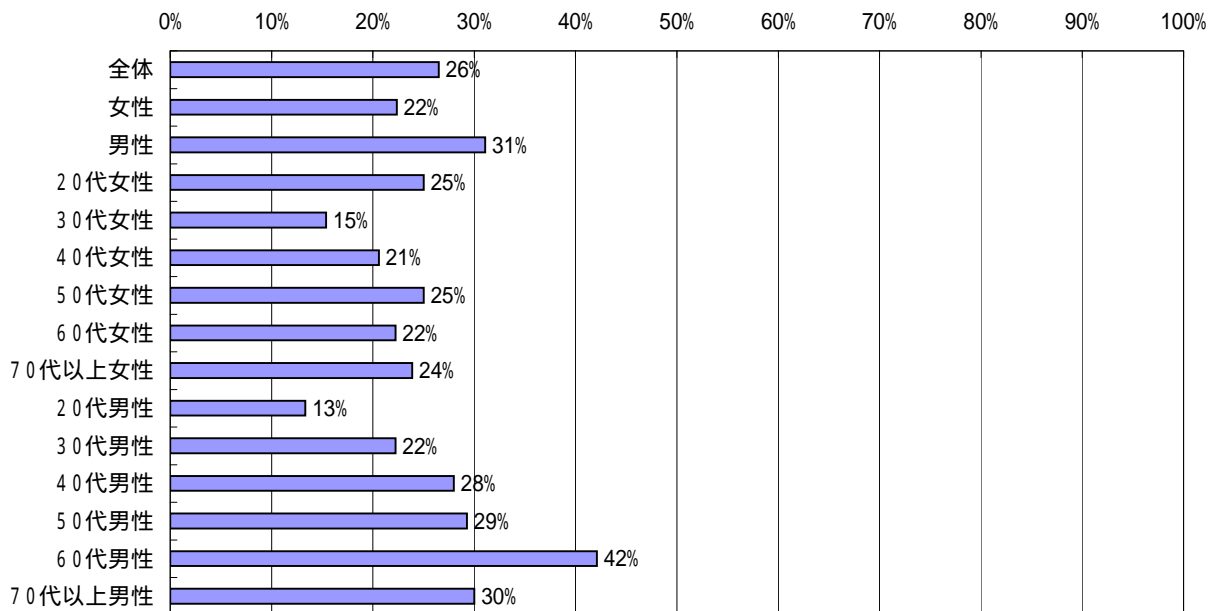
(9) 母親だけでなく父親も育児休業を積極的に取得できるような職場環境

安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思うかについて、「母親だけでなく父親も育児休業を積極的に取得できるような職場環境」と回答した人は26%となっている。

性別では、男性(31%)が女性(22%)を若干上回っている。

年齢別では、60代男性(42%)で割合が高く、20代男性(13%)で低くなっている。

(9) 母親だけでなく父親も育児休業を積極的に取得できるような職場環境



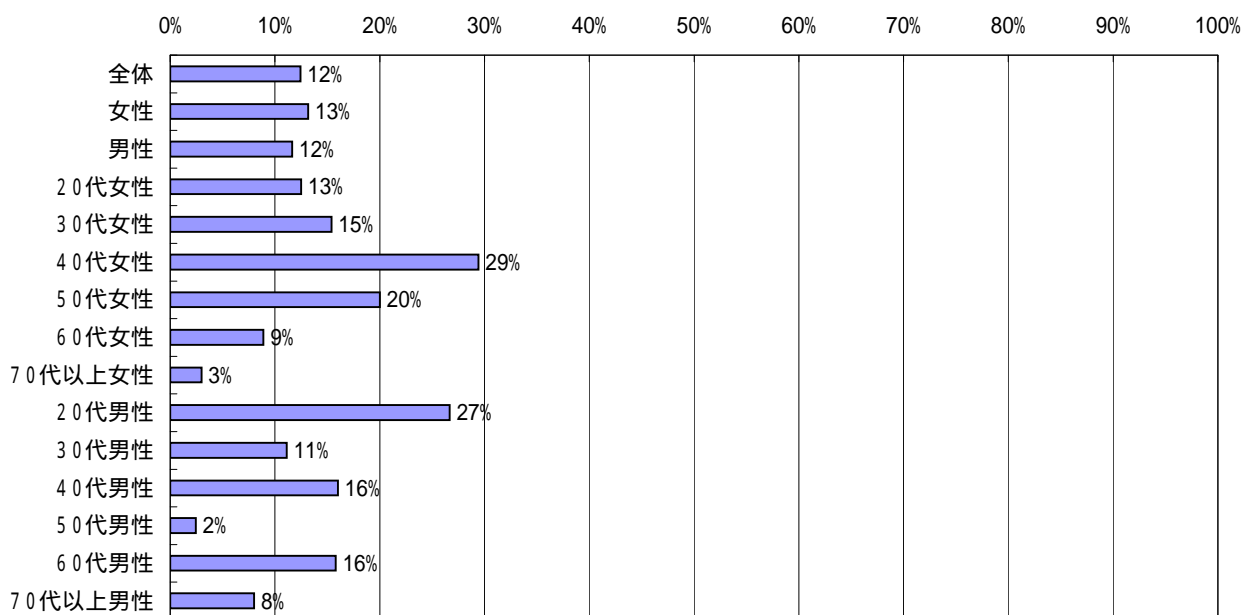
(10) 子育て中のフレックスタイム勤務

安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思うかについて、「子育て中のフレックスタイム勤務」と回答した人は12%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、40代女性(29%)で割合が高く、50代男性(2%)で低くなっている。

(10) 子育て中のフレックスタイム勤務



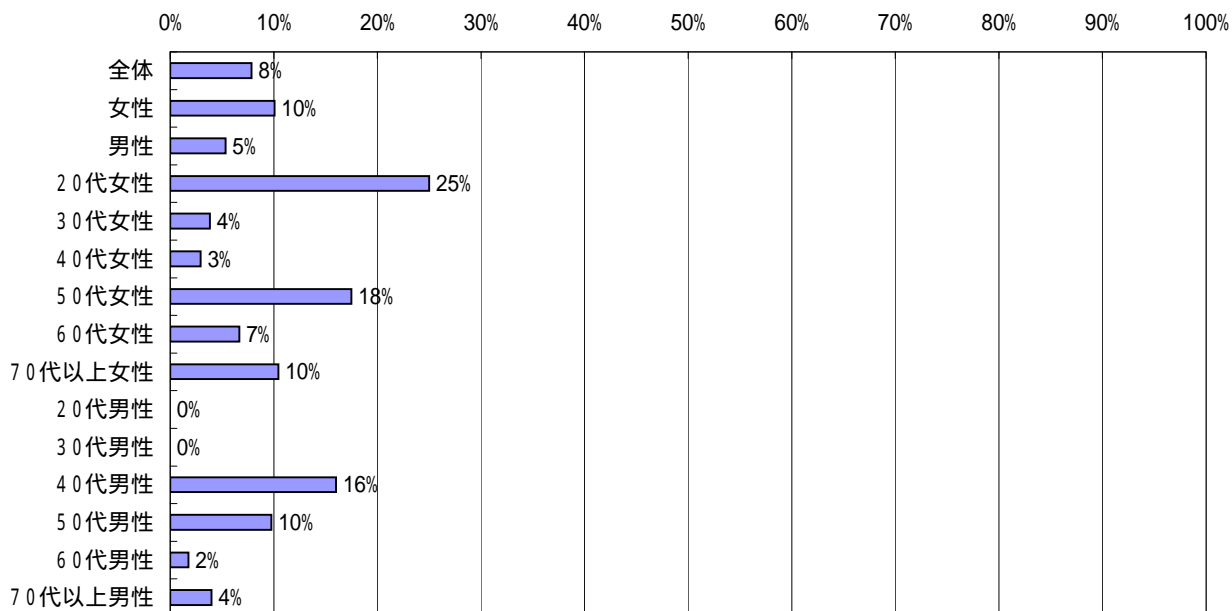
(1 1) 出産・育児の心理的負担を軽減するための講座や相談の充実

安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思うかについて、「出産・育児の心理的負担を軽減するための講座や相談の充実」と回答した人は8%となっている。

性別では、女性(10%)が男性(5%)を若干上回っている。

年齢別では、20代女性(25%)で割合が高く、20代・30代男性(0%)で低くなっている。

(11) 出産・育児の心理的負担を軽減するための講座や相談の充実



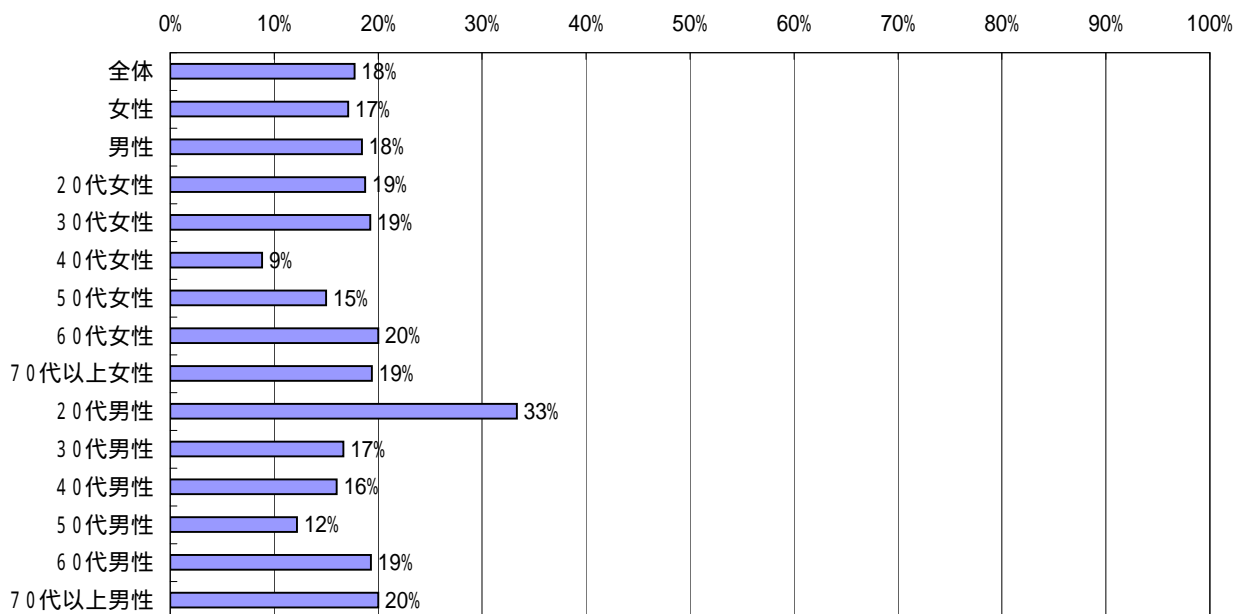
(1 2) 母子家庭、父子家庭の支援

安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思うかについて、「母子家庭、父子家庭の支援」と回答した人は18%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

年齢別では、20代男性(33%)で割合が高く、40代女性(9%)で低くなっている。

(12) 母子家庭、父子家庭の支援



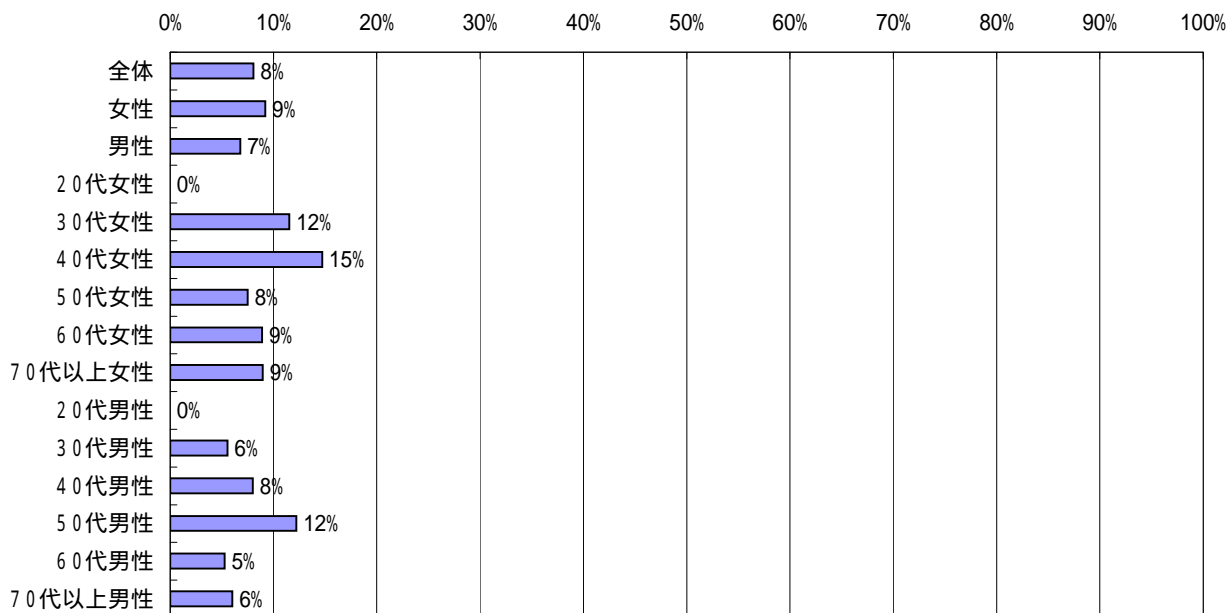
(1 3) 児童館など子どもの遊び場の確保

安心して子どもを産み育てるためにはどんなことが必要だと思うかについて、「児童館など子どもの遊び場の確保」と回答した人は8%となっている。

性別では、大きな差は見られない。

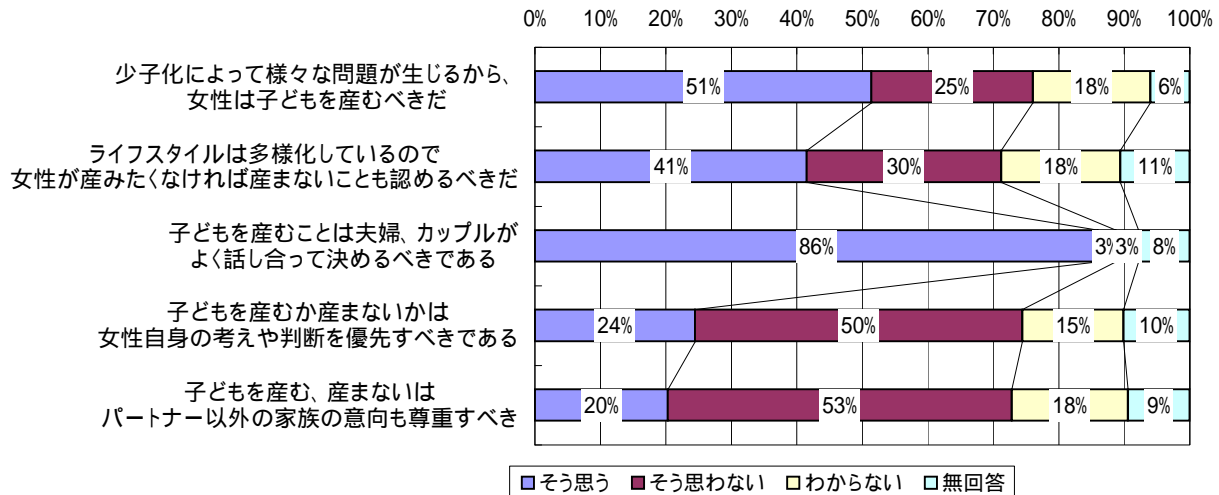
年齢別では、40代女性(15%)で割合が高く、20代女性・男性(0%)で低くなっている。

(13)児童館など子どもの遊び場の確保

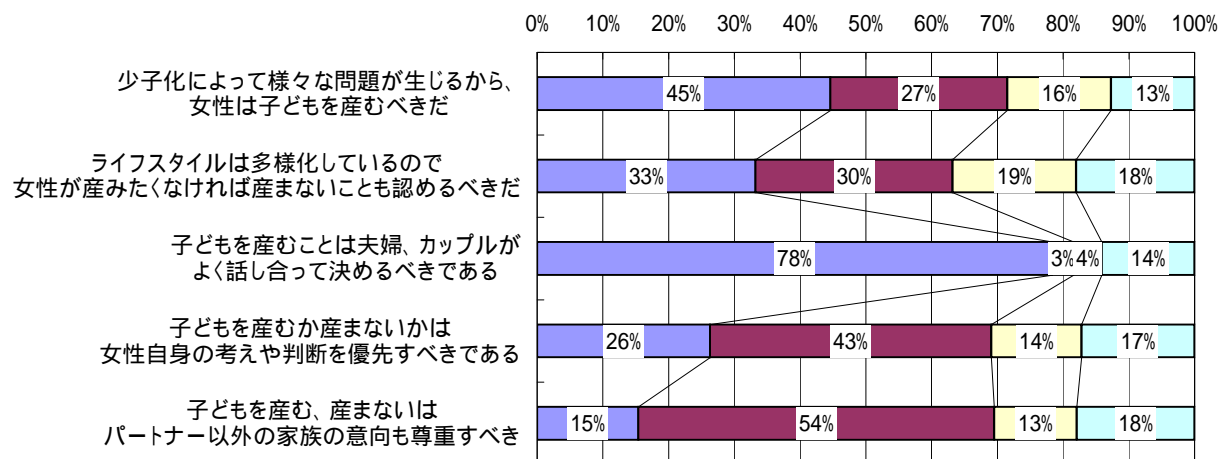


問 女性が子どもを産むことに対する次の意見に、あなたはどのように思いますか。

女性が子どもを産むことに対する意見について、「少子化によって様々な問題が生じるから、女性は子どもを産むべきだ」、「ライフスタイルは多様化しているので女性が産みたくなければ産まないことも認めるべきだ」、「子どもを産むことは夫婦、カップルがよく話し合って決めるべきである」については、「そう思う」が「そう思わない」を上回り、「子どもを産むか産まないかは女性自身の考えや判断を優先すべきである」、「子どもを産む、産まないはパートナー以外の家族の意向も尊重すべき」については、「そう思わない」が「そう思う」を上回っている。



平成17年度調査結果(参考)

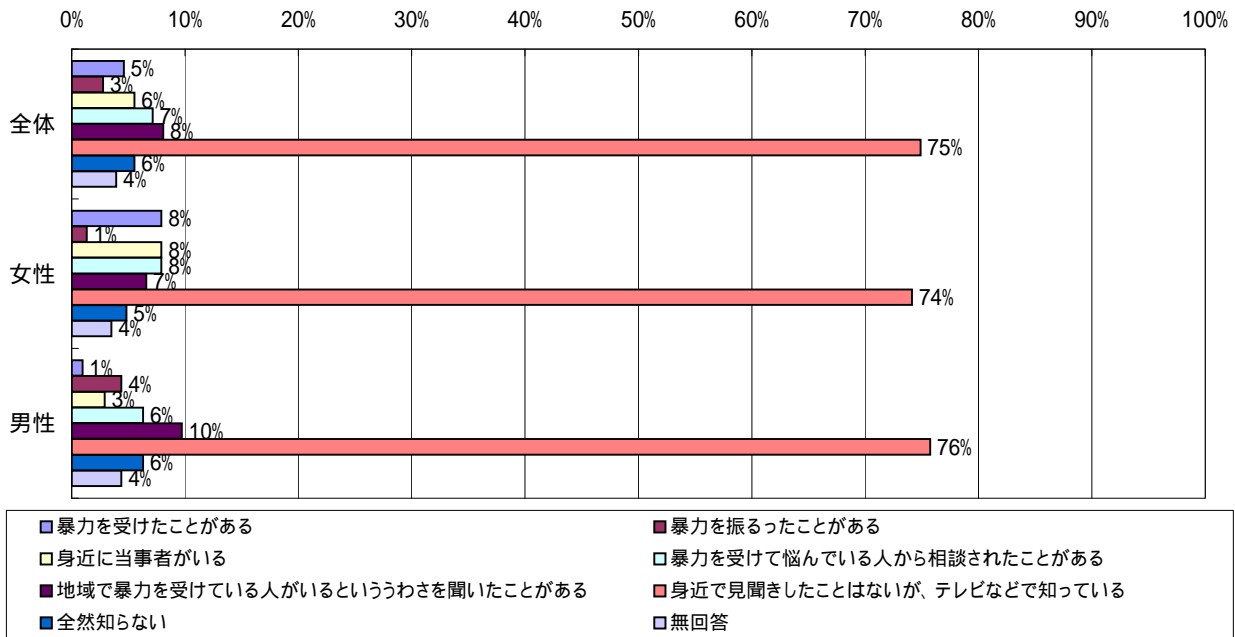


5. 女性の人権について

問 今、DV(ドメスティック・バイオレンス)が問題となっていますが、次の中から、当てはまるものをすべてお答えください。

DV:配偶者・恋人・その他親密な関係にある者からの身体的、精神的又は経済的な暴力

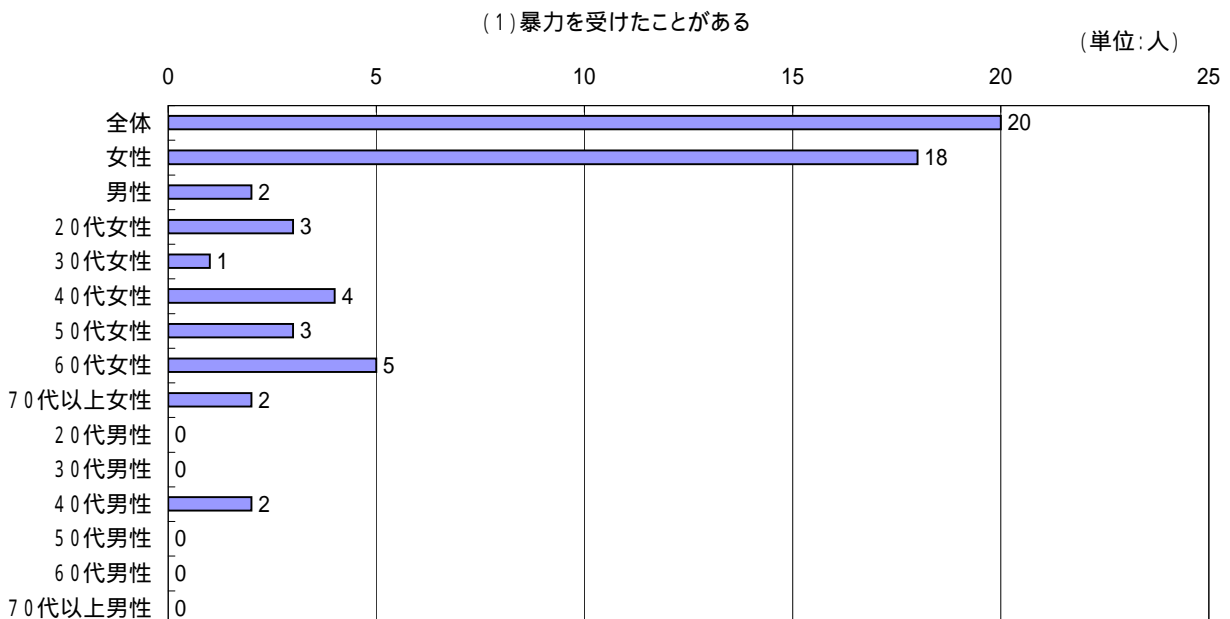
DVについて、全体では「身近で見聞きしたことはないが、テレビなどで知っている」(75%)という回答が7割を超えているが、「暴力を受けたことがある」(5%)、「暴力を振ったことがある」(3%)、「身近に当事者がいる」(6%)、「暴力を受けて悩んでいる人から相談されたことがある」(7%)、「地域で暴力を受けている人がいるというわさを聞いたことがある」(8%)という回答も見られる。



DVについて、「(1)暴力を受けたことがある」と回答した人は20人となっている。

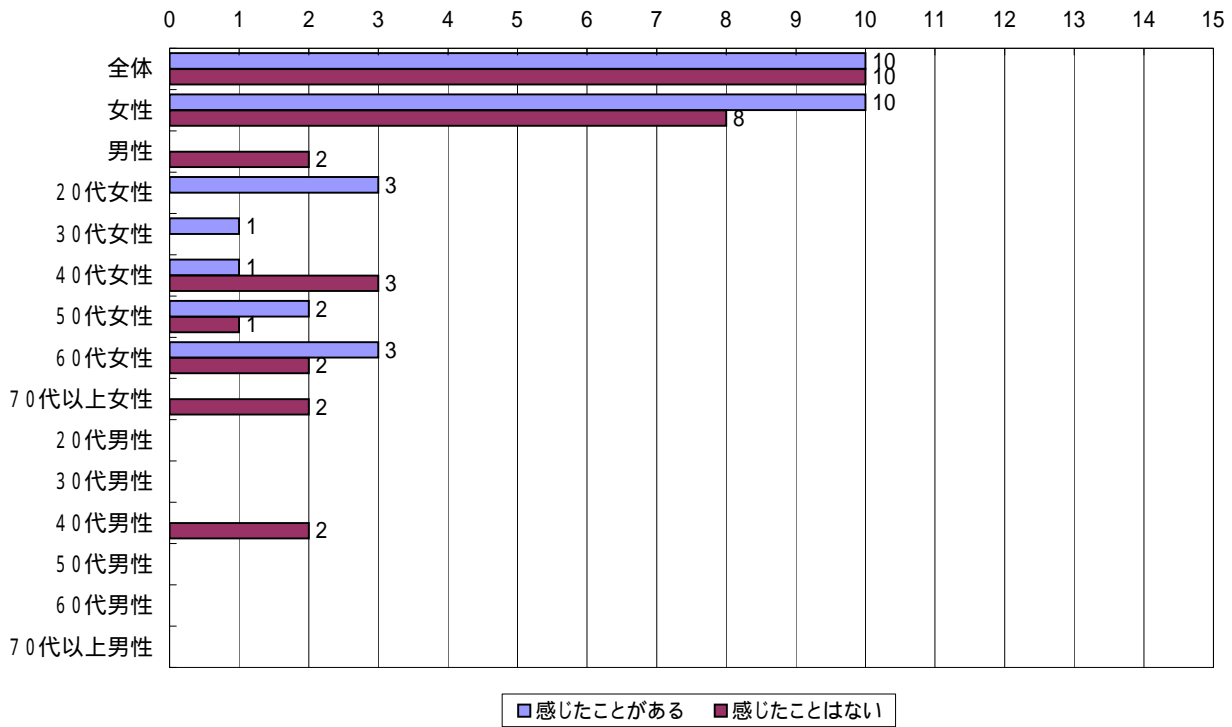
性別では、男性2人、女性18人となっている。

年齢別では、60代女性(5人)が最も多く、次いで40代女性(4人)、20代・50代女性(ともに3人)となっている。



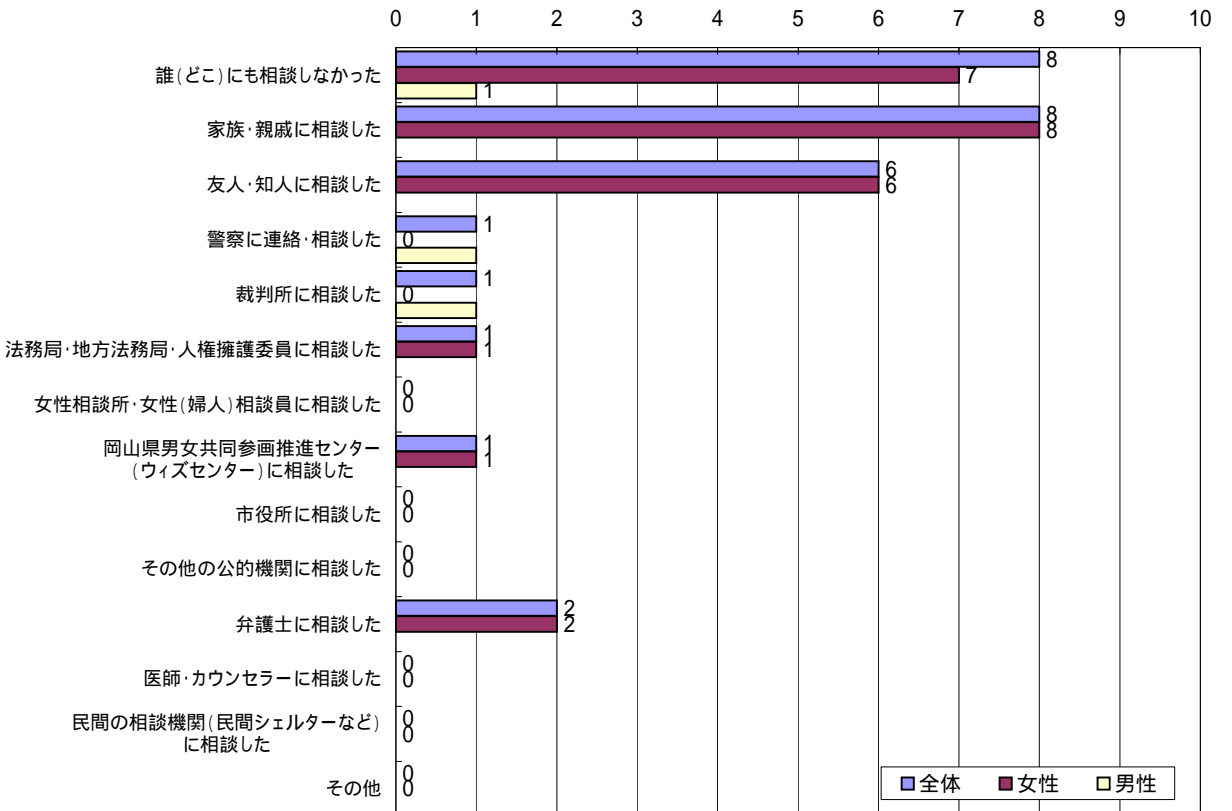
**問 これまでに暴力を受けたことがある方にお聞きします。
あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。**

これまでにDVを受けたことがある方（20人）で、相手の行為によって命の危険を感じたことがあるかについて、「感じたことがある」という回答は、20人のうち10人で、すべて女性となっている。
(単位:人)



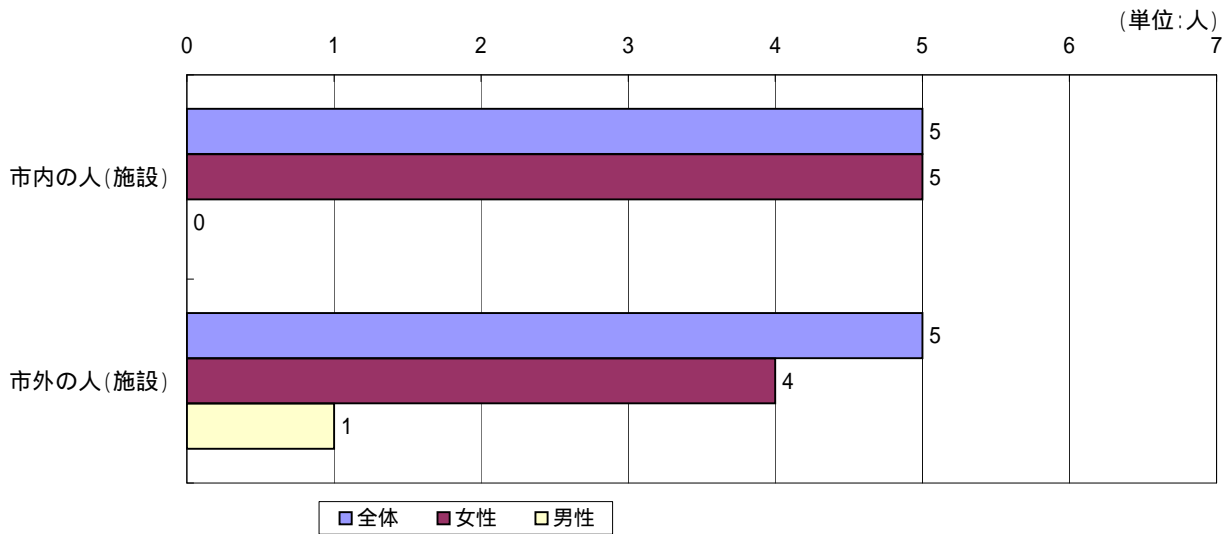
問 あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。

これまでにDVを受けたことがある方（20人）で、その受けた行為について誰かに打ち明けたり相談したかについて、「家族・親戚に相談した」が8名、「友人・知人に相談した」が6人となっている。また、「誰（どこ）にも相談しなかった」が8名となっている。
(単位:人)



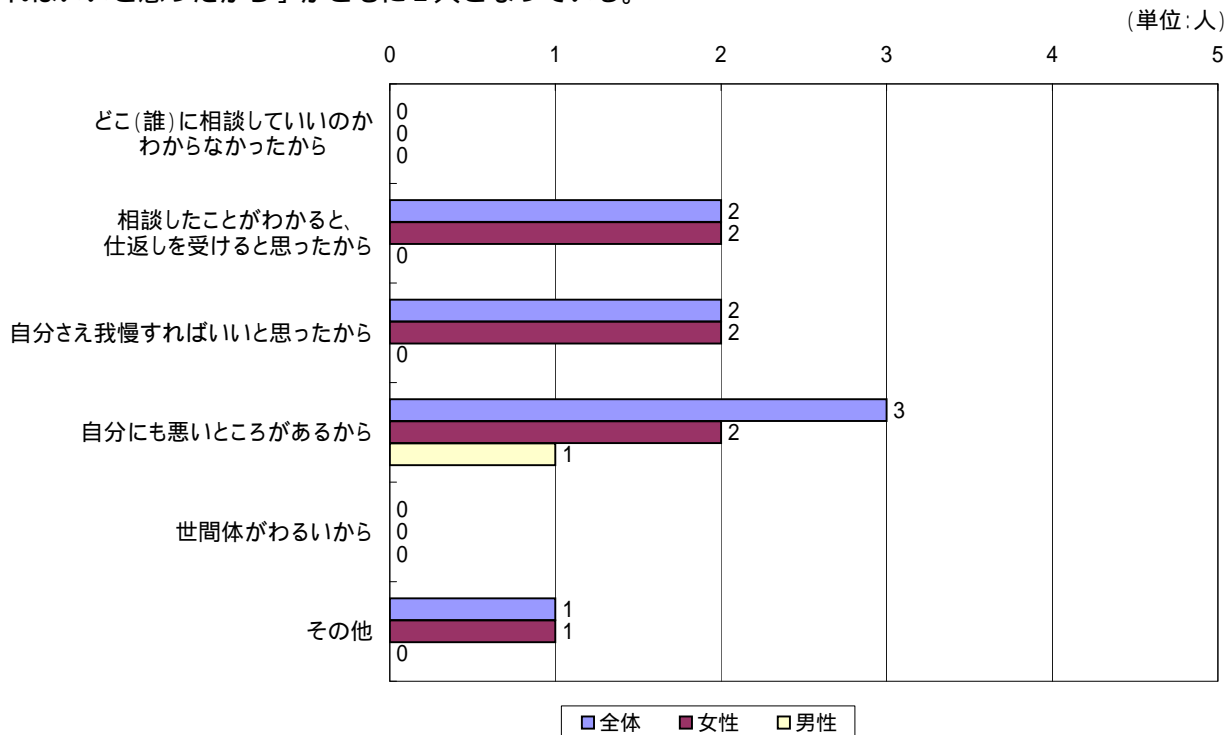
問 これまでに暴力を受けたことがあり、誰かに相談した方にお聞きします。
 相談した相手は市内の人(施設)ですか、市外の人(施設)ですか。

これまでにDVを受けたことがあり、誰かに相談した方(12人)の相談先について、「市内の人(施設)」、「市外の人(施設)」ともに5人となっている。(無回答2人)



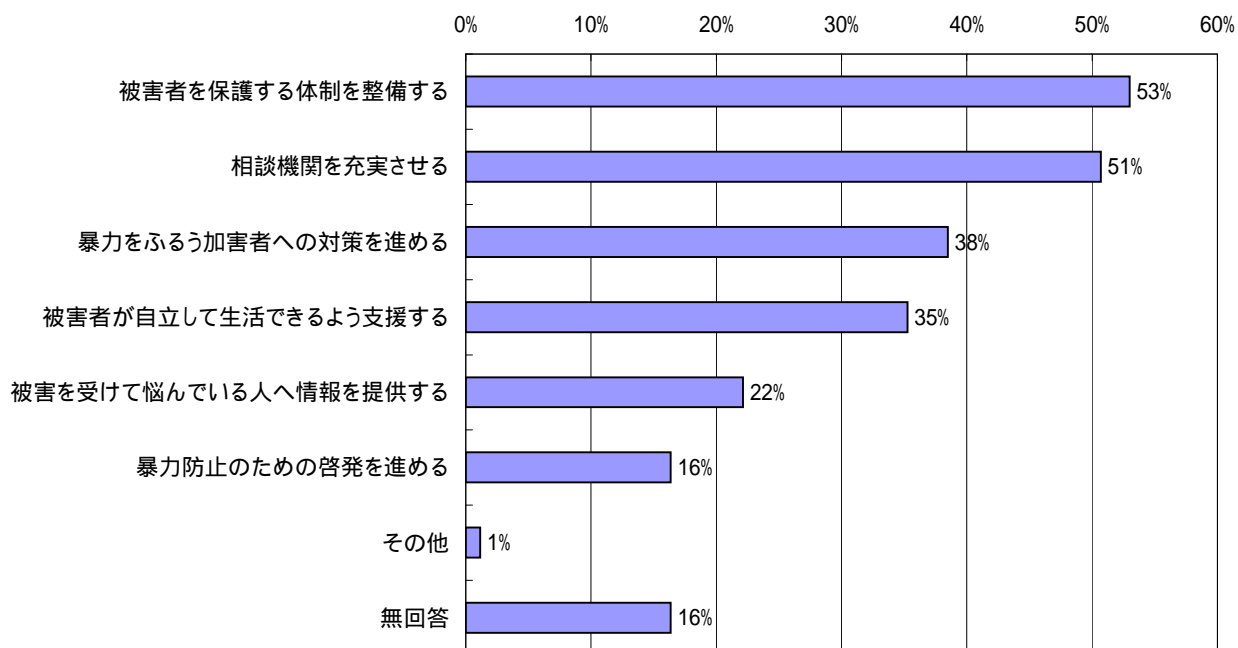
問 これまでに暴力を受けたことがあるが、誰にも相談しなかった方にお聞きします。
 相談しなかった理由は何ですか。

これまでにDVを受けたことがあるが、誰にも相談しなかった(8人)理由について、「自分にも悪いところがあるから」が3人、「相談したことがわかると、仕返しを受けると思ったから」、「自分さえ我慢すればいいと思ったから」がともに2人となっている。



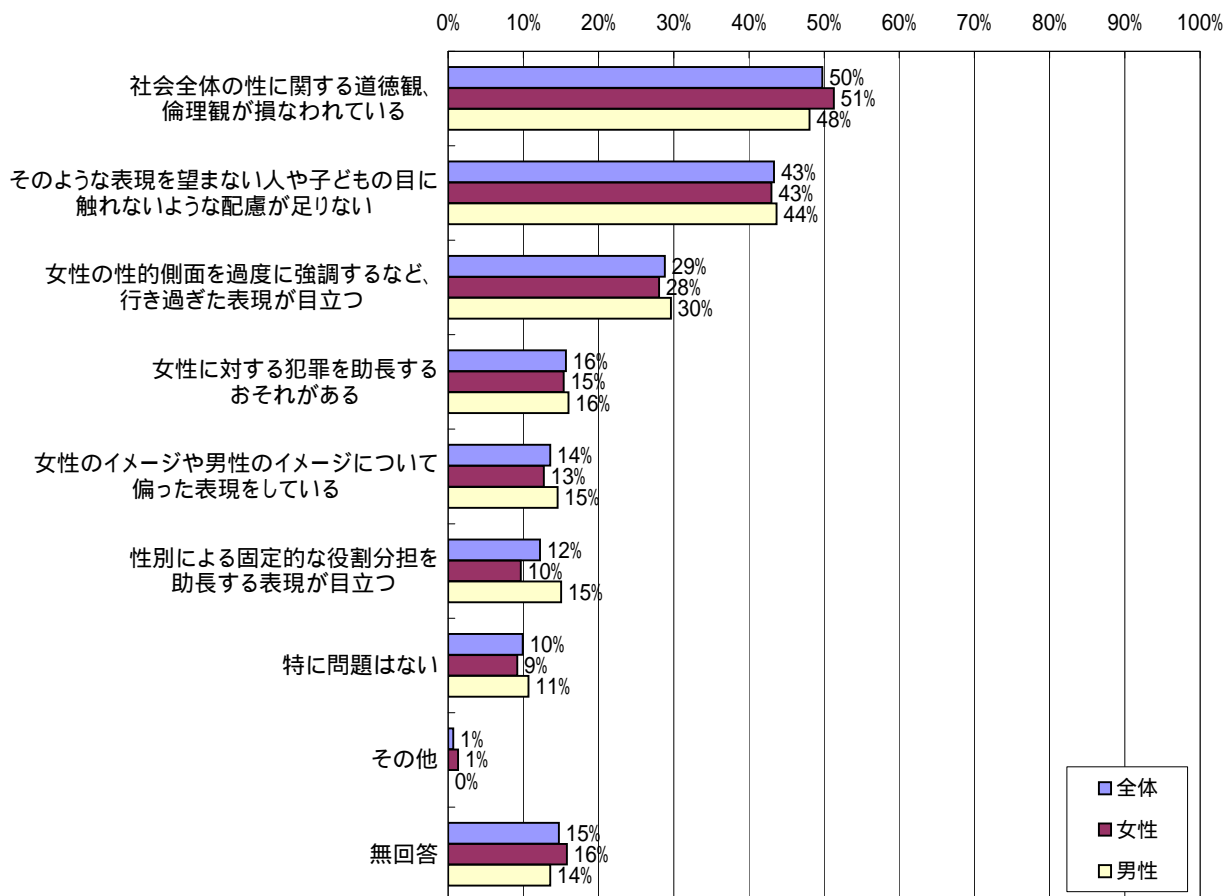
問 配偶者間暴力への取り組みとしてどんなことが必要だと思いますか。

配偶者間暴力への取り組みとして必要なことについて、「被害者を保護する体制を整備する」(53%)、「相談機関を充実させる」(51%)がともに5割を超えている。



問 メディアでの表現について、あなたはどのように考えますか。

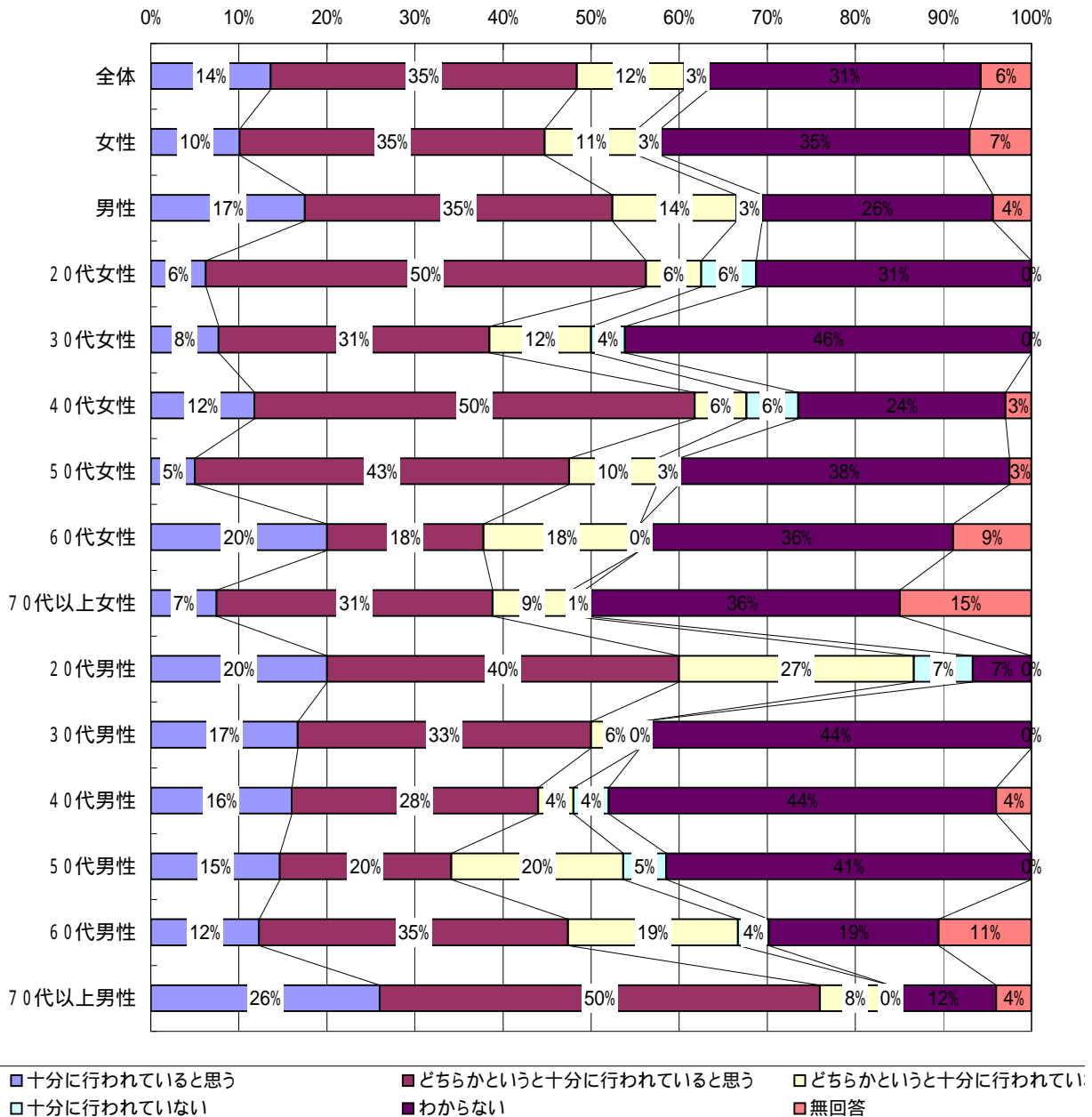
メディアでの表現をどのように考えるかについて、「社会全体の性に関する道德観、倫理観が損なわれている」（50%）が最も割合が高く、次いで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」（43%）となっている。



6. 男女平等教育について

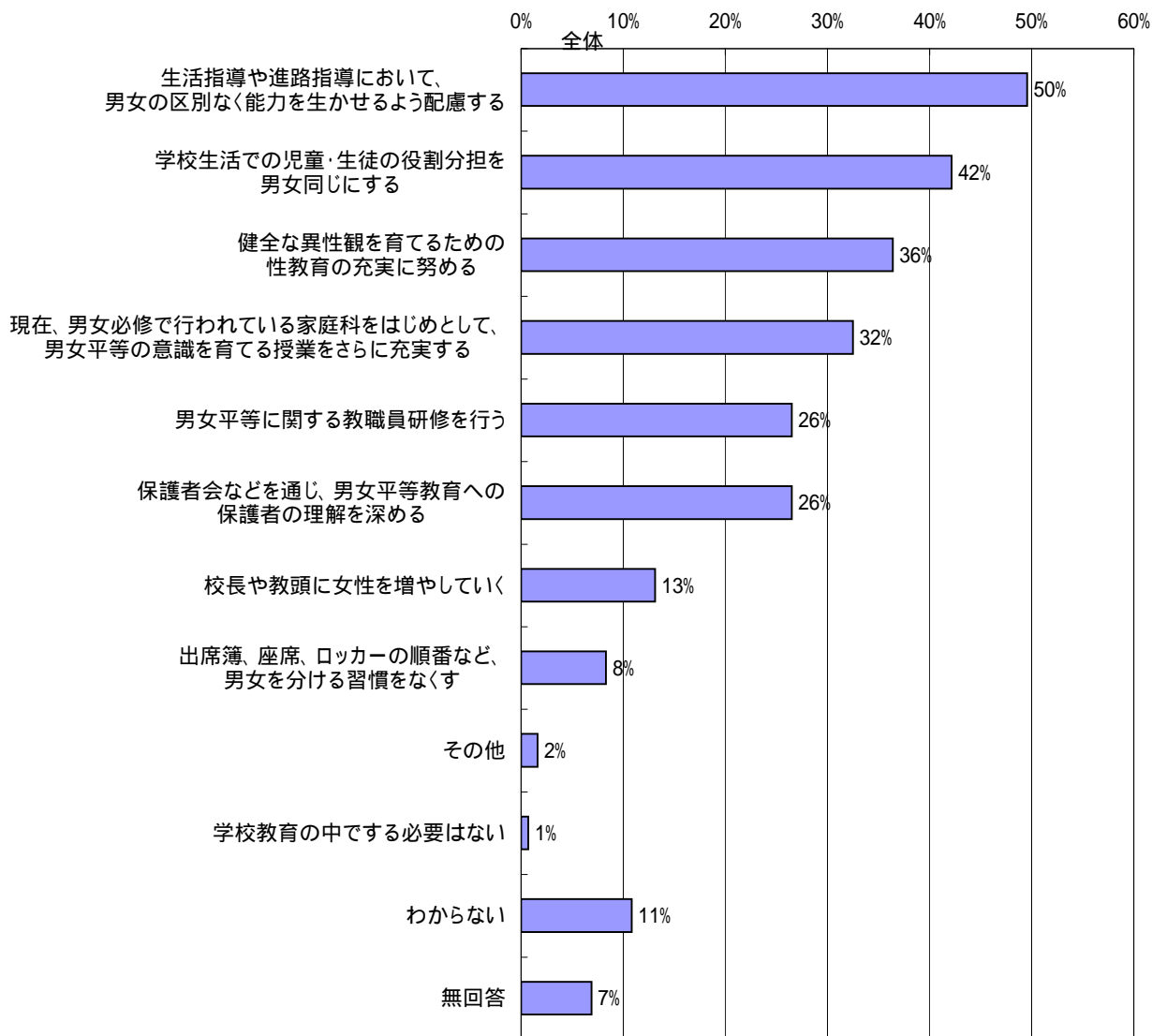
問 あなたは、現在の学校教育における男女平等に関する教育について、どのようにお考えですか。

現在の学校教育における男女平等に関する教育をどのように考えるかについて、全体では「十分に行われていると思う」(14%)と「どちらかという十分に行われていると思う」(35%)をあわせた「十分である」(49%)の割合が約5割となっており、「どちらかという十分に行われていない」(12%)と「十分に行われていない」(3%)をあわせた「不十分」(15%)を大きく上回っている。



問 今後、男女平等を推進していくために、学校、特に小・中・高等学校で行うとよいと思うものは何ですか。

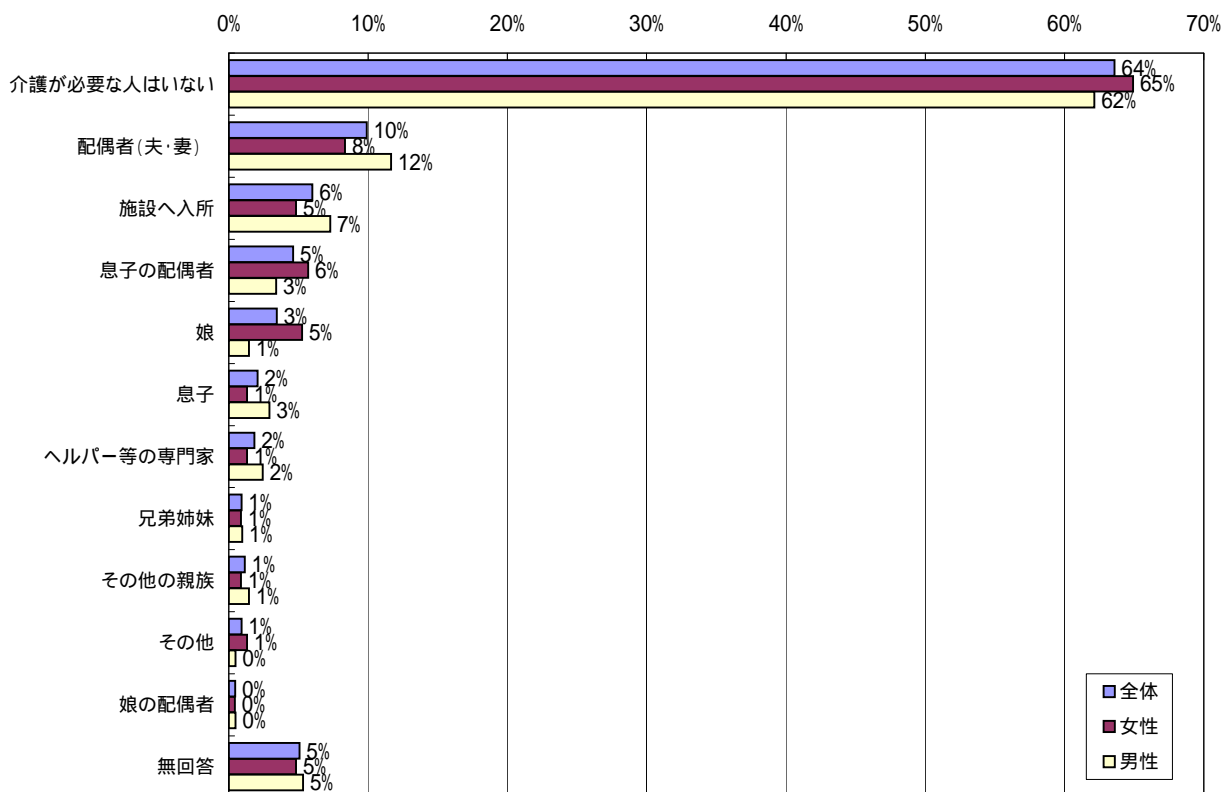
男女平等を推進していくために、学校で行うとよいと思うものについて、全体では「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」(50%)が最も高く、次いで「学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする」(42%)、「健全な異性観を育てるための性教育の充実に努める」(36%)となっている。



7. 介護について

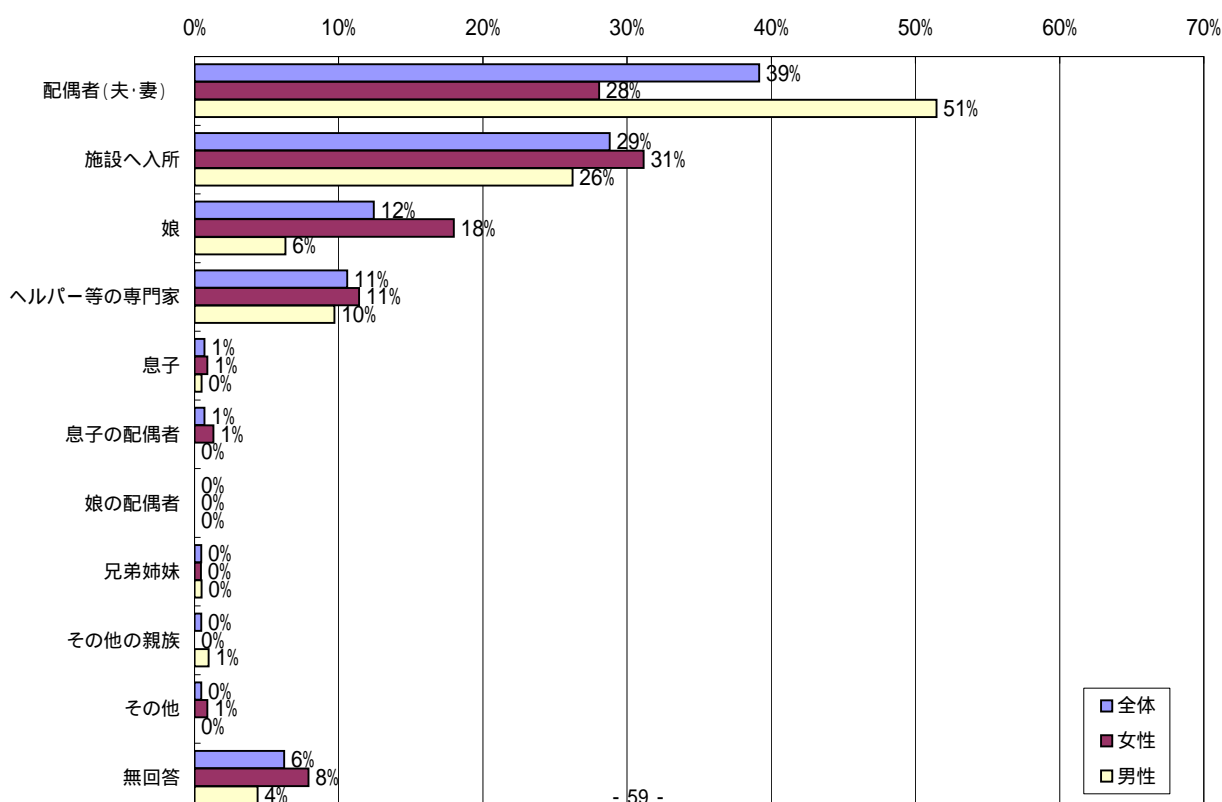
問 現在、あなたの家庭では主に誰が介護をおこなっていますか。

現在、あなたの家庭では主に誰が介護をおこなっているかについて、全体では「介護が必要な人はいない」(64%)が最も高く、次いで「配偶者(夫・妻)」(10%)、「施設へ入所」(6%)となっている。



問 あなた自身に介護が必要になった場合、主に誰に介護してもらいたいと思いますか。

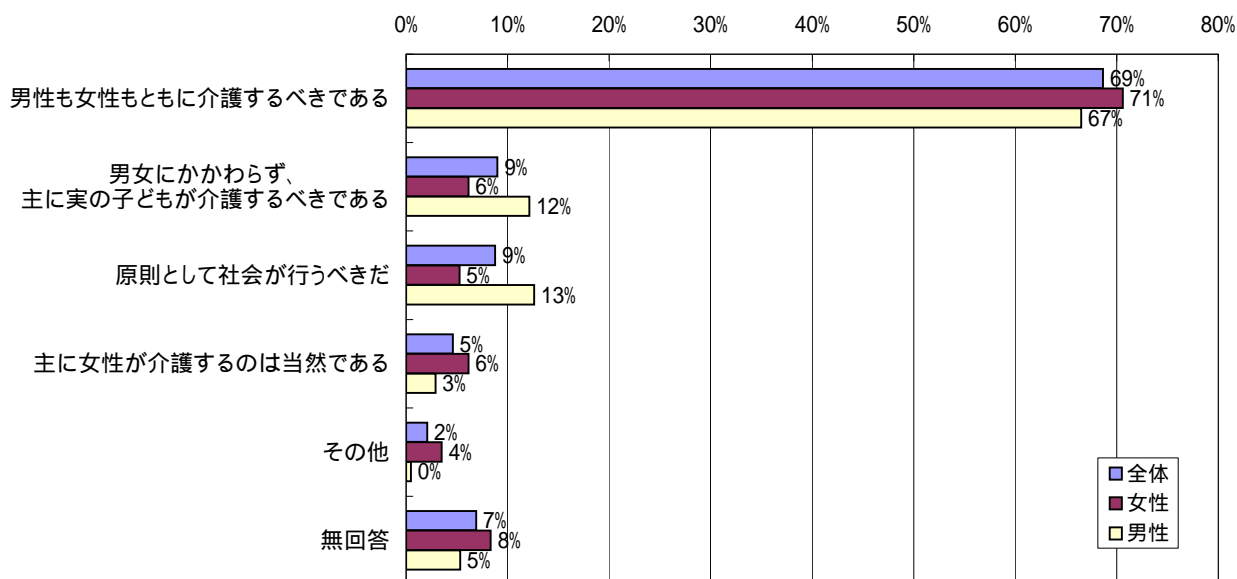
あなた自身に介護が必要になった場合、主に誰に介護してもらいたいと思うかについて、全体では「配偶者(夫・妻)」(39%)が最も高く、次いで「施設へ入所」(29%)、「娘」(12%)となっている。





問 多くの場合、女性が介護を担っていることについて、あなたはどうお考えですか。

多くの場合、女性が介護を担っていることをどう考えるかについて、全体では「男性も女性もともに介護すべきである」（69%）が約7割となっている。



8. 高梁市における男女共同参画の推進について

問 「男女共同参画社会」を形成していくために、高梁市は今後どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。

男女共同参画社会を形成していくために、市は今後どのようなことに力をいれていくべきかについて、全体では「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」(60%)が最も高く、次いで「地域活動や生涯学習で男女共同参画の意識啓発を行う」(42%)、「就労における男女の機会均等や就業環境の充実に向けての働きかけを行う」(37%)となっている。

